

明細書

送風式薬剤放散装置及びそれに用いる薬剤カートリッジ及び薬剤含浸体

5

技術分野

本発明は、殺虫剤、殺ダニ剤、害虫あるいは害獣忌避剤、害虫の成長制御剤、吸血行動阻止剤などの害虫防除剤、芳香剤、消臭剤、殺菌剤などの揮散性を有する薬剤を、送風機の風の力で大気に揮散、拡散させる送風式薬剤放散装置に関する。

10 本発明は、害虫防除成分を保持した薬剤容器に空気を当て、空気とともに害虫防除成分を気中に放散する送風式害虫防除装置（送風式薬剤放散装置）に関する。

本発明は、装置本体内に殺虫、忌避、消臭、芳香、防菌防黴等の目的に供する揮散性の薬剤を収める薬剤容器と送風機とを備えて、送風機により
15 吸込口から空気を吸い込み、薬剤容器より揮散した薬剤を吸い込んだ空気と共に放出口から放散する送風式薬剤放散装置に関する。

本発明は、害虫防除剤、芳香剤、消臭剤、殺菌剤など、揮散性を有する薬剤を保持し、送風式薬剤放散装置等に用いることで薬剤を大気に放散させる薬剤カートリッジに関する。

20 本発明は、害虫防除剤、芳香剤、消臭剤、殺菌剤など、揮散性を有する薬剤を含浸して保持し、送風式薬剤放散装置等に用いることで薬剤を大気に放散させる薬剤含浸体に関する。

背景技術

25 特許公開 2002-291392 号公報に開示された送風式薬剤放散装置が知られている。

この送風式薬剤放散装置は、装置本体内に、送風機と薬剤容器（薬剤カートリッジ）と電源収納体を設けたもので、その送風機はファンとモータを有し、薬剤容器には揮散性の薬剤が収納され、電源収納体には電池が収容されている。

- 5 そして、モータでファンを回転することで薬剤容器に空気を流通して揮散性の薬剤を大気に揮散、拡散する。

前述した従来の送風式薬剤放散装置においては、使用によって揮散性の薬剤の薬効がなくなると共に、電池が寿命となるので、その薬剤容器、電池を交換できるようにしている。

- 10 例えば、電源収納体に電池を着脱自在に収容すると共に、その電源収納体に薬剤容器を着脱自在に取付け、その電源収納体を装置本体に着脱自在に取付けた形態とし、その電源収納体を装置本体から取り外すことで、薬剤容器、電池を交換できるようにしている。

- 15 このために、薬剤容器、電池を交換するために複数の部材を着脱自在に連結しているから、構造が複雑でコストが高いものとなる。

また、装置本体から電源収納体を取り外し、その状態で電源収納体から薬剤容器、電池を取り出して交換するので、その作業が面倒であるし、装置本体と電源収納体が分離するためにどちらか一方を紛失する恐れがある。

- 20 また、装置本体に送風機のモータが設けられているので、このモータと電源収納体に収容した電池をコードで接続できないから、両者を電氣的に接続する構造が複雑である。

また、薬剤容器は、通気性を有する容器内に、薬剤を含浸した粒状の薬剤含浸体を多数収容した形態で、その薬剤容器は厚い。

- 25 このために、装置本体が厚くなってしまう。

また、特開 2001-197856 号公報に開示された送風式の害虫防

除装置が知られている。

この害虫防除装置は、害虫防除成分を保持した薬剤容器とファンとモータを装置本体（チャンバ）内にそれぞれ収納し、その装置本体は吸気口と排気口を有した形態で、前記モータでファンを回転することで吸気口から
5 空気を吸い込み、その空気を薬剤容器に当てて、害虫防除成分とともに排気口から気中に放出することで、害虫防除成分を気中に放散する。

前述した害虫防除装置は、使用者が身につけて屋外等で使用した際にも有効な害虫防除効果が得られるようにするために、装置本体に2つの排気口を上向き、下向きとして形成し、使用者が身につけて使用する際に、害
10 虫防除成分を含んだ空気を上向きの排気口から上方向に排出され、かつ下向きの排気口から下方向に排出されるようにしている。

前述した従来の害虫防除装置は、装置本体に上向きの排気口、下向きの排気口を形成し、使用者の腰につけて使用する際に害虫防除成分を含んだ空気を上方向、下方向にのみ排出することで、使用者の頭部、足元に害虫
15 防除成分が到達するようにしているが、この従来の害虫防除装置のように、ただ単に排気口を上向き、下向きに形成したのみでは、使用者の頭部、足元まで害虫防除成分が到達するのに時間がかかり、使用初期から害虫を防除できない。

また、使用する屋外等の開放空間では、風の流れや使用者の動きによる
20 気流発生などにより、排出される空気流が変動して目的とする方向に放散されず、害虫被害を受けることがある。

また、特開2004-24161号公報に記載のように、送風機により吸込口から空気を吸い込み、薬剤容器より揮散した薬剤を吸い込んだ空気と共に放出口から放散する送風式薬剤放散装置としては、図23、図24
25 に示すように、装置本体241の上面に空気を吸い込むための吸込口242を形成すると共に、その側面に吸い込んだ空気と共に揮散した薬剤を放

散する放出口 2 4 3 を形成する。そして、装置本体 2 4 1 の上面の吸込口 2 4 2 には薬剤を収める薬剤容器 2 4 4 を備え、この薬剤容器 2 4 4 は内部に揮散性の薬剤を収めると共に、上面と下面とに年輪型スリット状の開口部 2 4 5 を形成し、この上面と下面とに形成した開口部 2 4 5 を介して
5 空気が流通するようになっている。さらに、この装置本体 2 4 1 の内部には送風機 2 4 6 を備えると共に、この送風機 2 4 6 の両側に電源となる電池 2 4 7 を収納して、この電池 2 4 7 により送風機 2 4 6 を動かすようにしている。

このように装置本体 2 4 1 を構成することで、電池 2 4 7 により動く内部に備えた送風機 2 4 6 によって、上面に形成する吸込口 2 4 2 から空気を吸い込み、吸い込んだ空気が薬剤容器 2 4 4 内を通過する。そして、薬剤容器 2 4 4 内を通過した空気と共に揮散した薬剤が側面に形成した放出口 2 4 3 から外部に放散するようになっている。

一方、前記装置本体 2 4 1 にあつては、例えば、人の手首等に装着可能
15 にするための着用バンド 2 4 8 を取り付けている。この着用バンド 2 4 8 は柔軟性を有する薄細長形状となり、端部にバックル 2 4 9 を備えたもので、この着用バンド 2 4 8 により使用者の手首等に装置本体 2 4 1 を装着できるようにしている。これにより、当該送風式薬剤放散装置を手首等にはめて使用することができる。

かかる従来の送風式薬剤放散装置にあつては、装置本体に揮散性の薬剤を収める薬剤容器と、この薬剤容器から揮散した薬剤を放出口から外部に放散するための送風機と、さらに一番の重量物となる送風機を動かす電源である電池をそれぞれ備えていた。このため、装置本体は大型化し、かつ重量が重くなり、使用者が装置本体の大型化や重い重量によって、非常に
25 使用しずらくなるといった問題が生じるおそれがあった。特に、使用者が当該送風式薬剤放散装置を手首等にはめて使用する場合、その大型化、重

量感によって不快な思いを感じることがあった。

特許公開 2002-291392 号公報に開示される送風式薬剤放散装置が知られている。

この送風式薬剤放散装置は、装置本体内に、送風機と薬剤容器（薬剤カートリッジ）と電源収納体を設けたもので、その送風機はファンとモータを有し、薬剤容器は通気性を有する容器内に、薬剤を含浸した粒状の薬剤含浸体を多数收容したもので、電源収納体には電池が收容されている。

そして、モータでファンを回転することで容器に空気を流通して薬剤を大気に放散する。

10 前述した従来の薬剤容器は、通気性を有する容器内に薬剤を含浸した粒状の薬剤含浸体を多数收容したもので、その容器が厚く大きなものであるから、薬剤容器が厚い。

このために装置本体内に薬剤容器、送風機、電池などを設けた送風式薬剤放散装置の装置全体が厚くなってしまう。

15 また、前述した薬剤容器は、通気性を有する容器内に薬剤を含浸した粒状の薬剤含浸体を多数收容し、その容器内に空気が流通することで薬剤含浸体に含浸した薬剤を順次大気に放散するもので、その薬剤含浸体に含浸した薬剤が無くなれば、薬剤含浸体を收容したまま容器を廃棄している。

したがって、使用済みの薬剤容器をゴミとして処理するので、昨今の廃棄物問題、省資源問題などの社会的事情の中、好ましくない。

20 特許公開 2001-200239 号公報に開示される薬剤保持体（薬剤含浸体）が知られている。

この薬剤保持体は、撚り糸からなるネットを複数重ね合わせ、そのネットに薬剤を含浸させたものである。

25 上記複数のネットを重ね合わせた薬剤保持体は、薄くすることができるが、複数のネットを重ね合わせただけであるから取り扱いづらく、しかも

その薬剤保持体を手で持った時に薬剤が手に付着することがある。

また、ネットに含浸した薬剤が無くなれば、そのネットを廃棄しているから、前述した薬剤容器と同様にゴミとして処理するので、昨今の廃棄物問題、省資源問題などの社会的事情の中、好ましくない。

- 5 意匠登録第 1 1 7 3 1 5 0 号公報に開示される薬剤容器（薬剤カートリッジ）が知られている。

この薬剤容器は、開口部を有する外筒体と開口部を有する内筒体から構成された容器と、この外筒体と内筒体との間の隙間に薬剤を含浸させた粒状の薬剤含浸体を多数収容したものである。

- 10 この薬剤容器は、粒状の薬剤含浸体を容器内に収容し、その容器内に空気を流通することで薬剤含浸体に含浸した薬剤を大気に放散するものであるから、単位体積当たりの薬剤量が少なく、多量の薬剤を有する薬剤容器とすると、容器が大径となるから、全体が大きくなってしまう。

- 15 このために、送風式薬剤放散装置の装置本体内に大きな薬剤容器の設置スペースが必要となり、装置本体が大型となってしまふ。

特許公開 2 0 0 2 - 2 9 1 3 9 2 に開示された薬剤含浸体は、粒状の担体に薬剤を含浸して保持したもので、通気性を有する容器内に多数の薬剤含浸体を収納して用いている。

- 20 このために、大きな容器が必要となって厚くなるので、送風式薬剤放散装置の装置本体が厚くなってしまふ。

これに対して、シート状の担体に薬剤を含浸して保持したシート状の薬剤含浸体であれば、薄くできるから装置本体を薄くできる。

- 25 しかしながら、前述のシート状の薬剤含浸体は剛性が弱く、それ自体で所定の形状を維持できないので、保持容器によって薬剤含浸体の中央部と外周部と中間部を保持して所定の形状を維持している。

このために、薬剤含浸体の保持容器で保持された保持部分の面積が多く

、しかも、その保持部分には空気が流通しないので、その保持部分に含浸して保持された薬剤を大気に放散できないことがあり、無駄である。

これに対して、特開平 1 1 - 9 2 3 0 3 号公報に開示されているように、ハニカム体に薬剤を含浸して保持した薬剤保持材（薬剤含浸体）が知ら
5 れている。この薬剤保持材は、シート状の薬剤含浸体に比べて剛性も強く、単位体積当たりの薬剤保持量も多い。

しかし、前述した従来のシート状の薬剤含浸体、前述したハニカム体に薬剤を含浸して保持した従来の薬剤保持材は、送風式薬剤放散装置に用いて使用することで、その保持していた薬剤が全て大気に放散されると使用
10 済みとなり、その薬剤保持材をゴミとして処理している。

このように、従来の薬剤含浸体は一度きりの使い捨てタイプで、昨今の廃棄物問題、省資源問題などの社会的事情の中、好ましくない。

このことを解消するために、使用済みの薬剤含浸体に再度薬剤を含浸して保持させることで未使用の薬剤含浸体とし、繰り返して使用できるように
15 にすることが考えられる。

しかし、シート状の薬剤含浸体であれば、使用済みの薬剤含浸体に薬液を滴下して供給することで再度薬剤を含浸して保持することが可能であるが、ハニカム体は多数のコアを有する形状であるから、そのハニカム体に薬剤を再度含浸して保持させるには、大量の薬液を入れた容器内にハニ
20 カム体を浸漬したり、ハニカム体に含浸させる量以上の多量の薬液を流し続けたりすることになるので、多量の薬液が必要となると共に、薬液を処理する専用の設備が必要となる。

このために、連続して複数のハニカム体に薬剤を含浸して保持する場合（例えば、工場での製造時等）には良いが、使用者が使用済みのハニカム
25 体に薬剤を再度含浸して保持させる場合には薬液が無駄となるし、薬液処理設備がないから薬液の処理が大変である。

発明の開示

本発明の第1目的は、薬剤容器、電池を交換できるようにするための構造が単純でコストが安く、その薬剤容器、電池の交換作業が容易で、送風機
5 機のモータと電池を電氣的に簡単に接続でき、しかも全体を薄くできるようにした送風式薬剤放散装置を提供することである。

本発明の第2の目的は、排気口の形状を、空気を所定の方向に勢いよく排出できるようにして、使用者の腰につけて使用する際に、使用者の頭部、足元に害虫防除成分が短時間に到達し、使用初期から害虫を防除できる
10 ようにした送風式害虫防除装置を提供することである。

本発明の第3の目的は、装置本体の小型化や軽量化を図り、実際に使用する際の使用者の不快感等をなくして、快適に使用することのできる送風式薬剤放散装置を提供することである。

本発明の第4の目的は、薄くできるし、所定の形状を維持でき、取り扱いやすく、しかも手で持った時に薬剤が手に付着することがなく、使用後
15 に薬剤を補給して繰り返し使用できる薬剤カートリッジを提供することである。

本発明の第5の目的は、単位体積当たりの薬剤量が多く、全体を小さくできる薬剤カートリッジを提供することである。

20 本発明の第6の目的は、所定の形状に維持できること、含浸して保持した薬剤を有効に大気に放散できること、使用済み後に、使用者が簡単に薬剤を再度含浸して保持できることを満足した薬剤含浸体を提供することである。

本発明による送風式薬剤放散装置は、装置本体と送風機と薬剤容器と電池
25 池を備えた送風式薬剤放散装置において、

前記装置本体は、送風機取付用凹部と通気部と電池収容凹部を有する一

側本体と、通気部を有する他側本体とをヒンジで開閉自在に連結して成り

、
前記送風機は、モータでファンを回転するようにして成り、そのモータ及びファンが前記送風機取付用凹部に取付けられ、

- 5 前記薬剤容器は、送風機と他側本体の通気部との間に設けられ、
前記電池は、前記電池收容凹部内に着脱自在に收容して取付けてあり、
前記一側本体の送風機取付用凹部と電池收容凹部は平面方向に離隔して厚さ方向には重ならないようにし、

- 薬剤容器は、シート状の担体に薬剤を含浸させた薬剤含浸体を含むこと
10 を特徴とする。

本発明の送風式薬剤放散装置によれば、一側本体に対して他側本体をヒンジを中心として開放することで、その一側本体に取付けた薬剤容器及び電池を取り出したり、再び取付けたりすることができ、その薬剤容器及び電池を交換できるようにするための構造が単純でコストが安い。

- 15 また、他側本体を開放すれば薬剤容器及び電池を交換できるので、その交換作業が容易であるし、その交換作業時に一側本体と他側本体がヒンジで連結されているから、それらを紛失することもない。

- しかも、送風機のモータと電池が一側本体に取付けてあるから、それらをコードで接続することが可能であり、モータと電池を電氣的に簡単に接続
20 できる。

また、薬剤容器の厚さが薄いと共に、その薬剤容器と電池が厚さ方向に重なり合うことがなく、装置全体を薄くすることができる。

- 上記送風式薬剤放散装置において装置本体は、吊り下げ具のフックに係止するフック係止部と、その吊り下げ具の嵌合部が嵌合する吊り下げ具取
25 付用の穴とを有する。

この構成によれば、吊り下げ具を用いて吊り下げて使用できるし、床や

テーブル等に立てかけて使用することができる。

本発明による送風式害虫防除装置は、吸気口と第1排気口、第2排気口を有する装置本体と、

この装置本体に設けた薬剤容器、ファン、モータとを備え、

5 前記薬剤容器は害虫防除成分を含浸させた薬剤含浸体を保持し、

前記モータでファンを回転することで吸気口より空気を吸い込み、その空気を薬剤容器内の薬剤含浸体に当てて第1排気口、第2排気口より害虫防除成分を気中に排出する送風式害虫防除装置において、

10 前記第1排気口、第2排気口は、半径方向に所定の長さで、かつファンの回転方向に対して傾斜した孔形状で、装置本体を使用者の身につけて使用する際に第1排気口から上方向に空気を排出し、第2排気口より下方向に空気を排出するようにしたことを特徴とする。

本発明の送風式害虫防除装置によれば、モータによってファンを回転することで害虫防除成分を含有した空気が第1・第2排気口から勢いよく気中に排出されるので、装置本体を使用者の腰につけて使用する際に、害虫防除成分を含有した空気が使用者の頭部、足元に向けて勢いよく排出され、害虫防除成分が使用者の頭部、足元に短時間に到達する。

よって、使用者が腰につけて使用する際に、使用初期から害虫を防除できる。

20 上記送風式害虫防除装置において、第1排気口、第2排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面及び、内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開口縁を連続する下流側案内面はファンの回転方向に対して
25 傾斜している。

この構成によれば、第1・第2排気口の上流側案内面、下流側案内面が

ファンの回転方向に傾斜しているので、害虫防除成分を含有した空気を勢いよく、しかもスムーズに排出できる。

上記送風式害虫防除装置において、装置本体は、第1・第2排気口とファン収容室を有する本体部の厚さ方向一側部に、吸気口を有するカバー部
5 を着脱自在に取付け、その本体部とカバー部の間にファン収容室に開口した薬剤収容室を有する形状で、

前記本体部に、そのカバー部と反対側の背面に開口したモータ収容室と電池収容室を形成し、

前記モータ収容室にモータを設けると共に、電池収容室に電池を設け、
10 このモータと電池が本体部の厚さ方向に重なり合うことがないようにしてある。

この構成によれば、カバー部を外すことで薬剤容器を交換できる。

また、モータと電池が本体部の厚さ方向に重なり合うことがないので、装置本体の厚さを小さくできる。

15 上記送風式害虫防除装置において、装置本体に、害虫防除成分とともに空気を気中に放出する第3排気口を形成し、

この第3排気口は、半径方向に所定の長さで、かつファンの回転方向に対して傾斜した孔形状で、装置本体を使用者の身につけて使用する際に、斜め上方向又は斜め下方向に空気を排出するようにしている。

20 この構成によれば、第3排気口から害虫防除成分を含有した空気を斜め上方向又は斜め下方向に排出するので、使用者の頭部又は足元のいずれか一方に他方よりも多量の害虫防除成分を放出できる。

上記送風式害虫防除装置において、第3排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内
25 側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面、及び内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開

口縁を連続する下流側案内面は、ファンの回転方向に対して傾斜している。

この構成によれば、第3排気口から害虫防除成分を含有した空気を勢いよく、しかもスムーズに排出できる。

- 5 上記送風式害虫防除装置において、装置本体に、その装置本体を使用者の身につけて使用する際に横方向に空気を排出する補助排気口を形成し、上方向及び下方向を含めた全方向に空気を排出するようにしている。

この構成によれば、使用者の身につけて使用する際に、その使用者の全体に害虫防除成分を放出できる。

- 10 上記送風式害虫防除装置において、補助排気口は、第1・第2排気口又は第1・第2・第3排気口よりも空気流通抵抗が大きい。

この構成によれば、装置本体を使用者の腰につけて使用する際に、補助排気口から腰の横方向に害虫防除成分を含有した空気を勢いが弱く排出されるので、使用者の腰の横方向の害虫防除成分を十分なものにできるし、

- 15 、頭部、足元へも十分な害虫防除成分を放出できる。

上記送風式害虫防除装置において、補助排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面、及び内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開口縁を連続する下流側案内面が、ファンの回転方向に傾斜した孔形状で、

- 20 この補助排気口のファンの回転方向の開口寸法は、第1・第2排気口又は第1・第2・第3排気口のファンの回転方向の開口寸法よりも小さい。

この構成によれば、第1・第2排気口又は第1・第2・第3排気口からの空気の排出を確実に勢いよくできると共に、補助排気口からの空気の排出を確実に勢いが弱いものにできる。

- 25

本発明による送風式薬剤放散装置は、揮散性の薬剤を収める薬剤容器と

送風機とを備えて、送風機により吸込口から空気を吸い込み、薬剤容器より揮散した薬剤を吸い込んだ空気と共に放出口から放散する装置本体と、装置本体とは別体となり、装置本体の送風機を動かす電源である電池を備える電源本体と、電源本体の電池から装置本体の送風機に通電するために

5 装置本体と電源本体とにわたって連結する連結コードと、からを構成する。

本発明の送風式薬剤放散装置によれば、送風式薬剤放散装置を、装置本体と、電源本体と、連結コードとから構成することにより、一番の重量物となる電池を備える電源本体を装置本体と別体にする事ができ、装置本体の小型化、軽量化を図ることにより、例えば、使用者が当該送風式薬剤放散装置の装置本体を手首等にはめて、電源本体をズボンや服のポケット等にしまっ

10 て使用する場合、装置本体の小型化、軽量化により不快な思いを感じることなく、極めて快適に使用することができる。

上記送風式薬剤放散装置において、連結コードを装置本体及び／又は電源本体に対して取り外し可能にする。

15

この構成によれば、装置本体又は電源本体に対して連結コードを取り外し可能にしたことにより、当該送風式薬剤放散装置における装置本体及び／又は電源本体を被装着物に装着した後に装置本体又は電源本体に連結コードを連結すれば良く、装置本体あるいは電源本体の被装着物への装着

20 が非常に簡単に行うことができる。

上記送風式薬剤放散装置において、装置本体に被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付ける。

上記送風式薬剤放散装置において、電源本体に被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付ける。

25 上記送風式薬剤放散装置において、連結コードに被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付ける。

これらの構成によれば、装置本体又は電源本体又は連結コード、さらにはそれらの複数に被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付けたことにより、当該送風式薬剤放散装置を被装着物に容易に装着することができる。

- 5 本発明による薬剤カートリッジは、シート状で通気性と吸液性を有すると共に、薬剤を含浸した薬剤含浸体と、

この薬剤含浸体を保持する保持容器を有し、

前記保持容器は、薬剤含浸体の上下面を挟持して保持する保持部と、空気が流通する空気流通部を備え、

- 10 前記保持部と薬剤含浸体との間に空間部が形成され、この空間部は保持部に形成した通気部で外部に開口していることを特徴とする。

本発明の薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体がシート状で薄く、この薬剤含浸体を保持容器で保持して薬剤カートリッジとしたので、薬剤カートリッジを薄くできるし、その薬剤含浸体を所定形状に維持でき、しか

- 15 も手で持った時に手に薬剤が付着することがない。

また、薬剤含浸体の、保持容器の保持部で保持された被保持部分に直接空気が流通しないが、その被保持部分に含浸した薬剤は空間部に揮散し、その空間部を流通する空気とともに外部に放出されて大気に放散される。

- したがって、薬剤含浸体の被保持部分に含浸した薬剤を大気に放散できるから、薬剤が無駄にならない。

上記薬剤カートリッジにおいて、保持部の薬剤含浸体の下面と接する部分に凹部を形成し、この凹部と薬剤含浸体の下面との間に空間部を形成し

前記保持部における薬剤含浸体の上面に接する部分に通気孔を、前記凹部と対向して形成することで通気部とする。

- 25 この構成によれば、液状の薬剤を通気孔から凹部に注入して溜めることが可能であるので、使用後に、液状の薬剤を通気孔から凹部に供給して溜

めることで、その溜まった液状の薬剤が薬剤含浸体に順次含浸されるから、薬剤含浸体に薬剤が含浸された未使用状態の薬剤カートリッジとすることができる。

本発明による薬剤カートリッジは、シート状で通気性と吸液性を有する
5 と共に、薬剤を含浸した薬剤含浸体と、

容器本体と蓋体で前記薬剤含浸体を保持する保持容器を備え、

前記容器本体は、中央保持部と外周保持部を複数の中間保持部で連結して空気流通部を形成し、その中央保持部と外周保持部と中間保持部の少なくとも1つの上面に凹部を形成し、この凹部と薬剤含浸体の下面で空間部
10 を形成し、

前記蓋体は、中央押え部と外周押え部を複数の中間押え部で連結して空気流通部を形成し、その中央押え部と外周押え部と中間押え部の少なくとも1つに、前記凹部と対向した通気孔が形成され、

前記容器本体と蓋体は着脱自在に嵌合して連結されると共に、前記容器
15 本体の空気流通部と蓋体の空気流通部に亘って空気が流通するようにしたことを特徴とする。

この薬剤カートリッジによれば、上記薬剤カートリッジと同様に、薬剤カートリッジを薄くできるし、その薬剤含浸体を所定形状で維持でき、しかも手で持った時に手に薬剤が付着することがない。

20 また、中央保持部、外周保持部、中間保持部と中央押え部、外周押え部と中間押え部によって薬剤含浸体の中央部分、外周部分、中間部分を保持しているから、薄い薬剤含浸体をしっかりと保持することができ、その薄い薬剤含浸体を用いた薬剤カートリッジの取り扱い、保管等が容易である。

25 しかも、前述の少なくとも1つの保持部と押え部で保持された被保持部分に含浸した薬剤は凹部に揮散し、その凹部を流通する空気とともに大気

に放散されるから、その薬剤が無駄になることがない。

また、使用後には液状の薬剤を通気孔から凹部に注入して溜めることで、その薬剤が薬剤含浸体に含浸され、薬剤含浸体に薬剤が含浸された未使用状態の薬剤カートリッジとすることができる。

- 5 上記薬剤カートリッジにおいて、容器本体の中央保持部に凹部を形成し、外周保持部に環状の凹部を形成する。

この構成によれば、外周保持部に環状の凹部を形成したので薬剤含浸体の外周縁の全周から均一に薬剤が含浸し、全域に亘って薬剤を均一に含浸させることができる。

- 10 上記薬剤カートリッジにおいて、中央保持部と中央押え部、外周保持部と外周押え部、中間保持部と中間押え部相互がそれぞれ同一形状、大きさで、空気流通部が同一形状、大きさとなるようにする。

この構成によれば、容器本体の空気流通部と蓋体の空気流通部に亘って空気がスムーズに流通するので、薬剤含浸体に含浸した薬剤を効率良く、

- 15 スムーズに大気に放散することが可能である。

本発明による薬剤カートリッジは、通気性と吸液性を有するシート体に薬剤を含浸したシート形状の薬剤含浸体と、この薬剤含浸体を保持する保持容器を備え、

- 20 その保持容器の中央部に液溜め凹部を有し、この液溜め凹部に溜めた薬剤がシート体の外周部に向けて浸透するようにした薬剤カートリッジである。

- この薬剤カートリッジによれば、使用によって薬剤含浸体に含浸した薬剤が全て大気に放散された使用後に、保持容器の中央部の液溜め凹部に薬剤を供給して溜めることで、その薬剤が外周部に向けて浸透してシート体の全体に亘って含浸する。
- 25

したがって、使用後に薬剤を補給して繰り返し使用できる。

また、液溜め凹部は保持容器の中央部に形成してあるから、送風式薬剤放散装置に取付けて使用する際に、その液溜め凹部によってファンの風量が無駄となることなく、ファンの風量を有効利用して薬剤を大気に効率良く放散できる。

- 5 また、シート形状の薬剤含浸体を保持容器で保持しているから、薄くすることができる。

しかも、シート形状の薬剤含浸体を所定の形状に維持できると共に、手で持った時に薬剤が手に付着することがない。

- 10 上記薬剤カートリッジにおいて、保持容器の外周部に液溜め凹部を有し、この液溜め凹部に溜めた薬液がシート体の中央部に向けて浸透するようにする。

- 15 この構成によれば、中央部の液溜め凹部に溜めた薬液が外周部に向けて浸透し、外周部の液溜め凹部に溜めた薬液が中央部に向けて浸透するので、大きな薬剤含浸体であっても薬剤を全体に渡って補給することができる。

上記薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体を保持する保持容器は、容器本体と蓋体を備え、

前記容器本体は、中央支持部と外周支持部を複数の連結部で連結して空気流通部を有し、

- 20 前記蓋体は、中央押え部と外周押え部を複数の連結部で連結して空気流通部を有し、

前記中央支持部に形成した凹部と前記中央押え部に形成した供給口で中央部の液溜め凹部とし、

- 25 前記外周支持部に形成した外周凹部と前記外周押え部に形成した外周供給口で外周部の液溜め凹部としている。

この構成によれば、薬剤含浸体の中央部と外周部を容器本体と蓋体で保

持するから、薄い薬剤含浸体をしっかりと保持することができ、その薄い薬剤含浸体を用いた薬剤カートリッジの取り扱い、保管等が容易である。

本発明による薬剤カートリッジは、シート形状の薬剤含浸体と、この薬剤含浸体を保持した保持容器を備え、

- 5 前記薬剤含浸体は、シート状で吸液性と通気性を有し、かつ一部分に高吸液部を有した担体に、薬剤を含浸して保持したシート形状であることを特徴とする。

この薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体がシート形状であるから薄くでき、その薬剤含浸体を保持容器で保持しているから取り扱い易い。

- 10 また、送風式薬剤放散装置の装置本体にセットして使用し、その薬剤を大気に放散した使用後には、その薬剤含浸体の担体の高吸液部に薬剤を供給して含浸して保持することで、その高吸液部に保持した薬液が順次担体の全域に浸透するから、使用後に薬剤を補給して繰り返し使用できる。

- しかも、担体の一部分の高吸液部に、一度に多量の薬剤を含浸して保持
15 させることで、その高吸液部から担体の全域に薬剤を順次浸透するから、担体の全体に渡って薬液が均一に含浸することになり、担体の全体に薬剤が均一に含浸して保持した薬剤含浸体とすることができる。

上記薬剤カートリッジにおいて、担体の一部分を、他の部分よりも厚くして高吸液部とした薬剤カートリッジである。

- 20 この構成によれば、高吸液部が他の部分よりも厚く、その上面が他の部分よりも高くなるので、薬液を補給する際に、その高吸液部の位置を目視確認できる。

- 本発明による薬剤カートリッジは、通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状
25 で、かつ扁平な加工シート材に薬剤を含浸して保持し、その加工シート材の周縁部を接合してひだ形状がくずれないように保持した薬剤含浸体を

備えていることを特徴とする。

この薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体の単位体積あたりに保持している薬剤の量が多く、全体を小さくできる。

特に、多量の薬剤を保持した薬剤カートリッジを薄くすることができる

5 。

また、加工シート材の端面部分が接合されてひだ形状がくずれないように保持しているので、加工シート材の全域に亘って空気がほぼ均一に流通するから、薬剤含浸体の全域からほぼ均一に薬剤を放散できる。

上記薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体の周縁部を固定具で保持す
10 る。

上記薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体を、空気流通部を有する容器内に設ける。

これらの構成によれば、固定具、容器を手で持って取り扱うことができ、その薬剤カートリッジの取り扱いが容易であるし、薬剤含浸体が保持し
15 ている薬剤が手に付着することがない。

本発明による薬剤カートリッジは、通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状で、かつ扁平な加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

この加工シート材の周縁部を挟持し押しつぶしてひだ形状がくずれな
20 いように保持した固定具を備えていることを特徴とする。

この薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体の単位体積あたりに保持している薬剤の量が多く、全体を小さくできる。

特に、多量の薬剤を保持した薬剤カートリッジを薄くすることができる

。

25 また、加工シート材の端面部分を固定具で押しつぶしてひだ形状がくずれないように保持しているので、加工シート材の全域に亘って空気がほぼ

均一に流通するから、薬剤含浸体の全域からほぼ均一に薬剤を放散できる。
。

また、固定具を手で持って取り扱いでき、その薬剤カートリッジの取り扱いが容易であるし、薬剤が手に付着することがない。

- 5 しかも、固定具によって加工シート材の周縁部を挟持することで端面部分を押しつぶして保持しているから、その加工シート材の周縁部を別に接合する必要がなく、簡単に製作できる。

本発明による薬剤カートリッジは、通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状
10 で、かつ扁平な加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

空気流通部を有する容器を備え、

前記薬剤含浸体を容器内に設けたことを特徴とする。

この薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体の単位体積あたりに保持している薬剤の量が多く、全体を小さくできる。

- 15 特に、多量の薬剤を保持した薬剤カートリッジを薄くすることができる。

また、容器を手で持って取り扱えるから、薬剤カートリッジの取り扱いが容易であると共に、薬剤が手に付着することがない。

本発明による薬剤カートリッジは、通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状
20 で、かつ筒形状の加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

環状の中空部と軸心の中空部を有すると共に、その各中空部に空気が流通する形状の容器を備え、

前記薬剤含浸体を容器の環状の中空部内に設けたことを特徴とする。

- 25 この薬剤カートリッジによれば、薬剤含浸体の単位体積あたりに保持している薬剤の量が多く、全体を小さくできる。

特に、多量の薬剤を保持した薬剤カートリッジを小径にできる。

また、容器を手で持って取り扱いできるから、取り扱いが容易であると共に、薬剤が手に付着することがない。

上記薬剤カートリッジによれば、加工シート材が吸液性を有するので、
5 使い切った後に薬液を加工シート材に補給して全体に浸透させることができるので、繰り返して使用できる。

本発明による薬剤含浸体は、厚さ方向の一側面と他側面に開口した多数のコアを有し、その厚さ方向に空気が流通するようにしたハニカム体と、
前記ハニカム体の厚さ方向における少なくとも一方の側面の全面に渡
10 って設けたシート体とから成り、

そのハニカム体とシート体に薬剤が含浸して保持してあることを特徴とする。

本発明の薬剤含浸体によれば、シート体をハニカム体で補強して所定の形状に維持できる。

15 また、ハニカム体には空気がスムーズに流通するから、シート体を補強するハニカム体によってシート体に空気が流通することを阻害することがなく、そのハニカム体、シート体に含浸して保持した薬剤を有効に大気に放散できる。

また、ハニカム体、シート体に保持した薬剤が無くなった場合には、シート体に薬液を提供して全域に浸透させることで、ハニカム体に順次含浸
20 させることができる。

したがって、シート体に薬液を供給するだけの簡単な作業で、かつその薬液が無駄になることもなく、使用後のハニカム体、シート体に使用者が簡単に薬剤を再度含浸して保持できる。

25 上記薬剤含浸体において、ハニカム体とシート体を保持容器で保持してハニカム体の側面とシート体を密着する。

この構成によれば、ハニカム体の側面とシート体が密着するから、シート体に浸透した薬液がハニカム体に確実に含浸し、使用済みのハニカム体に薬剤を確実に含浸して保持できる。

- 上記薬剤含浸体において、シート体を支持する支持部を有する容器本体
5 と、この容器本体に嵌合した押え体で保持容器とし、
前記支持部と押え体でハニカム体とシート体を挟持して密着する。

この構成によれば、容器本体の支持部にシート体を支持し、その容器本体と押え体を嵌合して連結することで、ハニカム体の一方の側面とシート体を確実に密着できる。

- 10 上記薬剤含浸体において、容器本体の支持部に、シート体と対向した薬液溜め部と、この薬液溜め部に薬液を供給する注入口を形成している。

この構成によれば、注入口から薬液溜め部に薬液を供給して溜めることで、溜まった薬液がシート体の全域に浸透するから、ハニカム体に薬液を供給する作業がやり易い。

15

図面の簡単な説明

図 1 は、本発明の第 1 の実施形態である送風式薬剤放散装置の閉じ状態の斜視図である。

図 2 は、図 1 の縦断面図である。

- 20 図 3 は、図 1 の背面図である。

図 4 は、本発明の第 1 の実施形態である送風式薬剤放散装置の開き状態の斜視図である。

図 5 は、吊り下げ使用状態の斜視図である。

図 6 は、設置使用状態の側面図である。

- 25 図 7 は、本発明の第 2 の実施形態である送風式害虫防除装置の縦断面図である。

図 8 は、図 7 のⅧ－Ⅷ線に沿う断面図である。

図 9 は、図 7 の右側面図である。

図 10 は、吊り具の斜視図である。

図 11 は、薬剤容器の分解斜視図である。

- 5 図 12 は、上記送風式害虫防除装置の第 1 変形例を示す排気口部分の断面図である。

図 13 は、上記送風式害虫防除装置の第 2 変形例を示す排気口部分の断面図である。

- 10 図 14 は、本発明による第 3 の実施形態である送風式薬剤放散装置の斜視図である。

図 15 は、上記送風式薬剤放散装置の側面断面図である。

図 16 は、上記送風式薬剤放散装置の平面断面図である。

図 17 は、上記送風式薬剤放散装置の薬剤容器の分解斜視図である。

- 15 図 18 は、本発明による送風式薬剤放散装置の別の装着手段を示す斜視図である。

図 19 は、本発明による送風式薬剤放散装置の一使用例を示す説明図である。

図 20 は、本発明による送風式薬剤放散装置の装置本体と電源本体の別例を示す説明図である。

- 20 図 21 は、本発明による送風式薬剤放散装置の他の使用例を示す説明図である。

図 22 は、本発明による送風式薬剤放散装置の更に他の使用例を示す説明図である。

図 23 は、従来の送風式薬剤放散装置の斜視図である。

- 25 図 24 は、上記従来の送風式薬剤放散装置の側面断面図である。

図 25 は、本発明の第 4 の実施形態である薬剤カートリッジを用いる送

風式薬剤放散装置の断面図である。

図 2 6 は、本発明の第 4 の実施形態である薬剤カートリッジの平面図である。

図 2 7 は、図 2 6 の X X VII—X X VII 線に沿う断面図である。

5 図 2 8 は、容器本体の平面図である。

図 2 9 は、図 2 8 の X X IX—X X IX 線に沿う断面図である。

図 3 0 は、蓋体の平面図である。

図 3 1 は、上記薬剤カートリッジの分解斜視図である。

図 3 2 は、上記薬剤カートリッジの変形例を示す平面図である。

10 図 3 3 は、上記薬剤カートリッジの変形例の断面図である。

図 3 4 は、本発明の第 5 の実施形態である薬剤カートリッジを用いる送風式薬剤放散装置の断面図である。

図 3 5 は、本発明の第 5 の実施形態である薬剤カートリッジの分解斜視図である。

15 図 3 6 は、上記薬剤カートリッジの第 1 変形例を示す平面図である。

図 3 7 は、図 3 6 の X X X VII—X X X VII 線に沿う断面図である。

図 3 8 は、上記薬剤カートリッジの第 2 変形例を示す平面図である。

図 3 9 は、図 3 8 の X X X IX—X X X IX 線に沿う断面図である。

図 4 0 は、上記の薬剤カートリッジの第 3 変形例を示す平面図である。

20 図 4 1 は、図 4 0 の X L I—X L I 線に沿う断面図である。

図 4 2 は、上記薬剤カートリッジの第 4 変形例を示す平面図である。

図 4 3 は、図 4 2 の X L III—X L III 線に沿う断面図である。

図 4 4 は、本発明の第 6 の実施形態である薬剤カートリッジを用いる送風式薬剤放散装置の断面図である。

25 図 4 5 は、本発明の第 6 の実施形態である薬剤カートリッジの断面図である。

図 4 6 は、上記薬剤カートリッジの分解斜視図である。

図 4 7 A 及び 4 7 B は、それぞれ上記薬剤カートリッジの第 1 変形例を示す平面図及び断面図である。

図 4 8 A 及び 4 8 B は、それぞれ上記薬剤カートリッジの第 2 変形例を示す平面図及び断面図である。

図 4 9 は、上記薬剤カートリッジの第 3 変形例を示す平面図である。

図 5 0 は、上記薬剤カートリッジの第 4 変形例を示す平面図である。

図 5 1 は、上記薬剤カートリッジの第 5 変形例を示す断面図である。

図 5 2 は、本発明の第 7 の実施形態である薬剤カートリッジを用いる送風式薬剤放散装置の一例を示す断面図である。

図 5 3 は、本発明の第 7 の実施形態である薬剤カートリッジの分解斜視図である。

図 5 4 は、上記薬剤カートリッジの平面図である。

図 5 5 は、図 5 4 の L V - L V 線に沿う断面図である。

図 5 6 は、図 5 4 の L VI - L VI 線に沿う断面図である。

図 5 7 は、上記薬剤カートリッジの第 1 変形例を示す断面図である。

図 5 8 は、固定具の他の例を示す平面図である。

図 5 9 は、図 5 8 の L IX - L IX 線に沿う断面図である。

図 6 0 は、異なる形状の薬剤含浸体を備えた薬剤カートリッジの分解斜視図である。

図 6 1 は、上記薬剤カートリッジの第 2 変形例を示す断面図である。

図 6 2 は、上記薬剤カートリッジの第 3 変形例を示す断面図である。

図 6 3 は、上記薬剤カートリッジの第 4 変形例の一部破断正面図である。

図 6 4 は、上記第 4 変形例を用いる装置本体と容器の断面図である。

図 6 5 は、本発明の第 8 実施形態である薬剤含浸体を用いた送風式薬剤放散装置の断面図である。

図 6 6 は、上記薬剤含浸体を含む薬剤カートリッジの第 1 変形例を示す底面図である。

図 6 7 は、上記第 1 変形例の平面図である。

図 6 8 は、図 6 7 の L X V I I I - L X V I I I 線に沿う断面図である。

- 5 図 6 9 は、上記薬剤含浸体を含む薬剤カートリッジの第 2 変形例を示す平面図である。

図 7 0 は、図 6 9 の L X X - L X X 線に沿う断面図である。

図 7 1 は、上記薬剤含浸体を含む薬剤カートリッジの第 3 変形例を示す平面図である。

- 10 図 7 2 は、図 7 1 の L X X I I - L X X I I 線に沿う断面図である。

図 7 3 は、上記薬剤含浸体を含む薬剤カートリッジの第 4 変形例を示す平面図である。

図 7 4 は、図 7 3 の L X X I V - L X X I V 線に沿う断面図である。

15 発明を実施するための最良の形態

最初に、本発明の第 1 の実施形態について説明する。

図 1 ～図 4 に示すように、装置本体 1 と、この装置本体 1 内に設けた送風機 2、薬剤容器(薬剤カートリッジ) 3、電池 4 等で送風式薬剤放散装置を構成している。

- 20 前記装置本体 1 は一側本体 1 0 と他側本体 1 1 をヒンジ 1 2 で開閉自在に連結してある。

前記一側本体 1 0 は、平面大きさに比べて厚さ寸法が著しく小さい、つまり薄い板状で、送風機取付用凹部 1 3 と、この送付機取付用凹部 1 3 に開口した通気部 1 4 と、電池收容凹部 1 5 を有し、その送風機取付用凹部

- 25 1 3 と電池收容凹部 1 5 は一側本体 1 0 の内側面 1 0 a にそれぞれ開口していると共に、平面方向に離隔して厚さ方向に重ならないようにしてあ

る。前記通気部 1 4 は送風機取付用凹部 1 3 を一側本体 1 0 の外表面 1 0 b に開口している。

前記他側本体 1 1 は、平面大きさに比べて厚さ寸法が著しく小さい、つまり薄い板状で、前記送風機取付用凹部 1 3 と電池收容凹部 1 5 をそれぞれ閉塞する閉じ姿勢と、前記各凹部を開放する開き姿勢に開閉自在で、前記一側本体 1 0 の送風機取付用凹部 1 3 と対向した部分に通気部 1 6 を有する。

前記送風機 2 は、ファン 2 0 とモータ 2 1 を備え、そのファン 2 0 とモータ 2 1 が一側本体 1 0 の送風機取付用凹部 1 3 内に收容して取付けられ、他側本体 1 1 を閉じ姿勢としモータ 2 1 でファン 2 0 を回転すると一側本体 1 0 の通気部 1 4 と他側本体 1 1 の通気部 1 6 に亘って空気が流通するようにしてある。

例えば、他側本体 1 1 の通気部 1 6 から空気を吸い込み、その空気を一側本体 1 0 の通気部 1 4 より大気に吐出する。なお、この逆であっても良い。

前記薬剤容器 3 は、シート状の担体に薬剤を含浸した薬剤含浸体を含むもので、前記一側本体 1 0 の内側面 1 0 a における送風機取付用凹部 1 3 の開口縁に載置され、他側本体 1 1 を閉じ姿勢とすると他側本体 1 1 の内側面 1 1 a で保持される。

前記電池 4 は一側本体 1 0 の電池收容凹部 1 5 に着脱自在に取付けられる。

このようであるから、一側本体 1 0 に対して他側本体 1 1 を開き姿勢とすることで、薬剤容器 3、電池 4 を取り出したり、取り付けたりして交換できる。

また、一側本体 1 0 に対して他側本体 1 1 を閉じ姿勢とし、モータ 2 1 でファン 2 0 を回転することで、薬剤容器 3 の薬剤含浸体に空気が流通し

て空気とともに薬剤を大気に放散できる。

また、装置本体 1 は、平面大きさに比べて厚さ寸法が著しく小さい、つまり薄い板状である。また、平面大きさはファン 20、電池 4 の平面大きさよりも若干大きい程度、つまり、装置本体 1 の内部にファン 20、電池 4 を収容する以外の平面方向スペース（無駄な平面方向のスペース）がない平面大きさである。

よって、装置本体 1 が薄型でコンパクトになり、送風式薬剤放散装置が薄型でコンパクトにすることができる。

したがって、取り扱いが容易である。また、製造用の金型が小型となるし、製造するための原材料が少なくなつて製造コストを安くできる。

具体的には、前記装置本体 1 の平面形状は、ほぼ円形の一側部 1 a と、ほぼ矩形状の他側部 1 b と、この一側部 1 a と他側部 1 b を連結する中間部 1 c によって全体がほぼ矩形で、かつ一側部がほぼ円形である。

前記一側部 1 a の平面大きさはファン 20 の外径よりも若干大きく、他側部 1 b は電池 4 の平面大きさよりも若干大きく、中間部は平面で一對の三角形状であつて、装置本体 1 の内部に平面方向の無駄なスペースが無いようにしてある。

前記装置本体 1 の表面形状は凹部と凸部を有して美的にアクセントのある全体形状で、使用者に視覚的にアピールする形態としてある。

つまり、従来の装置本体 1 の表面形状は凹凸の無い滑らかに連続した形状で、使用者に視覚的にアピールできない形状であつた。

前記通気部 1 4 は装置本体 1 の一側部 1 a だけではなく中間部 1 c の両側面にも形成され、薬剤を多方向に向けて放散できる。

次に、各部材の具体形状を説明する。

前記一側本体 1 0 は、外殻 1 7 と内殻 1 8 と内面板 1 9 を有し、その外殻 1 7 は表面板 1 7 a と、その表面板 1 7 a に沿って設けた側面板 1 7 b

で皿形状で、その側面板 17 b に通気用切欠部 50 が形成されていると共に、第 1 係止受部 51 と第 2 係止受部 52 が形成されている。

前記内殻 18 は基板 18 a と、その基板 18 a に設けた側面板 18 b を有し、前記外殻 17 内に嵌め込んで取付けられる。

- 5 前記基板 18 a には外殻 17 の表面板 17 a に向かって開口した凹部 53 が形成してあり、その凹部 53 に前記モータ 21 が収容して取付けてあり、その出力軸 21 a が基板 18 a を貫通して突出し、かつファン 20 が取付けてある。そのファン 20 はシロッコファンとしてあるが、プロペラファンなどでも良い。

- 10 前記側面板 18 b には複数の送風ガイド 54 が設けてあると共に、前記第 1 係止受部 51 に係止する係止部 55 が設けてある。

前記内面板 19 は環状凹陥部 56 と、円形孔 57 を有すると共に、係止部 58 を有し、その係止部 58 を前記外殻 17 の第 2 係止受部 52 に係合することで取付けられて前記ファン 20 を覆う。

- 15 前述のようであるから、内殻 18 の凹部 53 にモータ 21 を収容して取付けた状態で、その内殻 18 を外殻 17 内に嵌合して取付け、この後にファン 20 を取付け、その後に内面板 19 を取付けることで一側本体 10 に送風機 2 を取付けできるから、その組立作業が容易であると共に、モータ 21 が外殻 17 によって外部から目視されずに外観の見栄えが良い。

- 20 また、外殻 17 と内殻 18 で電池収容凹部 15 を形成している。

前記他側本体 11 は表面板 11 b と、その表面板 11 b に設けた側面板 11 c で皿形状で、その側面板 11 c に設けた係止部 59 が内殻 18 の係止部 55 に係合すると共に、表面板 11 b における円形突起部 11 d に通気部 16、例えば複数のスリットが形成してある。

- 25 前記一側本体 10 の外殻 17 の側面板 17 b の平面方向中間部と他側本体 11 の側面板 11 c の平面方向中間部（つまり、装置本体 1 の中間部

1 c を形成する部分) には図 1 に示すように切欠部 1 7 c, 1 1 e が対向して形成され、その切欠部 1 7 c, 1 1 e で通気部 1 4 を形成している。

前記薬剤容器 3 は、一側面が開口した円形容器 3 0 と、この円形容器 3 0 内に設けた円板形の薬剤含浸体 3 1 と、前記円形容器 3 0 内に嵌合した
5 円形の蓋 3 2 を備え、円形容器 3 0、蓋 3 2 は通気部 3 0 a, 3 2 a を有する。

前記薬剤含浸体 3 1 はシート状の担体に薬剤を含浸させた円板形状のものである。

前記円形容器 3 0 が内面板 1 9 の円形凹陷部 5 6 に嵌合するように載
10 置して取付けられ、他側本体 1 1 を閉じ姿勢とすると円形突起部 1 1 d が円形の蓋 3 2 と対向するようにしてある。

これによって、円形容器 3 0 (薬剤容器 3) をしっかりと装置本体 1 内に取付けできる。

前記送風機 2 と電池 4 が平面方向に離隔して厚さ方向には重なり合う
15 ことがないと共に、薬剤容器 3 はシート状の担体に薬剤を含浸した薬剤含浸体を用いているから厚さが薄い。

これらが相俟って、全体が薄い送風式薬剤放散装置とすることができる。

前記装置本体 1 の側面には吊り下げ用のフック係止部 6 0 が設けてあ
20 ると共に、底面には吊り下げ具取付用の穴 6 1 が形成してある。

例えば、装置本体 1 の一側本体 1 0 における内殻 1 8 の側面板 1 8 b に U 字片 6 2 が一体的に設けられて前述のフック係止部 6 0 としてある。

前記装置本体 1 の一側本体 1 0 における外殻 1 7 の表面板 1 7 a に略 L 字状の取付用片 6 3 が一体的に設けてあり、この取付用片 6 3 に前述の
25 穴 6 1 が形成してある。

吊り下げ具 6 4 は、図 5 に示すように、前記フック係止部 6 0 に係止す

るフック 6 5 と、図 6 に示すように前記取付用片 6 3 の穴 6 1 に嵌合する嵌合部 6 6 を有する。

このようであるから、図 5 に示すように吊り下げ具 6 4 で吊り下げ、その吊り下げ具 6 4 を人間のベルトに掛けることで、本発明の送風式薬剤放
5 散装置を人間が携帯して使用できる。

また、図 6 に示すように吊り下げ具 6 4 の取付用片 6 6 を穴 6 1 に嵌合し、その吊り下げ具 6 4 を装置本体 1 の表面（一側本体 1 0）の表面板 1 0 a と略直角とすることで、その吊り下げ具 6 4 を倒れ防止具として利用することによって本発明の送風式薬剤放散装置を床、テーブルなどに立て
10 かけて設置して使用できる。

なお、前記フック係止部 6 0 に紐を連結し、その紐で壁等に吊り下げたり、身体や被着物に吊り下げるようにしても良い。

また、前述のように薄型でコンパクトであるから、子供から大人まで容易に取り扱うことができるし、腰、首、手足などに取付けて使用すること
15 ができる。

図 1 と図 4 において、符号 5 はスイッチ、符号 6 はランプであり、そのスイッチ 5 を ON, OFF することでモータ 2 1 に通電、通電中止されると共に、ランプ 6 が点灯、消灯する。

本発明に使用する、薬剤を含浸させるシート状の担体としては、通気性の大きい紙、布、織物、不織布やネットなどが例示される。また、載置状態の安定性を考えると、シート状の薬剤含浸体を容器、蓋で堅持したり、あるいはシート状の薬剤含浸体の外周など一部箇所を樹脂等でコートし堅持して用いることが望ましい。さらに、携帯性を考えると、その厚みを 2 ～ 5 mm、面積を 7 0 0 ～ 3, 0 0 0 mm²、と薄く小さくすることが
20 好ましい。

本発明において使用される薬剤としては、殺虫剤、殺ダニ剤、害虫ある

いは害獣忌避剤、害虫の成長制御剤、吸血行動阻止剤などの害虫防除剤、芳香剤、消臭剤、殺菌剤などで、揮散性のものが用いられる。

そして、上記の薬剤で、殺虫を目的として使用する場合、従来より用いられている各種揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、
5 カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられる。

さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

10 本発明において、モータ 21 の電源としては、アルカリ単 5 電池、アルカリ単 4 電池、アルカリ単 3 電池、アルカリ単 2 電池、アルカリ単 1 電池、マンガン単 5 電池、マンガン単 4 電池、マンガン単 3 電池、マンガン単 2 電池、マンガン単 1 電池、アルカリ角電池（9 V）、リチウム電池、リチウムボタン電池等の電池を単一、もしくは複数組み合わせ用いることが
15 が例示される。

本発明のファン 20 として遠心式ファンを用いた場合には、その遠心式ファンの大きさは次のようにすることが好ましい。

遠心式ファンの外径 D は 30 mm ～ 60 mm の範囲が良く、30 mm より小さくなると回転による遠心力が得られず、ファンを高回転でまわす必要がでてエネルギー効率が悪くなる。
20

また、内部空間体積自体も小さくなるため、モータ 21 の選択肢が減る。60 mm より大きくなると、装置自体が大型化し携帯性が悪くなる。

遠心式ファンの外径 D と内径 d の比 D/d は 1.05 ～ 1.6 の範囲が良く、1.05 より下になるとファンブレードの幅が小さくなり、十分な
25 風を起こすことができなくなる。また、1.6 を超えるとファンブレードの回転抵抗が大きくなり、エネルギー効率が悪くなる。

遠心式ファンの羽根実効高さ h は 2 mm ~ 10 mm の範囲が良く、2 mm より下になると羽根面積が不足し、十分な風を起こすことができなくなる。10 mm を超えると小型、薄型化には不適當になり、また回転抵抗が増し、エネルギー効率が悪くなる。

- 5 遠心式ファンの内部空間以外にモータを配置すると、風の流入に対しては全く悪影響を及ぼさないが、ファンの高さとモータの高さとを足したものが装置の最低高さになり、装置自体を小型、薄型化することができなくなる。

- 10 遠心式ファンの内部空間の 60 % 以上にモータハウジング（図 2 の凹部 53）を設け、モータ 21 を収納すると内部空間が不十分となり、通気量が不十分となり効率が悪くなる。

そこで、遠心式ファンの内部空間の 60 % 以内にモータハウジング（図 2 の凹部 53）を設け、モータ 21 を収納することにより装置全体を小型、薄型化でき、かつ効率良く薬剤を放散することができる。

- 15 モータハウジング（図 2 の凹部 53）の収納比率は 60 % により近いことが望ましい。

次に、本発明の第 2 の実施形態について説明する。

- 図 7、図 8、図 9 に示すように、装置本体 101 内に薬剤容器（薬剤カートリッジ）102 とファン 103 とモータ 104 が收容してあり、その
20 モータ 104 でファン 103 を回転すると吸気口 105 から装置本体 101 内に空気が吸い込みされ、その空気は薬剤容器 102 に当たり、その薬剤容器 102 内の薬剤含浸体が保持した害虫防除成分とともに第 1 排気口 106、第 2 排気口 107 より装置本体 101 の外部に排出される。

- 前記装置本体 101 を使用者の身につけて使用する際に、その第 1 排気
25 口 106 から害虫防除成分を含む空気を上方向に排出し、かつ第 2 排気口 107 から害虫防除成分を含む空気を下方向に排出する。

前記第1・第2排気口106, 107は図8に示すように、ファン103と対向した内側入口110と装置本体101の外面101aに開口した外側出口111を連通する半径方向に所定の長さの孔形状で、その内側入口110の上流側入口開口縁110aと外側出口111の上流側出口開口縁111aが上流側案内面112で連続し、内側入口110の下流側入口開口縁110bと外側出口111の下流側出口開口縁111bが下流側案内面113で連続している。

前記上流側案内面112は、上流側入口開口縁110aよりも上流側出口開口縁111aが下流側となるように傾斜、好ましくは円弧状となっている。

前記下流側案内面113は、下流側入口開口縁110bよりも下流側出口開口縁111bが下流側となるように傾斜している。

前記第1排気口106（上流側の排気口）の下流側入口開口縁110bと第2排気口107（下流側の排気口）の上流側入口開口縁110aとは、近接しているほうが好ましく、より好ましくは図示のように同じ位置にあり同一である。

ここで、上流側とはファン103の回転方向に対して上流側で、下流側とはファン103の回転方向に対して下流側である。

また、傾斜しているとは放射方向即ち半径方向に対して斜めになっている状態である。

つまり、第1・第2排気口106, 107はファン回転方向に対して傾斜した孔形状である。

このようであるから、ファン103の回転によって第1・第2排気口106, 107から矢印a, bで示すように空気が勢いよく排出される。

よって、装置本体101を使用者の腰につけて使用する際に、害虫防除成分を含有した空気が使用者の頭部、足元に向けて勢いよく排出され、害

虫防除成分が頭部、足元に短時間に到達するので、使用初期から害虫を防除できる。

次に、各部材の具体形状を説明する。

前記装置本体 101 は本体部 120 にカバー部 121 を着脱自在に取り付けてファン収容室 122 と薬剤収容室 123 とモータ収容室 124 を有する。

前記ファン収容室 122 は円形で、ファン 103 が回転自在に設けられ、そのファン収容室 122 の円形外周面 122a に第 1・第 2 排気口 106, 107 (内側入口 110) がそれぞれ開口している。

10 前記薬剤収容室 123 はファン収容室 122 と連通し、かつカバー部 121 と対向し、このカバー部 121 に吸気口 105 が形成してある。

前記モータ収容室 124 は本体部 120 の背面 120a に開口し、かつ前記ファン収容室 122 とは区画され、モータ 104 の出力軸 104a が孔 125 からファン収容室 122 に突出し、かつファン 103 と連結して
15 ある。

前記本体部 120 には電池収容部 126 がファン収容室 122 に開口しないと共に、モータ収容室 124 と厚さ方向に重なり合うことがないように形成してある。例えば、モータ収容室 124 と連続した凹陷部が背面 120a に開口して形成されて電池収容部 126 としてある。

20 この電池収容部 126 に電池 127 が着脱自在に収容してある。

この電池 127 でモータ 104 が駆動される。

前述のようであるから、電池 127 とモータ 104 が装置本体 101 の厚さ方向に重なり合うことがないから、装置本体 101 の厚さ H を小さくできる。

25 なお、モータ収容室 124 と電池収容部 126 (凹陷部) は本体部 120 の背面 120a に開口しているので、キャップを設けて閉塞するように

しても良い。

前記装置本体 1 0 1 (本体部 1 2 0) にはフック係止部 1 2 8 と嵌合凹部 1 2 9 が設けてある。

- 図 7 に示すように、前記フック係止部 1 2 8 に吊り具 1 3 0 を取付け、
5 この吊り具 1 3 0 を使用者のベルトなどに係止して使用する。

前記吊り具 1 3 0 は、図 1 0 に示すように前記フック係止部 1 2 8 に係止するフック 1 3 1 と、前記嵌合凹部 1 2 9 に嵌合する嵌合部 1 3 2 を有する。

- そして、図 7 に仮想線で示すように嵌合部 1 3 2 を嵌合凹部 1 2 9 に嵌合し、フック 1 3 1 をテーブル面などの載置面に接して装置本体 1 0 1 を
10 斜めの姿勢として立てかけて使用することもできる。

なお、本装置は、本体部 1 2 0 の背面 1 2 0 a を載置面に置いて使用することもできる。

- 前記薬剤容器 1 0 2 は図 1 1 に示すように、一側面が開口した円形容器
15 1 4 0 と、この円形容器 1 4 0 内に設けた円板形の薬剤含浸体 1 4 1 と、前記円形容器 1 4 0 内に嵌合した円形の蓋 1 4 2 を備え、円形容器 1 4 0 、蓋 1 4 2 は通気部 1 4 0 a , 1 4 2 a を有する。

前記薬剤含浸体 1 4 1 は、シート状の担体に害虫防除成分を含浸させた円板形状のものである。

- 20 前記円形容器 1 4 0 が本体部 1 2 0 の前面 1 2 0 b に形成した円形凹陷部 1 4 3 に嵌合して取付けられる。

前述のように、薬剤容器 1 0 2 は、シート状の担体に害虫防除成分を含浸した薬剤含浸体 1 4 1 を用いているから、厚さが薄く、これによって装置本体 1 0 1 の厚さ H を小さくできる。

- 25 次に、第 1 ・第 2 排気口 1 0 6 , 1 0 7 を詳細に説明する。

図 8 において、ファン 1 0 3 の外周面 1 0 3 a と上流側入口開口縁 1 1

0 a との間の距離 A は 0.1 mm ~ 5 mm の範囲が好ましい。

ファン 103 の中心 103 b と上流側入口開口縁 110 a との間の距離 R と、ファン 103 の中心 103 b と上流側出口開口縁 111 a との間の距離 r との関係は、 $r = 1.05 \times R \sim 2.5 \times R$ が好ましい。

- 5 このようにすることで、ファン 103 の回転による風を第 1・第 2 排気口 106, 107 (つまり流路) 内で効率良く収束し、風力を余り損失することなく害虫防除成分を含有した空気を勢いよく排出することができる。

すなわち、前記距離 A は $A = 0$ に限りなく近づくことが望ましいが、
10 $A < 0.1$ mm になると構成部材の精度を管理することが難しくなり、ファン 103 が上流側入口開口縁 110 a に干渉したり、部材を高精度で管理する必要があるため、管理する費用が増大する。

また、 $A > 5$ mm となると、ファン 103 の風が第 1・第 2 排気口 106, 107 内に送り込まれず、距離 A の部分を通過し易くなり、風がファン
15 収容室 122 内を循環し、風力を損失し効率が悪くなる。

また、 $r < 1.05 \times R$ の場合、第 1・第 2 排気口 106, 107 の幅が狭くなりすぎ、ファン 103 の風が第 1・第 2 排気口 106, 107 を通過する際に圧力損失を起こす。

また、 $r > 2.5 \times R$ の場合、第 1・第 2 排気口 106, 107 の幅が
20 広くなりすぎ、ファン 103 の風が急激に拡大され損失を起こし効率が悪くなる。

第 1・第 2 排気口 106, 107 の幅とは内側入口 110 と外側出口 111 との間の径方向の長さである。

前述の説明では、第 1・第 2 排気口 106, 107 を同一の空気流通抵抗として同一の風量が排出され、身体の頭部と足元に害虫防除成分が同一
25 量放出されるようにしたが、使用場所などによっては頭部と足元的一方が

他方よりも多量の害虫防除成分が放出されることが好ましいことがある。

この場合には、第1・第2排気口106, 107の一方の空気流通抵抗を他方よりも小さくして多量の害虫防除成分を含有した空気を外気に放出するようにしたり、第3排気口を形成し、この第3排気口から上方向又は下方向に害虫防除成分を含有した空気を排出するようにすれば良い。

例えば、図12に示す第1変形例のように、第1・第2・第3排気口106, 107, 108をほぼ120度間隔で形成し、第1排気口106から矢印aで示すように上方向に空気を排出し、第2排気口107から矢印bで示すように下方向に空気を排出し、第3排気口108から矢印cで示すように斜め上方に向けて空気を排出するように構成する。

このようにすれば、上方向に多量の害虫防除成分を放出できる。

なお、下方向に多量の害虫防除成分を放出する場合には、第3排気口108から斜め下方向に空気を排出するようにすれば良い。例えば、図12に示した装置を上下反対にした状態にする。

前述の説明では、第1・第2排気口106, 107又は第1・第2・第3排気口106, 107, 108のみを設けたが、装置本体101を腰につけて使用する際に、その腰の横方向における害虫防除成分が不足の場合には、腰の横方向に空気を排出する補助排気口を形成して上方向及び下方向を含めた全方向に空気を排出するようにしても良い。

例えば、図13に示す第2変形例のように右横向きと左横向きの補助排気口109を形成する。

この補助排気口109は、前述の第1・第2排気口106, 107と略同一形状で、その空気流通抵抗が第1・第2排気口106, 107よりも大きい。例えばファン回転方向の開口寸法が小さく、排出される空気量が第1・第2排気口106, 107よりも少なく、かつ勢いが弱い。

つまり、上流側入口開口縁110aと下流側入口開口縁110bとの間

のファン回転方向の寸法、上流側出口開口縁 1 1 1 a と下流側出口開口縁 1 1 1 b との間のファン回転方向の寸法が、第 1 ・ 第 2 排気口 1 0 6 , 1 0 7 よりも補助排気口 1 0 9 が小さい値である。

- 5 このようにすることで、矢印 d , e で示すように右横方向と左横方向に害虫防除成分を含有した空気が排出されるから、使用者の腰の横方向の害虫防除成分を十分なものにできるし、頭部、足元へも十分な害虫防除成分を放出できる。

前記補助排気口 1 0 9 は左右の一方のみでも良いし、左右方向に 2 つ以上形成しても良いし、左右一方にのみ 2 つ形成しても良い。

- 10 つまり、補助排気口 1 0 9 の数は限定されるものではない。

- なお、排気口の総数としては、前記上下方向 2 箇所の 2 個の排気口（第 1 ・ 第 2 排気口 1 0 6 , 1 0 7 ）、あるいは 3 方向 3 箇所の 3 個の排気口（第 1 ・ 第 2 ・ 第 3 排気口 1 0 6 , 1 0 7 , 1 0 8 ）と補助排気口 1 0 9 とを合わせ、多くとも 6 個までが好ましく、それ以上多くしても上下方向
15 の空気の勢いが弱まる。また、腰の横方向の害虫防除効果は 6 個以内で十分である。

- 前記第 1 ・ 第 2 ・ 第 3 排気口 1 0 6 , 1 0 7 , 1 0 8 、補助排気口 1 0 9 からの異物の混入を防ぐためなどに、各排気口に整流板を複数設置しても良く、整流板は風の流れに対し並行に配置することが望ましく、整流板
20 同士の間隔は 1 ~ 1 0 mm が望ましい。

整流板断面形状は、長方形、楕円形、水滴形など風の流れの抵抗にならない形状が良い。

- 本発明において使用される害虫防除成分としては、殺ダニ剤、害虫あるいは害獣忌避剤、殺虫剤または害虫の成長制御剤、吸血行動阻止剤などで
25 、揮散性のものが用いられる。

そして、殺虫を目的として使用する場合、従来より用いられている各種

揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられる。

さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

本発明に使用する、薬剤を含浸させるシート状の担体としては、通気性の大きい紙、布、織物、不織布やネットなどが例示される。また、載置状態の安定性を考えると、シート状の薬剤含浸体を容器、蓋で堅持したり、あるいはシート状の薬剤含浸体の外周など一部箇所を樹脂等でコートし堅持して用いることが望ましい。前記容器、蓋の材質としてはポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリアセタール、ナイロン、アクリル、ABS、紙、AS、金属等が挙げられる。さらに、携帯性を考えると、その厚みを2～5 mm、面積を700～3000 mm²と薄く小さくすることが好ましい。

特に、不織布の目付け10～100 g/m²のものが好ましく、20～50 g/m²のものが更に好ましい。目付けが100 g/m²を超えると、薬剤含浸体の空気抵抗が大きくなり過ぎ、ファンによる風が薬剤を通過できなくなり、薬剤を放散することができなくなる。逆に目付けが10 g/m²より下になると、薬剤含浸体に保持させることができる薬剤量が減り製造性が悪くなり、また薬量不足になる恐れがある。

ファンとしては、例えばシロッコファン、ラジアルファン、ターボファン等の遠心ファンが挙げられる。

ファンは500～4000 rpmで回転させることが好ましく、700～3000 rpmで回転させることが更に好ましい。

遠心式ファンの径は20～100 mmが好ましく、30～60 mmが更

に好ましい。高さは2～50mmが好ましく、5～20mmが更に好ましい。

特に、シロッコファン、ラジアルファンとしては、羽根枚数が10～50枚のものが良い。

- 5 ファンの駆動電源としては、アルカリ単5電池、アルカリ単4電池、アルカリ単3電池、アルカリ単2電池、アルカリ単1電池、マンガン単5電池、マンガン単4電池、マンガン単3電池、マンガン単2電池、マンガン単1電池、アルカリ角電池（9V）、リチウム電池、リチウムボタン電池等の電池を単一で、もしくは複数を直列および並列に組み合わせても良く、
- 10 また充電式の2次電池を使用しても良く、ACアダプターなどを用いて家庭用電源（AC100V）で使えるようにしても良い。

装置本体101を取付けるための機構は吊り具に限ることはなく、ベルトクリップやストラップを通すためのフック、穴、バンドを通し、足や腰、腕などに装着するバンド通し穴などでも良い。

- 15 また、装置本体101には、通電を入り切りできるスイッチを具備することも可能で、通電中を表示するためにLED、ネオンランプ、液晶などを用いたり、ファン自体を外部から視認可能とし、ファンの回転によって通電状態を判別しても良い。

- 20 また、電池と薬剤容器内の薬剤含浸体の終了時期が同じになるように設定しても良く、その際には、薬剤容器と電池を一体として取替えカートリッジとし、利便性を向上させることも可能である。

逆に、電池と薬剤含浸体の終点を同じにしない場合は、薬剤容器内の薬剤含浸体と電池の終点表示を別々に表示することが望ましい。

- 25 前述の実施の形態では、装置本体101（本体部120）におけるファン収容室122を構成する外周部分を厚肉とし、排気口を形成したがこれに限ることはない。

例えば、装置本体 1 0 1 のファン収容室 1 2 2 の外周部分に複数の案内羽根を周方向に間隔を置いて設け、周方向に隣接した案内羽根間で排気口を形成するようにしても良い。

5 電池収容室 1 2 6 は装置本体 1 0 1 (本体部 1 2 0) の側面部分に形成しても良い。

以上の説明においては使用者とは、主として人間を対象としたが、犬などのペット、牛などの家畜への使用も可能である。この場合には、例えば頭から尾、又は顔から腹や後足などの前後方向が害虫防除成分を排出する目的方向である。

10 次に、第 3 の実施形態について説明する。

本発明による送風式薬剤放散装置は、基本的に、図 1 4、図 1 5、図 1 6 に示すように、薬剤を収める薬剤容器 (薬剤カートリッジ) 2 0 1 と送風機 2 0 2 とをそれぞれ備え、この送風機 2 0 2 により吸込口 2 0 3 から空気を吸い込み、薬剤容器 2 0 1 より揮散した薬剤を吸い込んだ空気と共に放出口 2 0 4 から放散する装置本体 2 0 5 と、装置本体 2 0 5 とは別体となり、装置本体 2 0 5 の送風機 2 0 2 の電源 2 0 7 を備える電源本体 2 0 8 と、電源本体 2 0 8 の電源 2 0 7 から装置本体 2 0 5 の送風機 2 0 2 に通電するために装置本体 2 0 5 と電源本体 2 0 8 とにわたって連結する連結コード 2 0 9 と、から構成する。

20 次に、これらを具体的に説明すると、まず、装置本体 2 0 5 は略円形の上下短筒状であり、上面に円形状の大きく開口する吸込口 2 0 3 を形成すると共に、側面における一方側に複数のスリット状に開口する放出口 2 0 4 を形成する。なお、この吸込口 2 0 3 や放出口 2 0 4 の大きさや形、あるいは放出口 2 0 4 の位置や個数については、これらに限定されるもので
25 はない。

そして、この装置本体 2 0 5 の内部にあっては、その下部に送風機 2 0

2を備える。この送風機202はモータ211とこのモータ211の出力軸に取り付ける遠心送風機的一种であるシロッコファン212とからなる。このシロッコファン212は円周方向にわたって等間隔に多数の羽根213を傾斜させながら配置したものである。そして、モータ211によりシロッコファン212の多数の羽根213を回転させることで、装置本体205上面の吸込口203から空気を吸い込み、吸い込んだ空気が装置本体205内で遠心方向に流れて、装置本体205側面の放出口204から外部に放散する。なお、この送風機202にあつては遠心送風機的一种であるシロッコファン212を用いていたが、これに限定されるものではなく、他の送風ファン、例えば、駆動軸にプロペラ状の羽根車を備えたプロペラファン等でも良い。このプロペラファンを送風ファンとした場合、装置本体205においては、装置本体205の底面に通気穴を設けてこれを吸込口とし、前述の吸込口203を放出口としてこの放出口に後述する揮散性の薬剤を収める薬剤容器201を配置し、空気が送風ファンにより底面に設けた吸込口より吸い込まれ、送風ファンを介して放出口に配置された薬剤容器201内を通過して、揮散した薬剤が空気と共に外部に放散するようにする。

また、装置本体205の内部には揮散性の薬剤を収める薬剤容器201も備え、これは、薬剤容器201を装置本体205の上面に形成した吸込口203内に嵌め込み、送風機202の上方に配置する。そして、図17に示すように、この薬剤容器201は円形の薄型状で、上部体214と下部体215との間に薬剤を含浸させたシート状の薬剤含浸体216を挟み込むようにして上部体214と下部体215とを嵌合させたものであり、上部体214と下部体215とには大きな開口部217、218を形成し、この上部体214の開口部217と下部体215の開口部218とを介して空気が流通して、この空気の流通により薬剤含浸体216に含浸

した薬剤が揮散する。

そして、この薬剤容器 201 において、内部に収める薬剤含浸体に含浸させる揮散性の薬剤としては、殺虫、忌避、消臭、芳香、防菌防黴等の目的に供する各種の薬剤である。なお、この揮散性の薬剤として殺虫を目的としたものにあつては、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、
5 有機リン系殺虫剤等が挙げられ、その中でも、微量で長期間にわたって優れた効果を示すメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリン等が良い。

また、薬剤容器 201 あるいは薬剤含浸体 216 については、前述した
10 ものに限定されるものではなく、揮散性の薬剤を保持することができるものなら良い。例えば、薬剤含浸体 216 では、シート状ではなく、網状、格子状、ハニカム状、綿状、スポンジ状、さらには、多数の粒体の担体に薬剤を含浸させたものを薬剤含浸体 216 としても良い。また、薬剤容器 201 にあつても、薬剤容器 201 自身の内部に薬剤を含浸させた薬剤含
15 浸体 216 を設けるものではなく、薬剤容器 201 自身を硬質スポンジ体や発泡成形体等で製作して、薬剤容器 201 自身に薬剤を含浸させる、すなわち薬剤容器 201 自身が薬剤を保持するような形になるようにしても良い。このように薬剤容器 201 にあつては、形態、材質等は任意である。

20 また、装置本体 205 の下面には後述する被装着物に装着可能にするための装着手段 206 を取り付ける取り付け部 219 を形成し、この取り付け部 219 は薄細状で装置本体 205 の左右全長にわたって形成する貫通孔である。

そして、この装置本体 205 に被装着物に装着可能にするための装着手段 206 を取り付ける。この装着手段 206 としては、例えば、人の手首
25 等に装着可能にするための柔軟性を有する長尺平帯状の着用バンド 22

1 で、端部にバックル 2 2 2 を備える。この着用バンド 2 2 1 により、例えば、使用者の手首等に当該送風式薬剤放散装置における装置本体 2 0 5 を装着して使用することができる。

5 なお、この装着手段 2 0 6 である着用バンド 2 2 1 は前述したものに限定されるものではなく、人の手首等に装着可能にする長さ数センチの寸法から人の腰や物に装着可能にする 1, 2 メートルの寸法まで、長さは任意であり、また、横幅や厚みも使用する目的や場所、すなわち被装着物に応じて決めれば良く、帯状のものから紐状のものまでさまざまなもので良い。その原材料も特に限定されるものではなく、合成樹脂、皮革、布、繊維
10 、ゴム等の既存材料のもので良い。また、着用バンド 2 2 1 に備えた連結するための手段としては、前述のバックル 2 2 2 に限定されるものではなく、例えば、ボタン形式、ホック形式、挿し込みベルト形式、面ファスナーテープ（マジックテープ：登録商標名）形式等でも良い。

15 さらに、この装着手段 2 0 6 にあつては、着用バンド 2 2 1 に限定されるものではなく、図 1 8 に示すように、ズボンに装着するベルトやポケット等に引っ掛けるフック 2 2 3、または洋服等に直接取り付けるピンやクリップ等でも良い。

20 また、電源本体 2 0 8 は装置本体 2 0 5 の送風機 2 0 2 の電源 2 0 7 を備え、この電源本体 2 0 8 は装置本体 2 0 5 とは別体である。そして、この電源本体 2 0 8 に備える電源 2 0 7 としては電池 2 2 4 であり、電源本体 2 0 8 は必要な電池 2 2 4、例えば 2 本の電池 2 2 4 を収納するようにして、電池 2 2 4 を収納することのできる必要最小限の大きさの箱体にする。なお、電池 2 2 4 は通常の電池 2 2 4 以外に充電方式の電池でも良い。一方、電源本体 2 0 8 を装置本体 2 0 5 と別体にする事で、この電源
25 本体 2 0 8 に収納する電池 2 2 4 を大きめのものに、また、数量も増やすように、すなわち電源本体 2 0 8 を大きくすることもでき、このようにす

ることにより、装置本体 205 への供給電圧を高めることができ、送風機 202 の制御、例えばファンの強弱等を調整することも可能にすると共に、当該送風式薬剤放散装置の長期間にわたる使用も可能にする。

5 なお、この電源本体 208 にも被装着物に装着可能にするための装着手段 206 を取り付けるようにしても良い。この装着手段 206 としても、前述したような着用バンド 221 やフック 223、またはピンやクリップ等である。

10 そして、装置本体 205 と電源本体 208 とにわたって連結する連結コード 209 は、電源本体 208 内の電源 207 である電池 224 から装置本体 205 の送風機 202 に通電するために電線である。この連結コード 209 としてはできるだけ細くすることが望ましい。なお、この連結コード 209 にはその端部あるいは途中に巻き取り機構部を備えて、連結コード 209 の長さを任意の長さにできるようにしても良い。

15 また、図 19 に示すように、連結コード 209 に被装着物に装着可能にするための装着手段 206 を取り付ける。これは、例えば、この連結コード 209 の途中に装着手段 206 である着接部材 225 を備えて、この着接部材 225 は凹凸部を有し服等にくっつくようになる面ファスナーテープ（マジックテープ：登録商標名）である。ただし、この着接部材 225 はこれに限定されるものではなく、着用バンド 221 やフック 223、
20 あるいは安全ピンや洗濯バサミ等であって、服等に連結コード 209 がくっつくようになるものなら良い。

また、この連結コード 209 にあっては、装置本体 205 に対して、あるいは電源本体 208 に対して、さらには装置本体 205 と電源本体 208 の両方に対して取り外すことができるようにしても良い。

25 なお、装置本体 205 と電源本体 208 の両方に対して連結コード 209 を取り外せるようにしたものにあっては、図 20 に示すように、装置本

体 2 0 5 の側面に凸状のピン 2 2 6 を設けると共に、電源本体 2 0 8 の側面に穴状のジャック 2 2 7 を設け、そして、連結コード 2 0 9 の一端にジャック 2 2 8 を設けると共に、他端にピン 2 2 9 を設ける。これにより、通常は装置本体 2 0 5 と電源本体 2 0 8 とを連結コード 2 0 9 を介して
5 連結させて使用するが、使用状況に応じては装置本体 2 0 5 と電源本体 2 0 8 とを直接連結して使用できるようにする。

このように構成した送風式薬剤放散装置において、その使用例としては、装置本体 2 0 5 を使用者の手首や足、あるいは腰等に着用バンド 2 2 1 を介して装着する。一方、電源本体 2 0 8 は使用者の服やズボンのポケット内に収納したり、あるいは着用バンド 2 2 1 を介して腰等に装着する。
10 そして、この装置本体 2 0 5 と電源本体 2 0 8 とにわたって連結コード 2 0 9 を連結し、電源本体 2 0 8 から連結コード 2 0 9 を介して装置本体 2 0 5 に電気を流して、装置本体 2 0 5 の送風機 2 0 2 を作動させる。そして、装置本体 2 0 5 において、送風機 2 0 2 によって、吸込口 2 0 3 から
15 空気を吸い込み、吸い込んだ空気が装置本体 2 0 5 内部に備えた薬剤容器 2 0 1 内を通過し、薬剤容器 2 0 1 内を通過した空気と共に揮散した薬剤が側面に形成した放出口 2 0 4 から外部に放散する。

以上のように、送風式薬剤放散装置を、送風機 2 0 2 により吸い込んだ空気と共に薬剤容器 2 0 1 より揮散した薬剤を放散する装置本体 2 0 5
20 と、装置本体 2 0 5 とは別体となり電源 2 0 7 である電池 2 2 4 を備える電源本体 2 0 8 と、装置本体 2 0 5 と電源本体 2 0 8 とにわたって連結する連結コード 2 0 9 とから構成することにより、一番の重量物となる電源 2 0 7 である電池 2 2 4 を備える電源本体 2 0 8 を装置本体 2 0 5 と別体にすることができ、装置本体 2 0 5 には薬剤容器 2 0 1 と送風機 2 0 2
25 とを備えただけとなり、装置本体 2 0 5 の小型化、軽量化を図ることができる。これにより、例えば、使用者が当該送風式薬剤放散装置の装置本体

205を着用バンド221により手首等にはめて、電源本体208をズボンや服のポケット等にしまっ使用する場合、使用者は装置本体205の小型化、軽量化により不快な思いを感じることなく、極めて快適に使用することのできる。

- 5 また、装置本体205と電源本体208とを別体として、これらを連結コード209で連結するようにしたことにより、例えば、装置本体205、電源本体208のどちらか一方が被装着物である使用者の身体から外れて落ちても、連結コード209により両者は連結していることから、装置本体205と電源本体208とが共になくなるといったこともなくすこと
10 とができる。

- また、装置本体205又は電源本体208に対して連結コード209を取り外し可能にしたことにより、当該送風式薬剤放散装置を使用する際、装置本体205又は電源本体208を被装着物である身体に装着した後、
15 に装置本体205又は電源本体208に連結コード209を連結すれば良く、装置本体205あるいは電源本体208の被装着物への装着が非常に簡単に行うことができる。

- さらに、装置本体205又は電源本体208又は連結コード209、さらにはそれらの複数に被装着物に装着可能にするための装着手段206、例えば、着用バンド221やフック223、ピン、クリップ等を取り付け
20 たことにより、当該送風式薬剤放散装置を被装着物である身体に容易に装着することができる。また、身体の一部位だけでなく、いろいろな部位に取り付けることもできる。

- なお、本発明による送風式薬剤放散装置は、前述した形態のものに限定されるものではなく、例えば、電源本体208にあつては、電源207である電池224を備えるようにしていたが、この電源207を太陽電池に
25 して電源本体208に備えるようにしても良く、電源207を太陽電池に

した場合、図 21 に示すように、装置本体 205 を着用バンド 221 により手首等にはめると共に、電源本体 208 を帽子のつばや肩等に貼り付けるように装着して、当該送風式薬剤放散装置を使用するようにしても良い。

- 5 また、当該送風式薬剤放散装置の使用例としても、人だけに使用するのではなく、例えば、犬等のペットに使用するようにしても良い。この場合、図 22 に示すように、装置本体 205 をペットの首輪 231 にフック等の装着手段 206 により装着すると共に、電源本体 208 を人の手首等にはめる。そして、装置本体 205 と電源本体 208 とにわたって連結する
- 10 連結コード 209 をペットの首輪 231 から人の手までつながるリード 232 と一体化させ、すなわち連結コード 209 入りのリード 232 として、当該送風式薬剤放散装置をペット等に使用する。

- また、装着手段 206 において、前述した各形態では装置本体 205 に必ず装着手段 206 を取り付けた例で説明していたが、これに限定される
- 15 ものではなく、装置本体 205、電源本体 208、連結コード 209 の全てに取り付けるようにしても良く、また、どれか一つだけに取り付けるようにしても良い。なお、当該送風式薬剤放散装置において装着手段 206 を備えないようにしても良い。

- また、装置本体 205 にあっては、前述した各形態では装置本体 205
- 20 の吸込口 203 に薬剤容器 201 を配置していたが、放出口 204 に取り付け手段を備えて、この放出口 204 に薬剤容器 201 を取り付けることも可能であり、さらに、吸込口 203 と放出口 204 の両方に薬剤容器 201 を取り付けることも可能である。また、送風機 202 のシロッコファン 212 の内周側に、または外周側に薬剤容器 201 を配置して、薬剤容
- 25 器 201 と送風機 202 を一体化させたり、送風機 202 において薬剤を保持したシロッコファン 212 として、シロッコファン 212 を着脱自在

とする、あるいは、シロッコファン 2 1 2 における多数の羽根 2 1 3 の前面に通気性シート状の薬剤容器 2 0 1 を着脱自在とすることもできる。

次に、第 4 の実施形態について説明する。

まず、本発明の薬剤カートリッジを用いて薬剤を大気に放散させる送風式薬剤放散装置の一例を図 2 5 に基づいて説明するが、この送風式薬剤放散装置に限ることはないことは勿論である。

図 2 5 に示すように、装置本体 3 0 1 に送風機 3 0 2 が設けてあると共に、本発明に係る薬剤カートリッジ 3 0 3 が着脱自在に取付けてあり、その送風機 3 0 2 のファン 3 0 4 をモータ 3 0 5 で回転すると薬剤カートリッジ 3 0 3 に空気が流通するように構成してある。

前記装置本体 3 0 1 は、本体 3 1 0 とカバー部 3 1 1 を備え、送風機取付部 3 1 2 と電池取付部 3 1 3 が形成されていると共に、空気吸込部 3 1 4 と空気吐出部 3 1 5 を有している。

前記送風機 3 0 2 はハウジング 3 0 6 にファン 3 0 4 とモータ 3 0 5 を設けたもので、そのハウジング 3 0 6 が送風機取付部 3 1 2 に設けてあり、ハウジング 3 0 6 の吸込口 3 0 6 a が空気吸込部 3 1 4 に連通し、図示しない吐出口が空気吐出部 3 1 5 にそれぞれ連通している。

前記電池取付部 3 1 3 に電池 3 0 7 が取付けてある。

前記カバー部 3 1 1 は開閉自在に本体部 3 1 0 に連結され、このカバー部 3 1 1 を開放することで薬剤カートリッジ 3 0 3、電池 3 0 7 を取付け、取り外しできるようにしてある。

前記薬剤カートリッジ 3 0 3 は、シート状で通気性と吸液性を有すると共に、薬剤を含浸した薬剤含浸体 3 2 0 と、この薬剤含浸体 3 2 0 を保持する保持容器 3 2 1 を備えている。

つまり、薬剤含浸体 3 2 0 は、シート状で吸液性を有するから剛性が弱く、それ自体では形状を維持することができなかつたり、薬剤含浸体 3 2

0を直接手で持つと薬剤が手に付着する恐れがあるために、薬剤含浸体320の一部分を保持容器321で保持し、他の部分に空気が流通するようにしている。

このようであるから、薬剤含浸体320は薄く、保持容器321自身も薄くできるから、薬剤カートリッジ303全体を薄くできる。

よって、この薬剤カートリッジ303を用いる送風式薬剤放散装置を薄くすることができる。

前記保持容器321は、薬剤含浸体320の上下面を挟持して保持する保持部321aと、空気が流通する空気流通部321bを備えている。

10 前記保持部321aと薬剤含浸体320との間には空間部321cが形成してあり、この空間部321cは保持部321aに形成した通気部321dで外部に開口し、空間部321cに空気が流通するようにしてある。

好ましくは、保持部321aの薬剤含浸体320の下面と接する部分に15 凹部を形成し、この凹部と薬剤含浸体320の下面との間に空間部321cを形成している。そして、保持部321aの薬剤含浸体320の上面に接する部分に通気孔を形成して通気部321dとし、その通気孔で空間部321c（凹部）を外部に開口している。

このようであるから、シート状の薬剤含浸体320を保持容器321で20 保持して薬剤含浸体320の形状を維持すると共に、手で持っても薬剤が手に付着することがない。

また、薬剤含浸体320の保持部321aで保持された部分には空気が流通しないので、その部分に含浸した薬剤は流通する空気で揮散することがないが、その部分に含浸した薬剤は空間部321cに揮散し、その空間25 部321cから空気流通部321bを通過して外部に揮散するから、薬剤含浸体320の保持部321aで保持された部分に含浸した薬剤を大気に

放散できる。

前記保持容器 3 2 1 の具体形状の一例を説明するが、これに限ることはない。

前記保持容器 3 2 1 は図 2 5 ～図 3 1 に示すように、容器本体 3 3 0 と
5 蓋体 3 4 0 を備え、その容器本体 3 3 0 と蓋体 3 4 0 で薬剤含浸体 3 2 0
を挟持して保持する。

この容器本体 3 3 0 は、中央保持部 3 3 1 と、この中央保持部 3 3 1 の
周囲に間隔を置いて位置する外周保持部 3 3 2 と、この外周保持部 3 3 2
と中央保持部 3 3 1 を連結する複数の中間保持部 3 3 3 を有し、その隣接
10 した中間保持部 3 3 3 間が開口して空気流通部 3 3 4 となっている。

前記中央保持部 3 3 1 の薬剤含浸体 3 2 0 の下面に接する上面 3 3 1
a には凹部 3 3 5 が形成され、薬剤含浸体 3 2 0 の下面との間に空間部 3
2 1 c を形成する。

前記外周保持部 3 3 2 の薬剤含浸体 3 2 0 の下面に接する上面 3 3 2
15 a には環状の凹部 3 3 6 が形成され、薬剤含浸体 3 2 0 の下面との間に空
間部 3 2 1 c を形成する。

前記中間保持部 3 3 3 の薬剤含浸体 3 2 0 の下面に接する上面 3 3 3
a には前記凹部 3 3 5 と環状の凹部 3 3 6 を連通する連通用の凹部 3 3
7 が形成され、薬剤含浸体 3 2 0 の下面との間に空間部 3 2 1 c を形成す
20 る。

前記蓋体 3 4 0 は、中央押え部 3 4 1 と、この中央押え部 3 4 1 の周囲
に間隔を置いて位置する外周押え部 3 4 2 と、この外周押え部 3 4 2 と中
央押え部 3 4 1 を連結する複数の中間押え部 3 4 3 を有し、その隣接した
中間押え部 3 4 3 間が開口して空気流通部 3 4 4 となっている。

25 前記中央押え部 3 4 1 は前述の中央保持部 3 3 1 と同じ大きさで、その
通気孔 3 4 5 が凹部 3 3 5 と対向している。

前記外周押え部 3 4 2 は前述の外周保持部 3 3 2 と同じ大きさで、その通気孔 3 4 6 が環状の凹部 3 3 6 と対向している。

前記中間押え部 3 4 3 は、前述の中間保持部 3 3 3 と同一形状、大きさで、その空気流通部 3 4 4 が前述の空気流通部 3 3 4 と対向し、両方の空気流通部 3 3 4, 3 4 4 に亘って空気がスムーズに流通するようにしてある。この中間押え部 3 4 3 に通気孔 3 4 7 が前述の凹部 3 3 7 と対向して設けられている。

前記容器本体 3 3 0 と蓋体 3 4 0 は着脱自在に取付けられる。

この実施の形態では、前述の外周保持部 3 3 2 の外周縁には上面 3 3 2 a よりも上方に突出したリング体 3 3 2 b を備え、そのリング体 3 3 2 b に薬剤含浸体 3 2 0 を嵌め込み、その後に蓋体 3 4 0 を嵌合して取付ける。

これに限ることはなく、蓋体 3 4 0 にリング体を設け、そのリング体を外周保持部 3 3 2 の外周面に嵌合して取付けしても良いし、容器本体 3 3 0 と蓋体 3 4 0 にピンと穴を対向して設け、そのピンと穴を嵌合して取付けても良い。

また、この実施の形態では中間保持部 3 3 3、中間押え部 3 4 3 は放射状に複数設けてあるが、これに限ることはなく格子形状、多孔板形状などでも良い。

前述のようであるから、薬剤含浸体 3 2 0 の中央部は中央保持部 3 3 1 と中央押え部 3 4 1 で挟持して支持され、外周部が外周保持部 3 3 2 と外周押え部 3 4 2 で挟持して支持され、中間部の複数個所が中間保持部 3 3 3 と中間押え部 3 4 3 でそれぞれ挟持されて支持される。

そして、各空気流通部 3 3 4, 3 4 4 を流通する空気が薬剤含浸体 3 2 0 を通過する。

また、各凹部 3 3 5, 3 3 6, 3 3 7 と薬剤含浸体 3 2 0 の下面との間

に形成された空間部 3 2 1 c に空気が流通する。

このようであるから、薬剤カートリッジ 3 0 3 を装置本体 3 0 1 に取付け、この実施の形態ではハウジング 3 0 6 の上面に取付けられる。

そして、ファン 3 0 4 を回転することで薬剤含浸体 3 2 0 に空気が流通
5 して薬剤が大気に放散される。

また、薬剤含浸体 3 2 0 における各保持部と各押え部で挟持して保持された部分（つまり、被保持部分）に含浸された薬剤は、前述の空間部 3 2 1 c に揮散し、通気孔から空間部 3 2 1 c を流通する空気とともに外部に放散し、前述のファン 3 0 4 の回転による空気とともに大気に放散される
10 。

また、前述のように各保持部 3 3 1, 3 3 2, 3 3 3 の上面に凹部 3 3 5, 3 3 6, 3 3 7 を形成して空間部 3 2 1 c を形成し、各押え部 3 4 1, 3 4 2, 3 4 3 に通気孔 3 4 5, 3 4 6, 3 4 7 を形成して空間部 3 2 1 c を外部に開口することによって、その凹部 3 3 5, 3 3 6, 3 3 7 を
15 利用して使用後の薬剤含浸体 3 2 0 に再度薬剤を含浸させることが可能である。

例えば、使用後（つまり、薬剤含浸体 3 2 0 に含浸した薬剤が全て大気に放散された状態）には、薬剤カートリッジ 3 0 3 を装置本体 3 0 1 から取り出し、液状の薬剤を通気孔 3 4 5, 3 4 6, 3 4 7 から注入して各凹
20 部 3 3 5, 3 3 6, 3 3 7 に供給して溜める。

そして、各凹部 3 3 5, 3 3 6, 3 3 7 に溜まった液状の薬剤は薬剤含浸体 3 2 0 の全体に亘って含浸され、薬剤を含浸している未使用の薬剤カートリッジとすることができる。

また、凹部 3 3 5 に溜まった液状の薬剤は薬剤含浸体 3 2 0 の中央部に
25 含浸し、環状の凹部 3 3 6 に溜まった液状の薬剤は薬剤含浸体 3 2 0 の外周部に含浸し、連通用の凹部 3 3 7 に溜まった液状の薬剤は薬剤含浸体 3

20 の中間部に含浸するから、短時間に薬剤含浸体 320 の全域に薬剤が含浸する。

前述のように、液状の薬剤を補給する方法としては、量表示されたスポイト式容器、適量収容されたアンプル容器、定量型容器、定量カップ付き
5 容器などの定量容器、ノズル容器などで補給量を目視で確認しながら供給、などが挙げられる。

また、補給に際し、補給時期が目視で確認できれば便利であるので、従来から知られているインジケータを用いた薬剤含浸体 320 に含浸した薬剤が全て大気に放散された時期を表示するようにすることが好ましい。

10 前述の実施の形態では、容器本体 330 の各保持部 331, 332, 333 の上面 331a, 332a, 333a に凹部 335, 336, 337 を形成し、蓋体 340 の各押え部 341, 342, 343 に通気孔 345, 346, 347 を形成したが、これに限ることはなく、いずれか 1 つの相対向した保持部、押え部に凹部、通気孔を形成しても良いし、いずれか
15 2 つの相対向した保持部、押え部に凹部、通気孔を形成しても良い。

すなわち、少なくとも 1 つの相対向した保持部、押え部に凹部、通気孔を形成すれば良い。

例えば、図 32 と図 33 に示す変形例のように、容器本体 330 の外周保持部 332 を水平に対して外周寄りが内周寄りよりも低くなるように
20 斜めとしてほぼ V 字状の環状の凹部 336 を形成し、薬剤含浸体 320 の下面との間に空間部 321c を形成する。

押え体 340 の外周押え部 342 の一部分、例えば中間押え部 343 と連続した部分を内周に向けて凹み変形して凹部 348 を形成する。

この凹部 348 と容器本体 330 のリング体 332b とで通気部 321d とする。
25 1d とする。

前述の実施の形態では、薬剤含浸体 320 の下面側に空間部 321c を

形成したが、上面側に空間部 3 2 1 c を形成しても良いし、下面側と上面側の両方に空間部 3 2 1 c をそれぞれ形成しても良い。

本発明の薬剤カートリッジ 3 0 3 は、前述した送風式薬剤放散装置に用いるものに限ることではなく、送風機のファンに直接取付けるようにしても
5 良いし、ファンと一体的にしても良い。また扇風機の吸込み側、吐出側に取付けても良いし、エアコンの吹出口に取付けることもできる。

本発明に用いる薬剤含浸体 3 2 0 に含浸する薬剤としては、常温、送風などの条件で揮散する害虫防除剤（殺虫剤、忌避剤、害虫成長制御剤、殺ダニ剤、防虫性精油など）、芳香剤、芳香消臭剤、消臭剤、防カビ剤、除
10 菌剤、害獣忌避剤などが挙げられる。

そして、上記の薬剤で、殺虫を目的として使用する場合、従来より用いられている各種揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられてい
15 る。

さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

前記薬剤に、薬剤を徐放化する揮散調整剤（ワセリン類、グリコール類
20 など）、溶解剤（パラフィン類、多価アルコール類、脂肪酸エステル類など）、酸化防止剤（BHT、BHA など）、インジケータ機能剤（色変色素など）、紫外線吸収剤などを必要に応じて使用する。

本発明に用いる薬剤含浸体の担体の素材としては、天然繊維、化学繊維、不織布（天然繊維、化学繊維、炭素繊維など）、樹脂ネット（ポリエチ
25 レン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなど）、布綿（織物、編み物）、抄紙（パルプ、リントー、合成紙など）などが例示され、シート形状、網形

状、ハニカム形状、すのこ形状、格子形状などをなす成形体、又はその形状を確保する収容形状、綿状形状、スポンジ状形状などが挙げられる。

また、これらの中で、気流の通気性や薬剤の含有性に優れた不織布などからなるシート形状が好ましい。

5 次に、第5の実施形態について説明する。

まず、本発明の薬剤カートリッジを用いて薬剤を大気に放散させる送風式薬剤放散装置の一例を図34に基づいて説明するが、この送風式薬剤放散装置に限ることはないことは勿論である。

図34に示すように、装置本体401に送風機402が設けてあると共に、
10 本発明に係る薬剤カートリッジ403が着脱自在に取付けてあり、その送風機402のファン404をモータ405で回転すると薬剤カートリッジ403に空気が流通するように構成してある。

前記装置本体401は本体部410とカバー部411を備え、送風機取付部412と電池取付部413を形成していると共に、空気吸込部414
15 と空気吐出部415を有している。

前記送風機402はハウジング406にファン404とモータ405を設けたもので、そのハウジング406が送風機取付部412に設けてあり、ハウジング406の吸込口406aが空気吸込部414に連通し、図示しない吐出口が空気吐出部415にそれぞれ連通している。

20 前記電池取付部413に電池407が取付けてある。

前記カバー部411は開閉自在に本体部410に連結され、このカバー部411を開放することで薬剤カートリッジ403、電池407を取付け、取り外しできるようにしてある。

前記薬剤カートリッジ403は、通気性と吸液性を有するシート体に、
25 薬剤を含浸したシート状の薬剤含浸体420と、この薬剤含浸体420を保持する保持容器421を備えている。

つまり、薬剤含浸体 420 はシート形状で剛性が弱く、それ自体では形状を維持することができなかつたり、薬剤含浸体 420 を直接手で持つと薬剤が手に付着する恐れがあるために、薬剤含浸体 420 の一部分を保持容器 421 で保持し、他の部分に空気が流通するようにしている。

- 5 前記保持容器 421 は、薬剤含浸体 420 を保持する保持部 421 a と、空気が流通する空気流通部 421 b を備え、その保持部 421 a の中央部（つまり、保持容器 421 の中央部）には液溜め凹部 421 c を有している。

- 10 前記ハウジング 406 の凹陷部 406 b に保持容器 421 が嵌合して取付けられ、ファン 404 を回転することで薬剤含浸体 420 に空気が流通して薬剤が大気に放散される。

- 15 このようであるから、使用後、つまり薬剤含浸体 420（シート体）に含浸した薬剤が全て大気に放散された後には、薬剤カートリッジ 403 を装置本体 401 から取り外し、薬液を液溜め凹部 421 c に供給して溜める。

前記液溜め凹部 421 c に溜まった薬液は、シート体の外周部に向けて順次浸透してシート体の全体に渡って含浸され、薬剤を含浸している未使用の薬剤カートリッジとすることができる。

- 20 したがって、使用後に薬剤を補給して繰り返して使用できる薬剤カートリッジである。

また、薬剤カートリッジ 403 はファン 404 と対向して取付けられ、その薬剤カートリッジ 403 の中央部はファン 404 の中央部と対向しているので、保持容器 421 の中央部はファン 404 の中央部と対向する。

- 25 このために、液溜め凹部 421 c を保持容器 421 の中央部に設けたことにより、装置本体 401 に取付けて使用する際に、その液溜め凹部 42

1 c は、ファン 4 0 4 の回転による空気流れの少ない部分に位置し、この液溜め凹部 4 2 1 c によってファン 4 0 4 の回転による空気流れが阻害されることがほとんどなく、ファン 4 0 4 の回転による空気流れのほとんどが薬剤含浸体 4 2 0 を流通し、送風機 4 0 2 の風量が無駄になることがなく、その風量を薬剤を大気に放散するのに有効利用できる。

つまり、図 3 4 に示すように、ファン 4 0 4 の中央部はモータ 4 0 5 の回転軸 4 0 5 a と連結されているから、その中央部には空気の流れがほとんどなく、このファン 4 0 4 の中央部と対向した部分には空気がほとんど流れないので、前述の液溜め凹部 4 2 1 c のために空気流れが阻害されることがない。

また、シート形状の薬剤含浸体 4 2 0 を保持容器 4 2 1 で保持して薬剤カートリッジ 4 0 3 としてあるから、その薬剤カートリッジ 4 0 3 を薄くすることができる。

次に、前記保持容器 4 2 1 の具体形状を説明する。

15 前記保持容器 4 2 1 は図 3 4 と図 3 5 に示すように、容器本体 4 3 0 と蓋体 4 4 0 を備え、その容器本体 4 3 0 と蓋体 4 4 0 で薬剤含浸体 4 2 0 を挟持して支持する。

この容器本体 4 3 0 は、中央支持部 4 3 1 と、この中央支持部 4 3 1 の周囲に間隔を置いて位置する外周支持部 4 3 2 と、この外周支持部 4 3 2 と中央支持部 4 3 1 を連結する複数の連結部 4 3 3 を有し、その隣接した連結部 4 3 3 間が開口して空気流通部 4 3 4 となっている。

前記中央支持部 4 3 1 の支持面 4 3 1 a には凹部 4 3 5 が形成してある。

前記蓋体 4 4 0 は中央押え部 4 4 1 と、この中央押え部 4 4 1 の周囲に間隔を置いて位置する外周押え部 4 4 2 と、この外周押え部 4 4 2 と中央押え部 4 4 1 を連結する複数の連結部 4 4 3 を有し、その隣接した連結部

4 4 3 間が開口して空気流通部 4 4 4 となっている。

前記中央押え部 4 4 1 は前述の中央支持部 4 3 1 と同じ大きさで、供給口 4 4 5 が凹部 4 3 5 と対向して有し、この供給口 4 4 5 と凹部 4 3 5 で液溜め凹部 4 2 1 c としてある。

5 前記外周押え部 4 4 2 は前述の外周支持部 4 3 2 と同じ大きさである。

前記連結部 4 4 3 は前述の連結部 4 3 3 と同一形状、大きさで、空気流通部 4 4 4 が前述の空気流通部 4 3 4 と対向し、両方の空気流通部 4 3 4 , 4 4 4 に亘って空気がスムーズに流通するようにしてある。

前記容器本体 4 3 0 と蓋体 4 4 0 は着脱自在に取付けられる。

10 この実施の形態では、前述の外周支持部 4 3 2 の外周縁には支持面 4 3 2 a よりも上方に突出したリング体 4 3 2 b を備え、そのリング体 4 3 2 b に薬剤含浸体 4 2 0 を嵌め込み、その後に蓋体 4 4 0 を嵌合して取付ける。

これに限ることはなく、蓋体 4 4 0 にリング体を設け、そのリング体を
15 外周支持部 4 3 2 の外周面に嵌合して取付けしても良いし、容器本体 4 3 0 と蓋体 4 4 0 にピンと穴を対向して設け、そのピンと穴を嵌合して取付けても良い。

また、この実施の形態では連結部 4 3 3 , 4 4 3 は放射状に複数設けてあるが、これに限ることはなく格子形状、多孔板形状などでも良い。

20 前述のようであるから、薬剤含浸体 4 2 0 の中央部は中央保持部 4 3 1 と中央押え部 4 4 1 で挟持して支持され、外周部が外周支持部 4 3 2 と外周押え部 4 4 2 で挟持して支持され、中間部の複数個所が連結部 4 3 3 , 4 4 3 相互でそれぞれ挟持されて支持される。

そして、各空気流通部 4 3 4 , 4 4 4 を流通する空気が薬剤含浸体 4 2
25 0 を通過する。

このようであるから、使用後（つまり、薬剤含浸体 4 2 0 に含浸した薬

剤が全て大気に放散された状態)には、薬剤カートリッジ403を装置本体401から取り出し、薬液を供給口445から注入して凹部435、又は凹部435と供給口445に溜める。

そして、凹部435に溜まった薬液は薬剤含浸体420の全体に亘って
5 浸透して含浸する。

前記液溜め凹部421cの深さは、薬液の供給量に応じて設計すればよく、特に制限されない。図34に示すようにシート体下面と凹部435上面が接している場合、供給した薬液がシート体と表面張力で留保状態にある深さであればよく、深くしすぎるとシート体に接しない残液を発生する
10 ことがある。

次に、上記薬剤カートリッジの第1変形例を説明する。

図36と図37に示すように、容器本体430の中央支持部431を蓋体440の中央押え部441よりも大きくし、かつ凹部435を中央押え部441よりも大きくする。

15 蓋体440の中央押え部441を連結部443よりも厚くして中央押え部441を連結部443よりも下方に突出させ、この中央押え部441によって薬剤含浸体420を凹部435内に押し込む。

このようにすれば、凹部435に溜まった薬液がシート体に含浸し易くなる。

20 図37に示すようにシート体を凹部435の底面に接近、又は接している場合、液溜め凹部421cの深さは、供給する薬液量に応じて決め、また、薬液は供給すると同時に周囲に浸透し始めるのであまり深くする必要はない。

前述の実施の形態及び第1変形例は薬剤含浸体420が小さい場合に
25 好ましいが、大きい薬剤含浸体の場合には外周部にも液溜め凹部を形成し、シート体の中央部、外周部に薬液を供給し、中央部から外周部に向けて

浸透させると共に、外周部から中央部に向けて浸透するようにすることが好ましい。

また、製造時では、薬液をシート体の全域に速く浸透させるのに有効である。

- 5 例えば、図 38、図 39 に示す第 2 変形例のように、容器本体 430 の中央支持部 431 に凹部 435 を形成し、外周支持部 432 に外周凹部 436、例えば環状の凹部を形成する。

- 蓋体 440 の中央押え部 441 に供給口 445 を形成する。連結部 443 を外周押え部 442 よりも外方に突出させ、その突出部 443a をリング体 432b に接して外周押え部 442 とリング体 432b との間に隙間を形成し、その隙間を外周供給口 446 とする。
- 10

そして、この外周凹部 436 によって外周部の液溜め凹部 421c とする。

- この第 2 変形例では、外周押え部 442 が中央押え部 441 よりも厚く、薬剤含浸体 420 の外周縁を外周凹部 436 に押し込み、薬液が浸透し易くしてある。
- 15

また、図 40 と図 41 に示す第 3 変形例のように容器本体 430 の外周支持部 432 を、外周寄りが低くなるように水平に対して斜めとしてリング体 432b とによって外周凹部 436 を形成する。

- 蓋体 440 の連結部 443 を中央部よりも外周部が低くなるように水平に対して斜めとし、その外周押え部 442 が外周支持部 432 とほぼ平行となるようにする。
- 20

これによって、薬剤含浸体 420 の外周縁が外周支持部 432 に押しつけられる。

- 前記蓋体 440 の外周押え部 442 の一部分、例えば連結部 443 と対向した部分に凹み 442a を形成し、この凹み 442a とリング体 432
- 25

bとの間に隙間を形成し、この隙間を外周供給口446とする。

また、図42と図43に示す第4変形例のように、蓋体440の中央押え部441に下向き凹部445aを形成し、その上面に小さな供給穴445bを複数形成して下向き凹部445aと供給穴445bで供給口445とし、その供給口445と凹部435で中央部の液溜め凹部421cとする。

蓋体440の外周押え部442を内縦片448と上横片449で断面鉤形状とし、その外周押え部442と外周支持部432のリング体432bで下向き凹部446aを形成し、前記上横片449に外周供給穴446bを形成し、その外周供給穴446bと下向き凹部446aで外周供給口446とし、その外周供給口446と外周凹部436で外周部の液溜め凹部421cとする。

また、前述の各凹部内底面に、シボ加工などにより凹凸を設け隙間を形成、格子形状とし小空間を形成、複数の突起リングを設け溝を形成し、シート体間に表面張力を促進するようにしてもよい。

前述のように、薬液を液溜め凹部421cに補給する方法としては、量表示されたスポイト式容器、適量収容されたアンプル容器、定量型容器、定量カップ付き容器などの定量容器、ノズル容器などで補給量を目視で確認しながら供給、などが挙げられる。

また、補給に際し、補給時期が目視で確認できれば便利であるので、従来から知られているインジケータを用いた薬剤含浸体420に含浸した薬剤が全て大気に放散された時期を表示するようにすることが好ましい。

本発明の薬剤カートリッジ403は、前述した送風式薬剤放散装置に用いるものに限ることではなく、送風機のファンに直接取付けるようにしても良いし、ファンと一体的にしても良い。また扇風機の吸込み側、吐出側に取付けても良いし、エアコンの吹出口に取付けることもできる。

本発明に用いる薬剤含浸体420のシート体（担体）に含浸する薬剤としては、常温、送風などの条件で揮散する害虫防除剤（殺虫剤、忌避剤、害虫成長制御剤、殺ダニ剤、防虫性精油など）、芳香剤、芳香消臭剤、消臭剤、防カビ剤、除菌剤、害獣忌避剤などが挙げられる。

5 そして、上記の薬剤で、殺虫を目的として使用する場合、従来より用いられている各種揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられている。

10 さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

前記薬剤に、薬剤を徐放化する揮散調整剤（ワセリン類、グリコール類など）、溶解剤（パラフィン類、多価アルコール類、脂肪酸エステル類など）、酸化防止剤（BHT、BHAなど）、インジケータ機能剤（色変色素など）、紫外線吸収剤などを必要に応じて使用する。

本発明に用いる薬剤含浸体のシート体の素材としては、天然繊維、化学繊維、不織布（天然繊維、化学繊維、炭素繊維など）、樹脂ネット（ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなど）、布綿（織物、編み物）、抄紙（パルプ、リントー、合成紙など）などが例示され、シート形状、網形状、ハニカム形状、すのこ形状、格子形状などをなす成形体、又はその形状を確保する収容形状、綿状形状、スポンジ状形状などが挙げられる。

また、これらの中で、気流の通気性や薬剤の含有性に優れた不織布などからなるシート形状が好ましい。

次に、第6の実施形態について説明する。

本発明の薬剤カートリッジを用いて薬剤を大気に放散させる送風式薬剤放散装置の一例を図４４に基づいて説明するが、この送風式薬剤放散装置に限ることはないことは勿論である。

図４４に示すように、装置本体５０１に送風機５０２が設けてあると共に、
５ 本発明に係る薬剤カートリッジ５０３が着脱自在に取付けてあり、その送風機５０２のファン５０４をモータ５０５で回転すると薬剤カートリッジ５０３に空気が流通するように構成してある。

前記装置本体５０１は本体部５１０とカバー部５１１を備え、送風機取付部５１２と電池取付部５１３を形成していると共に、空気吸込部５１４
１０ と空気吐出部５１５を有している。

前記送風機５０２はハウジング５０６にファン５０４とモータ５０５を設けたもので、そのハウジング５０６が送風機取付部５１２に設けてあり、ハウジング５０６の吸込口５０６ａが空気吸込部５１４に連通し、図示しない吐出口が空気吐出部５１５にそれぞれ連通している。

１５ 前記電池取付部５１３に電池５０７が取付けてある。

前記カバー部５１１は開閉自在に本体部５１０に連結され、このカバー部５１１を開放することで薬剤カートリッジ５０３、電池５０７を取付け、取り外しできるようにしてある。

前記薬剤カートリッジ５０３は、シート形状の薬剤含浸体５２０と、この薬剤含浸体５２０を保持する保持容器５３０を備えている。
２０

つまり、薬剤含浸体５２０はシート形状で剛性が弱く、それ自体では形状を維持することができなかつたり、薬剤含浸体５２０を直接手で持つと薬剤が手に付着する恐れがあつて取り扱いづらいために、薬剤含浸体５２０の一部分を保持容器５３０で保持して取り扱い易くし、他の部分に空気が流通するようにしている。
２５

これによって、薄く、取り扱い易い薬剤カートリッジ５０３とすること

ができる。

前記薬剤含浸体 5 2 0 は、シート状で吸液性と通気性を有する担体 5 2 1 に所定量の薬剤を含浸して保持したシート形状のものである。

5 前記薬剤含浸体 5 2 0 のシート状の担体 5 2 1 は、その一部分に高吸液部 5 2 2 を備え、その高吸液部 5 2 2 に多量の薬液を一度に含浸して保持でき、その高吸液部 5 2 2 に保持された薬液は担体 5 2 1 の全域に渡って順次浸透するようにしてある。

10 このようであるから、薬剤カートリッジ 5 0 3 の使用後（つまり、薬剤含浸体 5 2 0 の担体 5 2 1 に含浸して保持した薬剤が全て大気に放散され、その担体 5 2 1 に薬剤が保持されていない状態）には、その高吸液部 5 2 2 に薬剤を滴下して供給することで高吸液部 5 2 2 に多量の薬液を保持することで、その薬液が担体 5 2 1 の全域に渡って順次浸透し、担体 5 2 1 の全体に薬剤が含浸して保持されるから、薬剤を含浸して保持している未使用の薬剤カートリッジとすることができる。

15 したがって、使用後に薬剤を補給して繰り返し使用できる。

また、製造時においても薬剤含浸体 5 2 0 の担体 5 2 1 に形成した高吸液部 5 2 2 に多量の薬液を含浸して保持させ、その保持した薬液を順次担体 5 2 1 の全域に渡って浸透するので、担体 5 2 1 の全体に渡って薬剤を均一に含浸して保持することができる。

20 前記薬剤カートリッジ 5 0 3 の具体例を図 4 5、図 4 6 に基づいて説明するが、これに限ることはない。

前記薬剤含浸体 5 2 0 の担体 5 2 1 は、中央部の肉厚が他の部分よりも厚いシート状で、その厚い中央部が高吸液部 5 2 2 である。

25 この高吸液部 5 2 2 の上面には凹部 5 2 2 a が形成されて薬液を供給した際に内部に吸収し易くしてある。

前記担体 5 2 1 の吸液性能（つまり、単位体積当たりに吸液できる液体

量の大小)は全域に渡って同一であっても、その中央部が厚いから多量の薬液を含浸して保持でき、前述のように高吸液部 5 2 2 とすることができる。

前記担体 5 2 1 の吸液性能は中央部が他の部分よりも大きいことが好ましい。このようにすれば、中央部(高吸液部 5 2 2)により多量の薬剤を含浸して保持できる。

なお、高吸液部 5 2 2 の吸液性能を他の部分よりも大とすれば、その高吸液部 5 2 2 を他の部分と大差のない厚さになる。

つまり、担体 5 2 1 の高吸液部 5 2 2 とは、単位体積当たりに吸液できる液体量が他の部分よりも大であれば良い。

また、高吸液部 5 2 2 の形状としては、前述の円形の他に、使用する素材によって矩形、半円形、起毛形など自由である。

前記保持容器 5 3 0 は容器本体 5 4 0 と押え体 5 5 0 を備え、この容器本体 5 4 0 と押え体 5 5 0 で薬剤含浸体 5 2 0 を挟持して保持する。

この容器本体 5 4 0 は、中央支持部 5 4 1 と外周支持部 5 4 2 を複数の連結部 5 4 3 で連結し、その隣接した連結部 5 4 3 と中央支持部 5 4 1 と外周支持部 5 4 2 間が開口して空気流通部 5 4 4 となっている。

前記外周支持部 5 4 2 は上面 5 4 2 a よりも突出したリング体 5 4 5 を備えている。

前記薬剤含浸体 5 2 0 は、中央支持部 5 4 1 の上面 5 4 1 a、外周支持部 5 4 2 の上面 5 4 2 a、連結部 5 4 3 の上面 5 4 3 a に載置して支持される。

前記押え体 5 5 0 はリング体 5 4 5 に嵌合するリング形状で、この押え体 5 5 0 と外周支持部 5 4 2 で薬剤含浸体 5 2 0 の外周部分を挟持して保持する。

前記薬剤カートリッジ 5 0 3 は図 4 4 に示すように、その容器本体 5 4

0をハウジング506の取付部506bに嵌合して送風機502のファン504と対向して取付けられ、そのファン504の風量が少ない中心部504a（つまり、モータ505の回転軸505aが連結される部分）が薬剤含浸体520の担体521の中央部（高吸液部522）と対向している。

よって、高吸液部522に流通する空気量は他の部分に比べて著しく少なく、高吸液部522が厚くとも薬剤含浸体520に空気がスムーズに流通する。

前記高吸液部522は容器本体540の中央支持部541の上面541aに載置されているので、薬剤を補給する際に高吸液部522に多量の薬液が含浸して保持されて重量が重くなった場合でも、その高吸液部522がたれ下がることはない。

また、中央支持部541は高吸液部522と同一大きさ、又は高吸液部522よりも大きいので、前述のように高吸液部522に多量の薬液を含浸した際に、その薬液が高吸液部522の下面からしみでて垂れることがない。

前記中央支持部541は、浅く凹んだ皿状としてもよい。

次に、この実施の形態の変形例を説明する。

前述の容器本体540の中央支持部541は高吸液部522よりも小さくとも良い。また、連結部543の数は6本に限らず4本、3本などでも良い。

前述の押え体550は、図47A及び47Bに示す第1変形例のように、中央リング551と外周リング552を複数のステー553で連結して開口部554を形成した形状で、その中央リング551が高吸液部522に嵌合し、外周リング552が容器本体540のリング体545に嵌合するようにしても良い。

このようにすれば、中央リング 5 5 1 が薬液を滴下供給の目印となる。

この場合には、容器本体 5 4 0 の中央支持部 5 4 1 をリング形状としても良い。

また、この場合には押え体 5 5 0 の中央リング 5 5 1 を高吸液部 5 2 2
5 の上面に接して中央支持部 5 4 1 とで挟持するようにしても良い。

また、前述の中央リング 5 5 1 の高さを高吸液部 5 2 2 の高さより高くして供給した薬液の垂れ防止とすることもできる。

前記薬剤含浸体 5 2 0 の高吸液部 5 2 2 は、図 4 8 A 及び 4 8 b に示す第 2 変形例のように、担体 5 2 1 の外周寄りに設けても良い。

10 例えば、担体 5 2 1 の外周寄りにおける周方向に間隔を置いた複数位置を厚くして高吸液部 5 2 2 とする。

前記薬剤含浸体 5 2 0 の高吸液部 5 2 2 は、図 4 9 に示す第 3 変形例、図 5 0 に示す第 4 変形例のように、径方向に連続した細幅の帯状とし、図 4 9 に示すように押え体 5 5 0 の中央リング 5 5 1 などの中央部から薬
15 液を供給したり、図 5 0 に示すように押え体 5 5 0 の外周リング 5 5 2 の凹部 5 5 2 a とリング体 5 4 5 の間の隙間 5 5 4 などの外周部から薬液を供給しても良い。また、図示は省略するが複数の帯状の高吸液部 5 2 2 を格子状に設けても良いし、任意の位置に複数の高吸液部 5 2 2 を設けても良い。

20 前記薬剤含浸体 5 2 0 の高吸液部 5 2 2 は担体 5 2 1 と別体として重ね合わせるようにしても良い。

例えば、図 5 1 に示す第 5 変形例のように、2 枚の担体 5 2 1 で高吸液部 5 2 2 をはさみ込む。

また、図示は省略するが、高吸液部 5 2 2 を押え体 5 5 0 の中央リング
25 5 5 1 に嵌め込んで取付け、その押え体 5 5 0 を容器本体 5 4 0 に取付けることで高吸液部 5 2 2 を担体 5 2 1 に接触させる。

また、容器本体 5 4 0 の中央支持部 5 4 1 に高吸液部 5 2 2 を設け、この高吸液部 5 2 2 に担体 5 2 1 を重ね合わせて載置する。

前述の高吸液部 5 2 2 の態様を具体的に説明する。

前記高吸液部 5 2 2 を担体 5 2 1 と同一素材から形成、又は異質素材から形成し、その高吸液部 5 2 2 を担体 5 2 1 と一体、別体として接着、縫合、載置、溶着とする。

また、担体 5 2 1 の一部分に素材を吹き付ける等の特殊加工により目付を大きくして高吸液部 5 2 2 とする。

本発明に用いる薬剤含浸体 5 2 0 の担体 5 2 1、高吸液部 5 2 2 の素材としては、天然繊維、化学繊維、不織布（天然繊維、化学繊維、炭素繊維など）、樹脂ネット（ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなど）、布綿（織物、編み物）、抄紙（パルプ、リントー、合成紙など）などが例示され、シート形状、網形状、ハニカム形状、すのこ形状、格子形状、折り畳み形状などをなす成形体、又はその形状を確保する収容形状、綿状形状、スポンジ状形状、更に発泡ビーズ、発泡ウレタン、木や竹の炭、などが挙げられる。

また、これらの中で、気流の通気性や薬剤の含有性に優れた不織布が好ましい。

本発明において、高吸液部 5 2 2 に薬液を補給する方法としては、量表示されたスポイト式容器、適量収容されたアンプル容器、定量型容器、定量カップ付き容器などの定量容器、ノズル容器などで補給量を目視で確認しながら供給、などが挙げられる。

また、補給に際し補給時期が目視で確認できれば便利であるので、従来から知られているインジケータを用いた薬剤含浸体 5 2 0 に含浸した薬剤が全て大気に放散された時期を表示するようにすることが好ましい。

本発明に用いる薬剤含浸体 5 2 0 の担体 5 2 1 に含浸する薬剤として

は、常温、送風などの条件で揮散する害虫防除剤（殺虫剤、忌避剤、害虫成長制御剤、殺ダニ剤、防虫性精油など）、芳香剤、芳香消臭剤、消臭剤、防カビ剤、除菌剤、害獣忌避剤などが挙げられる。

そして、上記の薬剤で、殺虫を目的として使用する場合、従来より用い
5 られている各種揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられている。

さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフル
10 トリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

前記薬剤に、薬剤を徐放化する揮散調整剤（ワセリン類、グリコール類など）、溶解剤（パラフィン類、多価アルコール類、脂肪酸エステル類など）、酸化防止剤（BHT、BHAなど）、インジケータ機能剤（色変色素
15 など）、紫外線吸収剤などを必要に応じて使用する。

本発明の薬剤カートリッジ503は、前述した送風式薬剤放散装置に用いるものに限ることはなく、送風機のファンに直接取付けるようにしても良いし、ファンと一体的にしても良い。また扇風機の吸込み側、吐出側に取付けても良いし、エアコンの吹出口に取付けることもできる。

20 次に、第7の実施形態について説明する。

まず、本発明の薬剤カートリッジを用いて薬剤を大気に放散させる送風式薬剤放散装置の一例を図52に基づいて説明するが、この送風式薬剤放散装置に限ることはないことは勿論である。

図52に示すように、装置本体601に送風機602が設けてあると共に、本発明に係る薬剤カートリッジ603が着脱自在に取付けてあり、そ
25 の送風機602のファン604をモータ605で回転すると薬剤カート

リッジ 6 0 3 に空気が流通するように構成してある。

前記装置本体 6 0 1 は本体部 6 1 0 とカバー部 6 1 1 を備え、送風機取付部 6 1 2 と電池取付部 6 1 3 を形成していると共に、空気吸込部 6 1 4 と空気吐出部 6 1 5 を有している。

- 5 前記送風機 6 0 2 はハウジング 6 0 6 にファン 6 0 4 とモータ 6 0 5 を設けたもので、そのハウジング 6 0 6 が送風機取付部 6 1 2 に設けてあり、ハウジング 6 0 6 の吸込口 6 0 6 a が空気吸込部 6 1 4 に連通し、図示しない吐出口が空気吐出部 6 1 5 にそれぞれ連通している。

前記電池取付部 6 1 3 に電池 6 0 7 が取付けてある。

- 10 前記カバー部 6 1 1 は開閉自在に本体部 6 1 0 に連結され、このカバー部 6 1 1 を開放することで薬剤カートリッジ 6 0 3、電池 6 0 7 を取付け、取り外しできるようにしてある。

- 前記薬剤カートリッジ 6 0 3 は薬剤含浸体 6 2 0 と固定具 6 3 0 を備えている。なお、薬剤カートリッジ 6 0 3 は薬剤含浸体 6 2 0 と固定具 6
15 3 0 に限ることはなく、薬剤含浸体 6 2 0 と後述する容器で構成しても良いし、薬剤含浸体 6 2 0 のみで構成しても良い。

- 前記薬剤含浸体 6 2 0 は、図 5 2 ～図 5 6 に示すように通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状で、かつ扁平な加工シート材 6 2 1 に薬剤を含浸して
20 保持したものである。

よって、加工シート材 6 2 1 の単位体積当たりの表面積が大きく、多くの薬剤を保持できるから、薬剤含浸体 6 2 0 の単位体積当たりの薬剤量が多く、全体を小さくできる。

- 例えば、多量の薬剤を保持した薬剤含浸体 6 2 0 を薄くすることができ
25 る。

そして、前記加工シート材 6 2 1 の周縁部 6 2 2 を熱溶着などで接合し

てひだ形状がくずれないように保持し、折り畳みの間隔を維持している。
つまり、シートを多数折り畳んだひだ形状のままであると、外力によって
伸びてひだ形状がくずれ、折り畳みの間隔が維持できない。

このようであるから、加工シート材 6 2 1 の全域に亘って空気がほぼ均
5 一に流通するので、薬剤含浸体 6 2 0 の全域からほぼ均一に薬剤が放散す
る。

したがって、薬剤含浸体 6 2 0 の保持している薬剤の量は全域に亘って
ほぼ均一に減少し、その薬剤含浸体 6 2 0 が保持している薬剤を有効利用
できる。

10 この実施の形態では、薬剤含浸体 6 2 0 は平面形状が円形で、加工シー
ト材 6 2 1 の周縁部 6 2 2 が円形リング状となっている。

なお、薬剤含浸体 6 2 0 は平面形状が矩形であっても良く、その場合に
は対向した 2 つの端面部分を接合すれば良い。

前記固定具 6 3 0 は薬剤含浸体 6 2 0 の周縁部を保持して薬剤含浸体
15 6 2 0 を所定形状に維持し、折り畳み方向に変形しないようにしていると
共に、その固定具 6 3 0 を手で持つことで薬剤カートリッジ 6 0 3 を取り
扱うことができ、薬剤カートリッジの取り扱いが容易で、薬剤が手に付着
しないようにしている。なお、薬剤含浸体 6 2 0 の固定具 6 3 0 による保
持部分以外には空気が流通することは勿論である。

20 つまり、固定具 6 3 0 は薬剤保持体 6 2 0 を保持する保持部と、空気が
流通する空気流通部を備えている。

例えば、固定具 6 3 0 は支持部材 6 3 1 と押え部材 6 3 2 を備え、その
支持部材 6 3 1 はリング体 6 3 3 の下部に支持片 6 3 4 を設けた形状で、
支持片 6 3 4 がリング体 6 3 3 の内面 6 3 3 a よりも内方に突出してい
25 る。

前記押え部材 6 3 2 は、支持部材 6 3 1 のリング体 6 3 3 に嵌合するリ

ング形状である。

そして、薬剤含浸体 6 2 0 を支持部材 6 3 1 のリング体 6 3 3 内に嵌め込むように設けて外周縁部分 6 2 2 を支持片 6 3 4 に接し、押え部材 6 3 2 をリング体 6 3 3 に嵌合して取付けて前述の外周縁部分に押しつけて
5 支持片 6 3 4 と押え部材 6 3 2 で薬剤含浸体 6 2 0 の外周縁部分を挟持する。

つまり、リング形状の支持部材 6 3 1 と押え部材 6 3 2 が前述の保持部で、その支持部材 6 3 1、押え部材 6 3 2 の内部が前述の空気流通部である。

10 この実施の形態では図 5 6 に示すように、加工シート材 6 2 1 の接合部分（周縁部 6 2 2）が、その加工シート材 6 2 1 の厚さ方向中央に位置し、その接合部分を固定具 6 3 0 で保持した状態で、加工シート材 6 2 1 の上面 6 2 1 a、下面 6 2 1 b が保持部分よりも等しい寸法だけ上方、下方に張り出すようにしてある。

15 これに限ることはなく、図 5 7 に示す第 1 変形例のように、加工シート材 6 2 1 の接合部分（周縁部 6 2 2）を加工シート材 6 2 1 の下面 6 2 1 b とほぼ同一高さとし、その接合部分を固定具 6 3 0 で保持した状態で、加工シート材 6 2 1 の上面 6 2 1 a が保持部分よりも大きく上方に張り出すようにしても良い。

20 このようにすれば、薬剤含浸体 6 2 0 の下面 6 2 0 a と固定具 6 3 0 の下面 6 3 0 a をほぼ面一、好ましくは面一にできると共に、固定具 6 3 0 の上下寸法を小さくできるので、薬剤カートリッジ 6 0 3 を装置本体 6 0 1 に載置し易いと共に、固定具 6 3 0 を小さくできる。

例えば、図 5 2 においてはハウジング 6 0 6 の上面 6 0 6 b に薬剤カートリッジ 6 0 3 を載置してあるので、薬剤含浸体 6 2 0 の下面 6 2 0 a と
25 固定具 6 3 0 の下面 6 3 0 a を同一高さとして載置し易くする必要があ

り、図 5 7 に示す薬剤カートリッジ 6 0 3 の上下寸法 H_1 よりも図 5 6 に示す薬剤カートリッジ 6 0 3 の固着具 6 3 0 の上下寸法 H_2 が大きくなる。つまり、支持片 6 3 4 の厚さ（上下寸法）が異なる。

前述した薬剤含浸体 6 2 0 の加工シート材 6 2 1 は通気性だけではなく、吸液性を有しているので、その薬剤含浸体 6 2 0 が保持している薬剤を全て大気に放散した場合、つまり薬剤カートリッジを使い切った後に、その加工シート材 6 2 1 に薬液を補給することで全域に亘って浸透するから、再び薬剤を保持した薬剤含浸体とすることができる。

したがって、使い切った薬剤カートリッジを繰り返して使用できる。

10 このように、使い切った後に薬液を補給するのに好ましい薬剤カートリッジを図 5 8、図 5 9 に基づいて説明する。

前記固定具 6 3 0 の支持片 6 3 4 を、外周リング 6 3 4 a と内周リング 6 3 4 b を連結片 6 3 4 c で連結した形状とする。

15 固定具 6 3 0 の押え部材 6 3 2 を、外周リング 6 3 2 a と内周リング 6 3 4 b を複数の連結杆 6 3 2 c で連結した形状とする。

このような薬剤カートリッジであれば、薬剤含浸体 6 2 0 における内周リング 6 3 2 b で囲まれた部分に薬剤を供給することができ、その薬剤の補給が容易にできる。

20 前述した図 5 8、図 5 9 に示す固定具 6 3 0 によれば、薬剤含浸体 6 2 0 の上面と下面を各内周リング 6 3 2 b、6 3 4 b、各連結杆 6 3 2 c、6 3 4 c で支持できるから、薬剤含浸体 6 2 0 の垂れを防止できる。この場合に、内周リング部、連結片は支持部材 6 3 1 と押え部材 6 3 2 の一方にのみ設けても良い。

25 なお、内周リングの大きさ、形状、数は自由であり、薬剤含浸体 6 2 0 の大きさ、加工シート材の使用材料、薬剤含浸量などに応じて設定することが望ましい。

また、支持部材 6 3 1 にのみ内周リング、連結片を設け、その内周リング、連結片の上面に凹部を形成し、前述のように補給した薬液が凹部に溜まることで、液垂れを防止することもできる。

5 なお、図示は省略するが図 5 4 に示す薬剤カートリッジの加工シート材 6 2 1 の表面に、薬液を補給する部分の目印、例えば色、マークを付しても良い。

次に、他の変形例を説明する。

図 6 0 に示すように、薬剤含浸体 6 2 0 を加工シート材 6 2 1 の周縁部 6 2 2 が接合されていない形状とする。

10 そして、固定具 6 3 0 で加工シート材 6 2 1 の周縁部を挟持することで前述した図 5 5 に示すように加工シート材 6 2 1 の周縁部 6 2 2 を押しつぶして保持し、ひだ形状がくずれないようにする。

この場合には、支持部材 6 3 0 のリング体 6 3 3 に押え部材 6 3 2 が螺合し、加工シート材 6 2 1 の周縁部 6 2 2 をしっかりと保持できるように
15 することが好ましい。

前述の図 5 3 に示すように周縁部 6 2 2 を接合した薬剤含浸体 6 2 0 のみで薬剤カートリッジとしても良い。

前述の薬剤含浸体 6 2 0 を空気流通部を有する容器 6 4 0 内に設けて薬剤カートリッジ 6 0 3 としても良い。

20 例えば、図 6 1 に示す第 2 変形例のように、容器 6 4 0 は、リング形状で内周部分が空気流通部で、外周リング状部に内向きの凹部 6 4 1 を有する形状で、この内向きの凹部 6 4 1 内に薬剤含浸体 6 2 0 の接合した端面部分 6 2 2 (つまり、周囲) を嵌め込んで薬剤含浸体 6 2 0 を容器 6 4 0 内に設ける。

25 図 6 2 に示す第 3 変形例のように、薬剤含浸体 6 2 0 の接合していない端面部分 6 2 2 を内向きの凹部 6 4 1 内に嵌め込んで薬剤含浸体 6 2 0

を容器 6 4 0 内に設ける。

このようにすれば、容器 6 4 0 を手で持って取り扱いできるから、その取り扱いが容易であると共に、薬剤が手に付着することがない。

以上の各例によれば薬剤含浸体 6 2 0 を円形状で、固定具 6 3 0、容器
5 6 4 0 をリング形状としたが、これに限ることはなく薬剤含浸体 6 2 0 を
矩形状、三角形状、半円形状などにし、固定具 6 3 0、容器 6 4 0 を矩形
枠状、三角形枠状、半円形枠状などにしても良い。

つまり、固定具 6 3 0 は薬剤含浸体 6 2 0 の周縁部を保持、押しつける
形状で、空気流通部を有するものであれば良く、容器 6 4 0 は薬剤含浸体
10 6 2 0 を収容すると共に、空気流通部を有するものであれば良い。

前述の各例は、薬剤含浸体 6 2 0 を扁平形状として薬剤カートリッジを
薄くしたが、これに限ることはなく薬剤含浸体 6 2 0 を筒形状とし、容器
6 4 0 を環状の中空部を有する筒形状とし、その環状の中空部内に薬剤含
浸体 6 2 0 を挿入して取付けることで薬剤カートリッジとすることもで
15 きる。

例えば、図 6 3 と図 6 4 に示す第 4 変形例のように、内筒 6 4 2 と外筒
6 4 3 と一端面板 6 4 4 と他端面板 6 4 5 で環状の中空部 6 4 6 と軸心
の中空部 6 4 7 を有する筒形状の容器 6 4 0 とする。

この内筒 6 4 2 と外筒 6 4 3 には通気部 6 4 2 a, 6 4 3 a が形成され
20 ていると共に、一端面板 6 4 4 に流通孔 6 4 4 a が形成されている。

通気性と吸液性を有するシートを前述の環状の中空部 6 4 6 の径方向
の長さ（外筒 6 4 3 の半径－内筒 6 4 2 の半径）の折り幅で山折り、谷折
りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状で、かつ筒形状の加工シー
ト材 6 2 1 に薬剤を含浸して保持した形状の薬剤含浸体 6 2 0 とする。

25 この薬剤含浸体 6 2 0 を容器 6 4 0 の環状の中空部 6 4 6 内に挿入し
て取付けて薬剤カートリッジとする。

この薬剤カートリッジ 6 0 3 は装置本体 6 0 1 に着脱自在に取付けられる。

例えば、一端面板 6 4 4 の流通孔 6 4 4 a の周縁に外向き鉤形の係止片 6 4 8 を設け、装置本体 6 0 1 の空気吸込部 6 1 4 の周縁に内向き鉤形の
5 受片 6 4 9 を設け、この受片 6 4 9 に係止片 6 4 8 を係止することで流通孔 6 4 4 a と空気吸込部 6 1 4 が連通して取付けられるようにしてある。

そして、送風機 6 0 2 のファン 6 0 4 をモータ 6 0 5 で駆動することで、外筒 6 4 3 の通気部 6 4 3 a、環状の中空部 6 4 6、内筒 6 4 2 の通気部 6 4 2 a、軸心の中空部 6 4 7、一端面板 6 4 4 の流通孔 6 4 4 a、装
10 置本体 6 0 1 の空気吸込部 6 1 4、空気吐出部 6 1 5 と空気が流れ、薬剤含浸体 6 2 0 に保持された薬剤が大気に放散される。

このようにすることで、前述の実施の形態と同様に薬剤含浸体 6 2 0 の単位体積当たりの薬剤量が多く、全体を小さくできる。

この実施の形態によれば、多量の薬剤を保持した薬剤含浸体 6 2 0 を小
15 径にできるから、全体を小径にできる。

また、容器 6 4 0 を持って取り扱えるので、その取り扱いが容易であると共に、薬剤含浸体 6 2 0 に保持した薬剤が手に付着することがない。

なお、図示は省略するが、容器 6 4 0 の環状の中空部 6 4 6 内に仕切り
20 板を設けて加工シート材 6 2 1 のひだ形状がくずれないようにしても良いし、内筒 6 4 2 に突起を周方向に間隔を置いて複数設け、この隣接した突起間で加工シート材 6 2 1 の 1 つの山形部を保持してひだ形状がくずれないようにしても良い。

前述したように、本発明の薬剤カートリッジは送風式薬剤放散装置の装
25 置本体 6 0 1 に設け、送風機 6 0 2 で送風することで薬剤を大気に放散するようにしたが、これに限ることはなく、薬剤カートリッジを設置手段を

用いて室内等に設置し、自然揮散によって薬剤を大気に放散することも可能である。

この場合には、薬剤カートリッジの形状を扇子形状、提灯形状、アコーディオン形状、カーテン形状とすることもできる。

- 5 本発明の加工シート材 6 2 1 に用いるシートは、通気性と吸液性を要求されるため、不織布や織編物等に加工してなるものが好ましい。さらに、材質としては使用される薬剤に応じ、耐薬剤性を有することが望まれる。例えば、天然繊維としてパルプ、綿、羊毛、麻、絹等、合成繊維としてポリプロピレン、ポリエチレン、ポリアミド、ポリエチレンテレフタレート
- 10 、ポリブチレンテレフタレート、ポリサルフォン、レーヨン、メタアクリル酸樹脂、ガラス繊維等が挙げられる。

前記加工シート材 6 2 1 のシートとしては、薬液の吸液性かつ保持性を確保するために、その厚さは 0. 0 2 m m ~ 1. 0 m m の範囲が好ましい。

- 15 また、薬剤を放散（空気の流通性）させやすくするためには、シートの密度は 0. 0 5 ~ 1. 0 g / c m ³ の範囲が好ましい。

- また、加工シート材 6 2 1 の折り幅については、折り畳み幅にも関係するので断定することができないが、薬剤カートリッジの小型化、特に薄型化を目指す上で、折り幅を長くすると薬剤含浸体の厚みが増大していく傾向にあることから好ましいとはいえず、薬剤含浸体の面積に応じて決める
- 20 ことが望ましい。折り幅は、好ましくは 3 0 m m 以下、2 m m 以上である。

なお、図 6 3、図 6 4 に示す筒形状の薬剤カートリッジの場合には、折り幅は 3 0 m m 以上に大きくすることが可能である。

- 25 また、加工シート材 6 2 1 の折り畳んだひだとひだの間隔については特に制限されないが、間隔が広いと薬剤含浸量が少なく、押圧状態（重

ねて押さえつけられた状態)であると薬剤含浸量は増えるが空気の流通を阻害し薬剤の放散を妨げる。前述の間隔は、好ましくは10mm以下、1mm以上(目視で接触すれすれの状態)である。

また、ひだ形状としては、同一の高さ(折り幅、折り畳み間隔が同じ)
5 の他に、ちぐはぐな高さ(折り幅が異なり、間隔が同じ)、中央よりに高い、などの形状、また水平形状の他に弓なり、などの形状が挙げられる(熱溶着の場合、外周が丸みを帯びた状態になる)。

前記固定具630の材質としては、樹脂類(ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリアセタール、ナイロン、アクリル、ABS、ASなど)合成紙、金属類などが挙げられる。
10

本発明に用いる揮散性の薬剤としては、常温、送風で揮散する害虫防除剤(殺虫剤、忌避剤、昆虫成長制御剤、殺ダニ剤、防虫精油など)、芳香剤、消臭剤、除菌剤、害獣忌避剤などが挙げられる。前述の薬剤としては、メトフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、トランスフルトリン
15 、プロフルトリンから選ばれた少なくとも1つの害虫防除剤が好ましい。

これら薬剤は高致死活性を示し、使用量が微量でよく、小型の薬剤カートリッジに最適である。

前記薬剤に、薬剤を徐放化する揮散調整剤(ワセリン類、グリコール類など)、溶解剤(パラフィン類、多価アルコール、脂肪酸エステル類など)
20)、酸化防止剤(BHT、BHAなど)、インジケータ機能剤(色変色素など)、紫外線吸収剤などを必要に応じて使用する。

前述したように、使い切った後に薬剤を補給する方法としては、量表示されたスポイト式容器、適量収容されたアンプル容器、定量型容器、定量カップ付き容器などの定量容器、ノズル容器などで補給量を目視で確認しながら供給、などが挙げられる。
25

また、補給に際し、補給時期が目視で確認できれば便利であるので、従

来から知られているインジケータを用いた薬剤含浸体 6 2 0 に含浸した薬剤が全て大気に放散された時期を表示するようにすることが好ましい。

次に、第 8 の実施形態について説明する。

本発明の薬剤含浸体を用いて薬剤を大気に放散する送風式薬剤放散装置 5 の一例を図 6 5 に基づいて説明する。

装置本体 7 0 1 内に送風機 7 0 2 と電池 7 0 3 と薬剤含浸体 7 0 4 a を含む薬剤カートリッジ 7 0 4 を設け、その送風機 7 0 2 のファン 7 0 2 a をモータ 7 0 2 b で回転すると、吸込口 7 0 5 から空気を吸い込み、その吸い込んだ空気を薬剤含浸体 7 0 4 a を通して吐出口 7 0 6 から放出し、
10 薬剤含浸体 7 0 4 a が保持した薬剤を大気に放散する。

前記装置本体 7 0 1 の薬剤カートリッジ 7 0 4 と対向した部分 7 0 1 a は開閉自在で、その薬剤カートリッジ 7 0 4 を取り出したり、取り付けたりできるようにしてある。

例えば、装置本体 7 0 1 を本体部 7 0 7 にカバー部 7 0 8 を開閉自在に
15 設けたものとし、そのカバー部 7 0 8 を開放することで薬剤カートリッジ 7 0 4 と電池 7 0 3 を取り出したり、取り付けたりできるようにしてある。

前記薬剤含浸体 7 0 4 a は、ハニカム体 7 1 0 と、通気性と吸液性を有するシート体 7 2 0 とから成り、そのハニカム体 7 1 0 とシート体 7 2 0
20 に薬剤を含浸して保持してある。

前記ハニカム体 7 1 0 は厚さ方向一側面 7 1 0 a と他側面 7 1 0 b に開口した多数のコア 7 1 1 を有し、その厚さ方向に空気が流通するようにしてある。

前記ハニカム体 7 1 0 の厚さ方向における一方の側面、好ましくは空気
25 流出側の側面（他側面 7 1 0 b）の全面に渡ってシート体 7 2 0 が設けてある。

好ましくは、ハニカム体 7 1 0 は厚さ方向の寸法が、幅方向、長さ方向の寸法よりも小さい扁平な形状、つまり、ハニカム体 7 1 0 は薄く平面方向に大きい形状で、その厚さ方向に開口した多数のコア 7 1 1 を有し、その空気流出側の側面の全面に渡ってシート体 7 2 0 が設けてある。

- 5 前記ハニカム体 7 1 0 のコア 7 1 1 の形状は、前述の蜂の巣形状の他に、段ボールの波形状、円形、三角形、四角形などが例示できる。

また、前述のコア 7 1 1 が積層状に成形されたものの他に、渦巻状に巻き込んだものであっても良い。このハニカム体 7 1 0 の素材としては、後述するシート体 7 2 0 の素材などが挙げられる。

- 10 このようであるから、薬剤カートリッジ 7 0 4 を薄くすることができるので、装置本体 7 0 1 が薄くなる。

また、シート体 7 2 0 がハニカム体 7 1 0 で補強されて所定の形状に維持できる。

- 15 また、ハニカム体 7 1 0 には空気がスムーズに流通し、シート体 7 2 0 を補強するハニカム体 7 1 0 によってシート体 7 2 0 に空気が流通することを阻害することがなく、そのハニカム体 7 1 0、シート体 7 2 0 に含浸して保持した薬剤を有効に大気に放散できる。

- 20 また、図 6 5 に示すように装置本体 7 0 1 に取付けることで、ハニカム体 7 1 0 とシート体 7 2 0 に空気が流通し、前述のようにファン 7 0 2 a を回転することでハニカム体 7 1 0 とシート体 7 2 0 に保持した薬剤が大気に放散される。

- 25 また、薬剤含浸体 7 0 4 a のハニカム体 7 1 0、シート体 7 2 0 に保持した薬剤が無くなった場合には、薬剤カートリッジ 7 0 4 を装置本体 7 0 1 から取り出し、そのシート体 7 2 0 がハニカム体 7 1 0 の上となるように置き、そのシート体 7 2 0 の一部分に薬液を滴下等によって供給し、その薬液をシート体 7 2 0 の全域に渡って浸透させると共に、同時に、その

シート体 7 2 0 からシート体 7 2 0 と密着したハニカム体 7 1 0 面にも浸透し、ハニカム体 7 1 0 の全域に順次含浸させて保持することで、薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体 7 0 4 a とする。

詳しくは、前記シート体 7 2 0 はハニカム体 7 1 0 のコア 7 1 1 を構成する厚さ方向に向かう多数の壁材 7 1 2 に渡って設けてあるから、その各壁材 7 1 2 に薬剤が含浸して保持される。

この薬剤含浸体 7 0 4 a を含む薬剤カートリッジ 7 0 4 を再度装置本体 7 0 1 内に取り付けて薬剤を大気へ放散する。

前述のようにシート体 7 2 0 に薬液を滴下して供給することによって、ハニカム体 7 1 0 の全域に亘って薬剤を含浸して保持できるし、そのシート体 7 2 0 に供給する薬液の量は、ハニカム体 7 1 0 、シート体 7 2 0 に含浸して保持する量に見合う値で良く、無駄にならない。

したがって、使用済みのハニカム体 7 1 0 、シート体 7 2 0 (つまり薬剤含浸体) に、使用者が簡単に薬剤を再度含浸して保持できる。

前記ハニカム体 7 1 0 の厚さ方向の一方の側面 (例えば、他側面 7 1 0 b) にシート体 7 2 0 が密着し、そのシート体 7 2 0 に供給された薬剤がハニカム体 7 1 0 (壁材 7 1 2) にスムーズに確実に含浸する。

このようにすることで、シート体 7 2 0 からハニカム体 7 1 0 (壁材 7 1 2) に薬液がスムーズに確実に含浸する。

この実施の形態では、保持容器 7 3 0 によってハニカム体 7 1 0 の一方の側面 (例えば、他側面 7 1 0 b) にシート体 7 2 0 が密着してある。

前記保持容器 7 3 0 は、リング形状の容器本体 7 4 0 とリング形状の押え体 7 5 0 を備え、この容器本体 7 4 0 内に薬剤含浸体 7 0 4 a を入れ、押え体 7 5 0 を嵌合して連結することでハニカム体 7 1 0 とシート体 7 2 0 を挟持し、そのハニカム体 7 1 0 の厚さ方向の一方の側面にシート材 7 2 0 を密着している。

このようであるから、ハニカム体 710 の一方の側面にシート体 720 をしっかりと密着させることができる。

次に、薬剤含浸体 704a を含む薬剤カートリッジ 704 の第 1 変形例を図 66 ～ 図 68 に基づいて説明する。

5 前記容器本体 740 は、中央支持部 741 と外周支持部 742 を複数のステー 743 で一体的に連結したもので、その隣接したステー 743 と中央支持部 741 と外周支持部 742 との間の部分が開口して空気流通部 744 を形成し、前記外周支持部 742 にはリング体 745 が一体的に設けてある。

10 前記押え体 750 は、リング体 745 に嵌合するリング形状である。

前記ハニカム体 710 が、前述のリング体 745 に嵌め込みされてシート体 720 が中央支持部 741、外周支持部 742、ステー 743 の上面に接して支持される。

15 前記押え体 750 はリング体 745 に嵌合して取付けられ、ハニカム体 710 の一側面 710a における外周縁に接してハニカム体 710 とシート体 720 の外周縁部分を挟持する。

前記中央支持部 741 には支持面 741a に開口した薬液溜め部 746 を有し、その薬液溜め部 746 は支持面 741a と反対側面 741b に形成した注入口 747 で外部に開口している。

20 このようであるから、薬剤カートリッジ 704 (保持容器 730) を装置本体 701 から取り出し、上下反転して注入口 747 が上向きとなるように載置する。

そして、注入口 747 から薬液を薬液溜め部 746 内に滴下して供給することで溜める。

25 これによって、薬液がシート体 720 の中央部分から全域に順次浸透すると共に、同時にシート体 720 からシート体 720 に密着したハニカム

体 7 1 0 の面にも浸透し、ハニカム体 7 1 0 の全域に順次含浸される。

次に、薬剤含浸体 7 0 4 a を含む薬剤カートリッジ 7 0 4 の第 2 変形例を説明する。

図 6 9 と図 7 0 に示すように、容器本体 7 4 0 の外周支持部 7 4 2 の支持面 7 4 2 a に、リング状の薬液溜め部 7 4 6 を形成し、この薬液溜め部 7 4 6 を注入口 7 4 7 で下面に開口する。

このようにすれば、シート体 7 2 0 の外周部に薬液を供給し、その薬液が中央部に向けて浸透する。

次に、薬剤含浸体 7 0 4 a を含む薬剤カートリッジ 7 0 4 の第 3 変形例を説明する。

図 7 1 と図 7 2 に示すように、容器本体 7 4 0 の中央支持部 7 4 1 と外周支持部 7 4 2 に薬液溜め部 7 4 6 と注入口 7 4 7 をそれぞれ形成する。

このようにすれば、シート体 7 2 0 の中央部と外周部に薬液をそれぞれ供給して外周に向けて浸透し、かつ中央に向けて浸透するから、短時間に効率良くハニカム体 7 1 0 に薬剤を含浸して保持できる。

前述の説明では、シート体 7 2 0 をハニカム体 7 1 0 よりも上とし、このシート体 7 2 0 の上に薬液を直接的に供給するようにしたが、これに限ることはなく、シート体 7 2 0 をハニカム体 7 1 0 よりも下とし、そのハニカム体 7 1 0 の上からコア 7 1 1 内に薬液を供給してシート体 7 2 0 に供給するようにしても良い。

この場合には、図 6 8、図 7 2 に示す注入口 7 4 7 を形成する必要がないし、薬液溜め部 7 4 6 は図 6 8、図 7 2 に示すように深くする必要がない。

例えば、図 7 3 と図 7 4 に示す第 4 変形例のように、中央支持部 7 4 1、外周支持部 7 4 2 に浅い薬液溜め部 7 4 6 を形成する。

そして、中央部のコア 7 1 1 と外周部のコア 7 1 1 から薬液をシート体

720の中央部と外周部に供給する。

また、薬剤を供給する注入箇所として、例えば、薬液溜め部に対面する押え部位置に目印になるリング枠を設けたり、または、注入箇所を色づけたコアにすることもできる。

- 5 前述の各例では、薬剤含浸体704aを、そのシート体720側が内気側で、ハニカム体710が外気側となるように取付けしたが、これに限ることはなく、反対であっても良い。

例えば、使用する薬剤の種類によってはシート体720を外気側へ向け、ハニカム体710が内気側となるように取付けても良い。

- 10 また、前述の各例では、薬剤含浸体704aはハニカム体710の一面にシート体720を密着させたが、ハニカム体710の両面にシート体720をそれぞれ密着させても良い。

- 本発明に用いる薬剤含浸体704aのハニカム体710に含浸する薬剤としては、常温、送風などの条件で揮散する害虫防除剤（殺虫剤、忌避剤、害虫成長制御剤、殺ダニ剤、防虫性精油など）、芳香剤、芳香消臭剤、消臭剤、防カビ剤、除菌剤、害獣忌避剤などが挙げられる。
- 15

- そして、上記の薬剤で、殺虫を目的として使用する場合、従来より用いられている各種揮散性殺虫剤を用いることができ、ピレスロイド系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤、有機リン系殺虫剤等を挙げることができる。一般に安全性が高いことからピレスロイド系殺虫剤が好適に用いられている。
- 20

さらに、微量で効力を発揮する高活性のメトフルトリン、トランスフルトリン、エムペントリン、テラレスリン、プロフルトリンが薬剤含浸体を薄く、また小さくできることからより好ましい。

- 25 前記薬剤に、薬剤を徐放化する揮散調整剤（ワセリン類、グリコール類など）、溶解剤（パラフィン類、多価アルコール類、脂肪酸エステル類な

ど)、酸化防止剤(BHT、BHAなど)、インジケータ機能剤(色変色素など)、紫外線吸収剤などを必要に応じて使用する。

本発明に用いるシート体720の素材としては、天然繊維、化学繊維、不織布(天然繊維、化学繊維、炭素繊維など)、樹脂ネット(ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなど)、布綿(織物、編み物)、抄紙(パルプ、リントー、合成紙など)などが例示され、シート形状、蛇腹形状、網形状、ハニカム形状、すのこ形状、格子形状などをなす成形体、又はその形状を確保する収容形状、綿状形状、スポンジ状形状などが挙げられる。

10 また、これらの中で、気流の通気性や薬剤の含有性に優れた不織布などからなるシート形状が好ましい。

本発明において、薬剤含浸体704aに薬液を補給する方法としては、量表示されたスポイト式容器、適量収容されたアンプル容器、定量型容器、定量カップ付き容器などの定量容器、ノズル容器などで補給量を目視で
15 確認しながら供給、などが挙げられる。

また、補給に際し、補給時期が目視で確認できれば便利であるので、従来から知られているインジケータを用い、薬剤含浸体704aのハニカム体710に含浸した薬剤が全て大気に放散された時期を表示するようにすることが好ましい。

請求の範囲

1. 装置本体と送風機と薬剤容器と電池を備えた送風式薬剤放散装置において、

5 前記装置本体は、送風機取付用凹部と通気部と電池收容凹部を有する一側本体と、通気部を有する他側本体をヒンジで開閉自在に連結して成り、

前記送風機は、モータでファンを回転するようにして成り、そのモータ、ファンが前記送風機取付用凹部に取付けられ、

前記薬剤容器は、送風機と他側本体の通気部との間に設けられ、

前記電池は、前記電池收容凹部内に着脱自在に收容して取付けてあり、

10 前記一側本体の送風機取付用凹部と電池收容凹部は平面方向に離隔して厚さ方向には重ならないようにし、

薬剤容器は、シート状の担体に薬剤を含浸させた薬剤含浸体を含んでいることを特徴とする送風式薬剤放散装置。

15 2. 装置本体は、吊り下げ具のフックに係止するフック係止部と、その吊り下げ具の嵌合部が嵌合する吊り下げ具取付用の穴を有する請求項1記載の送風式薬剤放散装置。

3. 吸気口と第1排気口、第2排気口を有する装置本体と、

20 この装置本体に設けた薬剤容器、ファン、モータを備え、

前記薬剤容器は害虫防除成分を含浸させた薬剤含浸体を保持し、

前記モータでファンを回転することで吸気口より空気を吸い込み、その空気を薬剤容器内の薬剤含浸体に当てて第1排気口、第2排気口より害虫防除成分とともに気中に排出する送風式害虫防除装置において、

25 前記第1排気口、第2排気口は、半径方向に所定の長さで、かつファンの回転方向に対して傾斜した孔形状で、装置本体を使用者の身につけて使

用する際に第 1 排気口から上方向に空気を排出し、第 2 排気口より下方向に空気を排出するようにしたことを特徴とする送風式害虫防除装置。

4. 第 1 排気口、第 2 排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面、及び内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開口縁を連続する下流側案内面は、ファンの回転方向に対して傾斜している請求項 3 記載の送風式害虫防除装置。

10

5. 装置本体は、第 1・第 2 排気口とファン収容室を有する本体部の厚さ方向一側部に、吸気口を有するカバー部を着脱自在に取付け、その本体部とカバー部の間にファン収容室に開口した薬剤収容室を有する形状で、

前記本体部に、そのカバー部と反対側の背面に開口したモータ収容室と電池収容室を形成し、

前記モータ収容室にモータを設けると共に、電池収容室に電池を設け、このモータと電池が本体部の厚さ方向に重なり合うことがないようにした請求項 4 記載の送風式害虫防除装置。

6. 装置本体に、害虫防除成分とともに空気を気中に排出する第 3 排気口を形成し、

この第 3 排気口は、半径方向に所定の長さで、かつファンの回転方向に対して傾斜した孔形状で、装置本体を使用者の身につけて使用する際に、斜め上方向又は斜め下方向に空気を排出するようにした請求項 3 乃至 5

のいずれかに記載の送風式害虫防除装置。

7. 第3排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面、及び内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開口縁を連続する下流側案内面は、ファンの回転方向に対して傾斜している請求項6記載の送風式害虫防除装置。

8. 装置本体に、その装置本体を使用者の身につけて使用する際に横方向に空気を排出する補助排気口を形成し、上方向及び下方向を含めた全方向に空気を排出するようにした請求項3乃至7のいずれかに記載の送風式害虫防除装置。

9. 補助排気口は、第1・第2排気口又は第1・第2・第3排気口よりも空気流通抵抗が大きい請求項8記載の送風式害虫防除装置。

15

10. 補助排気口は、ファンと対向した内側入口と装置本体の外面に開口した外側出口を連通する孔形状で、その内側入口の上流側入口開口縁と外側出口の上流側出口開口縁を連続する上流側案内面、及び内側入口の下流側入口開口縁と外側出口の下流側出口開口縁を連続する下流側案内面が、ファンの回転方向に傾斜した孔形状で、

この補助排気口のファンの回転方向の開口寸法は、第1・第2排気口又は第1・第2・第3排気口のファンの回転方向の開口寸法よりも小さい請求項9記載の送風式害虫防除装置。

11. 揮散性の薬剤を収める薬剤容器と送風機とを備えて、送風機により吸込口から空気を吸い込み、薬剤容器より揮散した薬剤を吸い込んだ空気

と共に放出口から放散する装置本体と、

装置本体とは別体となり、装置本体の送風機の電源を備える電源本体と

電源本体の電源から装置本体の送風機に通電するために装置本体と電
5 源本体とにわたって連結する連結コードと、

から構成したことを特徴とする送風式薬剤放散装置。

1 2. 前記連結コードは装置本体及び／又は電源本体に対して取り外し可
能にしたことを特徴とする請求項 1 1 記載の送風式薬剤放散装置。

10

1 3. 前記装置本体に被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付
けたことを特徴とする請求項 1 1 又は 1 2 記載の送風式薬剤放散装置。

1 4. 前記電源本体に被装着物に装着可能にするための装着手段を取り付
15 けたことを特徴とする請求項 1 1 乃至 1 3 のいずれかに記載の送風式薬
剤放散装置。

1 5. 前記連結コードに被装着物に装着可能にするための装着手段を取り
付けたことを特徴とする請求項 1 1 乃至 1 4 のいずれかに記載の送風式
20 薬剤放散装置。

1 6. シート状で通気性と吸液性を有すると共に、薬剤を含浸した薬剤含
浸体と、

この薬剤含浸体を保持する保持容器を有し、

25 前記保持容器は、薬剤含浸体の上下面を挟持して保持する保持部と、空
気が流通する空気流通部を備え、

前記保持部と薬剤含浸体との間に空間部が形成され、この空間部は保持部に形成した通気部で外部に開口していることを特徴とする薬剤カートリッジ。

- 5 1 7 . 保持部の薬剤含浸体の下面と接する部分に凹部を形成し、この凹部と薬剤含浸体の下面との間に空間部を形成し

前記保持部における薬剤含浸体の上面に接する部分に通気孔を、前記凹部と対向して形成することで通気部とした請求項 1 6 記載の薬剤カートリッジ。

10

- 1 8 . シート状で通気性と吸液性を有すると共に、薬剤を含浸した薬剤含浸体と、

容器本体と蓋体で前記薬剤含浸体を保持する保持容器を備え、

- 15 前記容器本体は、中央保持部と外周保持部を複数の中間保持部で連結して空気流通部を形成し、その中央保持部と外周保持部と中間保持部の少なくとも 1 つの上面に凹部を形成し、この凹部と薬剤含浸体の下面で空間部を形成し、

- 20 前記蓋体は、中央押え部と外周押え部を複数の中間押え部で連結して空気流通部を形成し、その中央押え部と外周押え部と中間押え部の少なくとも 1 つに、前記凹部と対向した通気孔が形成され、

前記容器本体と蓋体は着脱自在に嵌合して連結されると共に、前記容器本体の空気流通部と蓋体の空気流通部に亘って空気が流通するようにしたことを特徴とする薬剤カートリッジ。

- 25 1 9 . 容器本体の中央保持部に凹部を形成し、外周保持部に環状の凹部を形成した請求項 1 8 記載の薬剤カートリッジ。

20. 中央保持部と中央押え部、外周保持部と外周押え部、中間保持部と中間押え部相互がそれぞれ同一形状、大きさで、空気流通部が同一形状、大きさとなるようにした請求項18又は19記載の薬剤カートリッジ。

5

21. 通気性と吸液性を有するシート体に薬剤を含浸したシート形状の薬剤含浸体と、この薬剤含浸体を保持する保持容器を備え、

その保持容器の中央部に液溜め凹部を有し、この液溜め凹部に溜めた薬剤液がシート体の外周部に向けて浸透するようにした薬剤カートリッジ。

10

22. 保持容器の外周部に液溜め凹部を有し、この液溜め凹部に溜めた薬剤液がシート体の中央部に向けて浸透するようにした請求項21記載の薬剤カートリッジ。

15 23. 薬剤含浸体を保持する保持容器は、容器本体と蓋体を備え、

前記容器本体は、中央支持部と外周支持部を複数の連結部で連結して空気流通部を有し、

前記蓋体は、中央押え部と外周押え部を複数の連結部で連結して空気流通部を有し、

20 前記中央支持部に形成した凹部と前記中央押え部に形成した供給口で中央部の液溜め凹部とし、

前記外周支持部に形成した外周凹部と前記外周押え部に形成した外周供給口で外周部の液溜め凹部とした請求項22記載の薬剤カートリッジ。

25 24. シート形状の薬剤含浸体と、この薬剤含浸体を保持した保持容器を備え、

前記薬剤含浸体は、シート状で吸液性と通気性を有し、かつ一部分に高吸液部を有した担体に、薬剤を含浸して保持したシート形状であることを特徴とする薬剤カートリッジ。

- 5 25. 担体の一部分を、他の部分よりも厚くして高吸液部とした請求項24記載の薬剤カートリッジ。

26. 通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状で、かつ扁平な加工シート材に
10 薬剤を含浸して保持し、その加工シート材の周縁部を接合してひだ形状がくずれないように保持した薬剤含浸体を備えていることを特徴とする薬剤カートリッジ。

27. 薬剤含浸体の周縁部を固定具で保持した請求項26記載の薬剤カートリッジ。
15

28. 薬剤含浸体を、空気流通部を有する容器内に設けた請求項26記載の薬剤カートリッジ。

- 20 29. 通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状で、かつ扁平な加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

- この加工シート材の周縁部を挟持し押しつぶしてひだ形状がくずれないように保持した固定具を備えていることを特徴とする薬剤カートリッジ。
25

30. 通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り疊んだひだ形状で、かつ扁平な加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

空気流通部を有する容器を備え、

5 前記薬剤含浸体を容器内に設けたことを特徴とする薬剤カートリッジ。

31. 通気性と吸液性を有するシートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り疊んだひだ形状で、かつ筒形状の加工シート材に薬剤を含浸して保持した薬剤含浸体と、

10 環状の中空部と軸心の中空部を有すると共に、その各中空部に空気が流通する形状の容器を備え、

前記薬剤含浸体を容器の環状の中空部内に設けたことを特徴とする薬剤カートリッジ。

15 32. 厚さ方向の一側面と他側面に開口した多数のコアを有し、その厚さ方向に空気が流通するようにしたハニカム体と、

前記ハニカム体の厚さ方向における少なくとも一方の側面の全面に渡って設けたシート体とから成り、

20 そのハニカム体とシート体に薬剤が含浸して保持してあることを特徴とする薬剤含浸体。

33. ハニカム体とシート体を保持容器で保持してハニカム体の側面とシート体を密着した請求項32記載の薬剤含浸体。

25 34. シート体を支持する支持部を有する容器本体と、この容器本体に嵌合した押え体で保持容器とし、

前記支持部と押え体でハニカム体とシート体を挟持して密着した請求項 3 3 記載の薬剤含浸体。

3 5 . 容器本体の支持部に、シート体と対向した薬液溜め部と、この薬液
5 溜め部に薬液を供給する注入口を形成した請求項 3 4 記載の薬剤含浸体。

FIG. 2

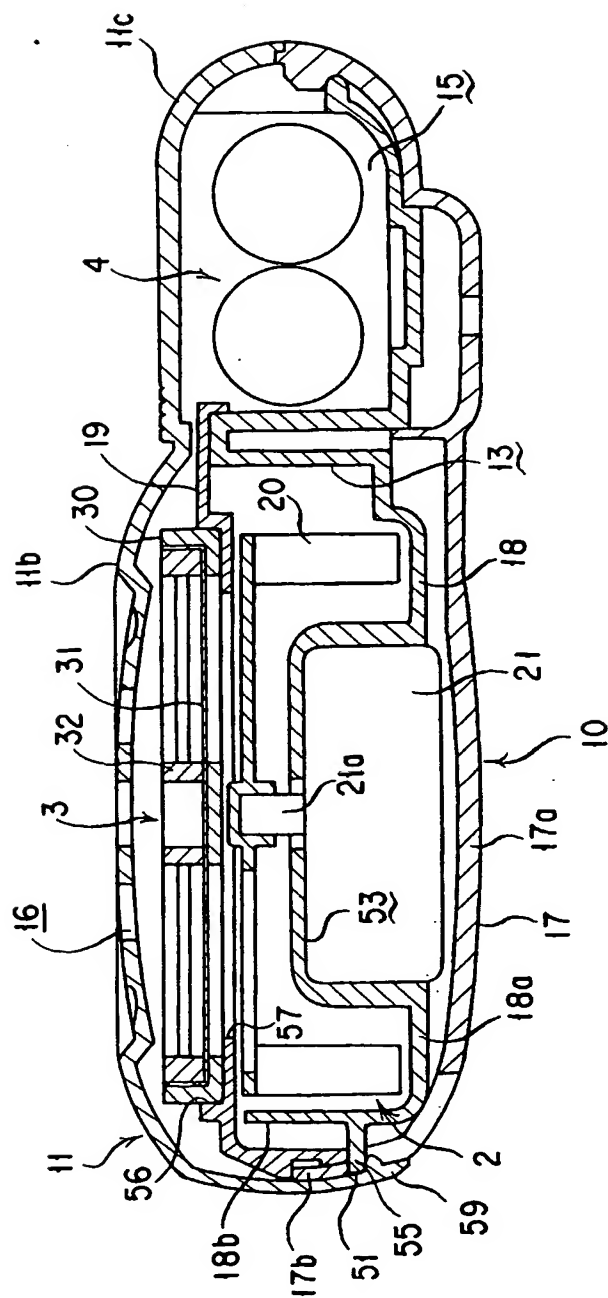


FIG. 3

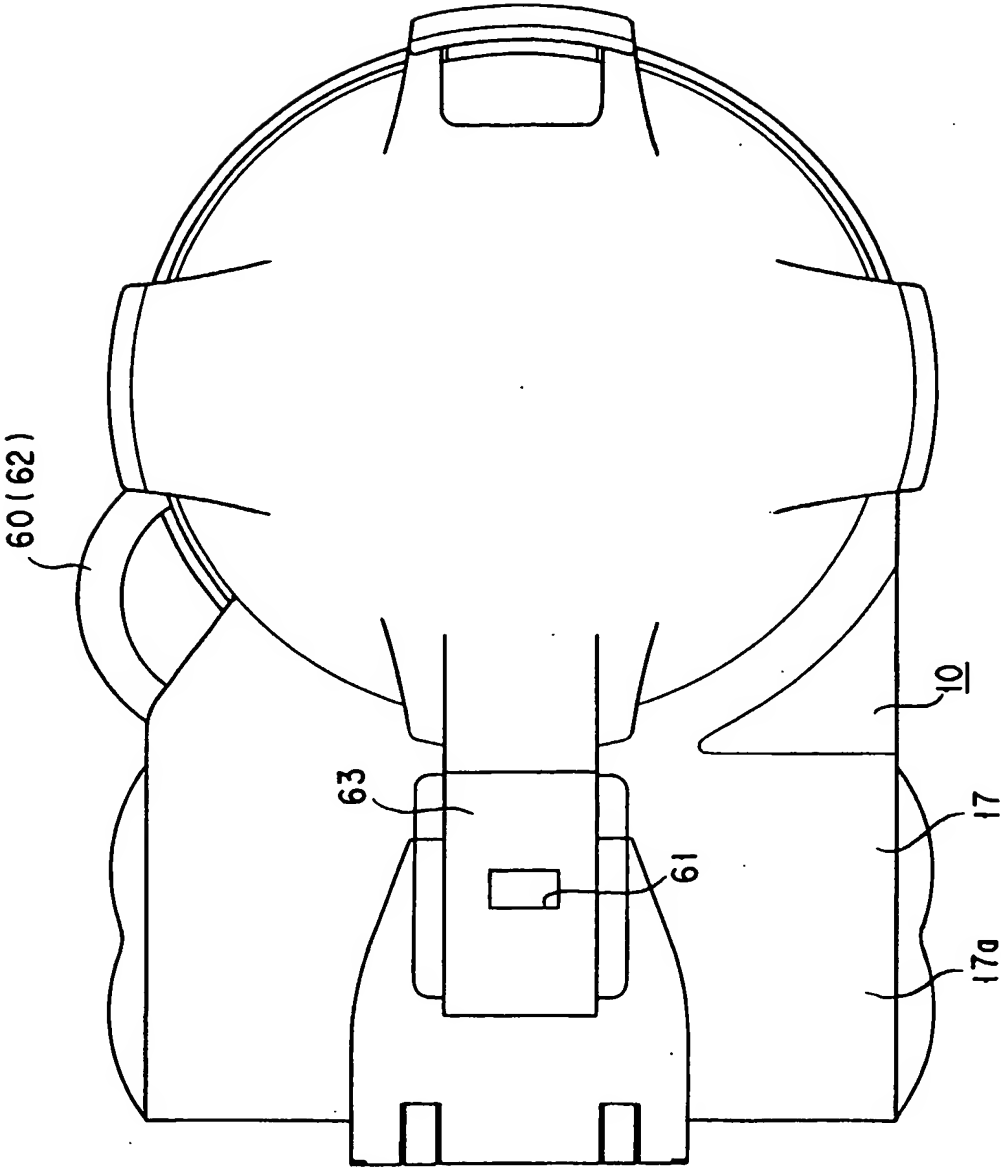


FIG. 4

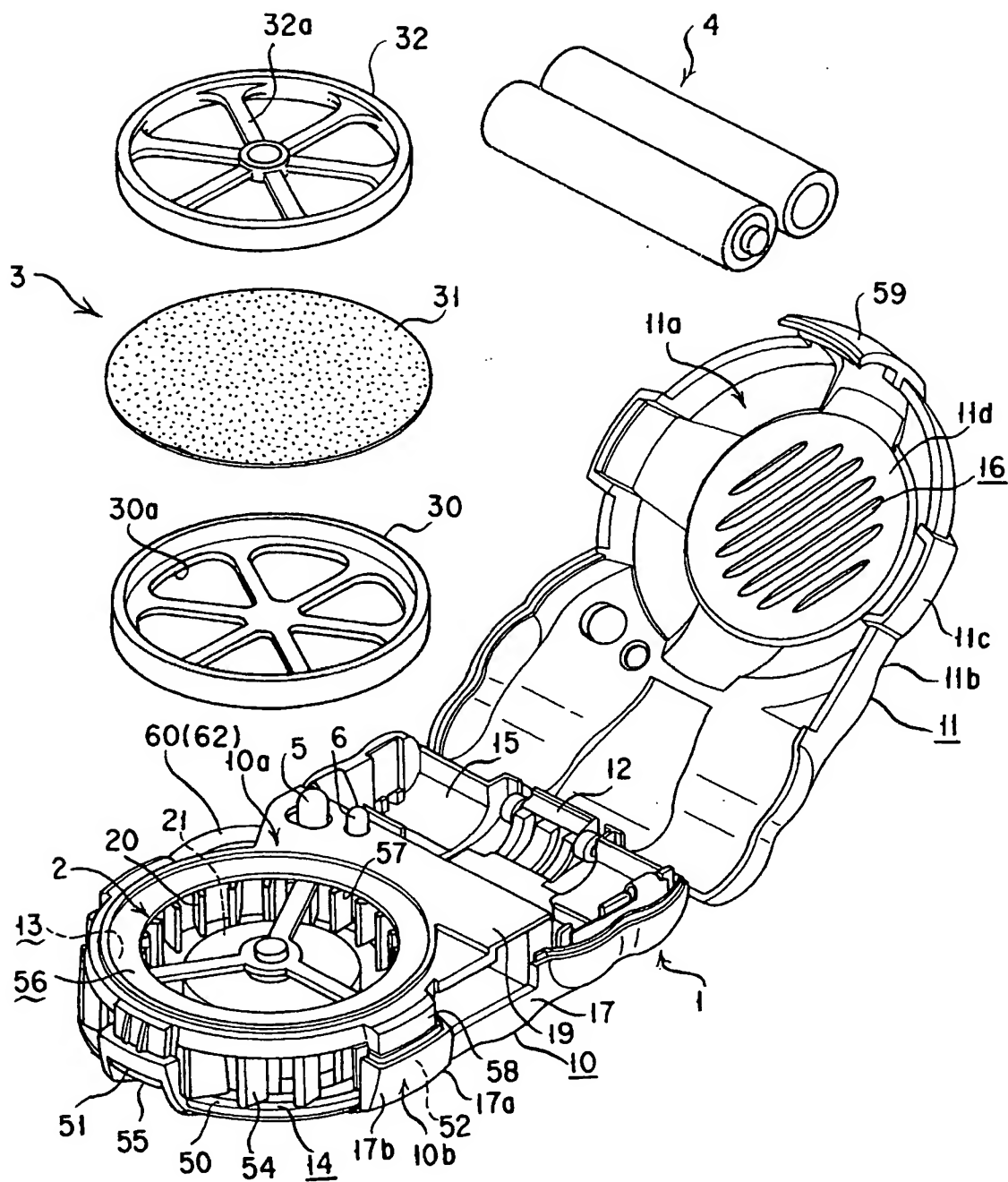
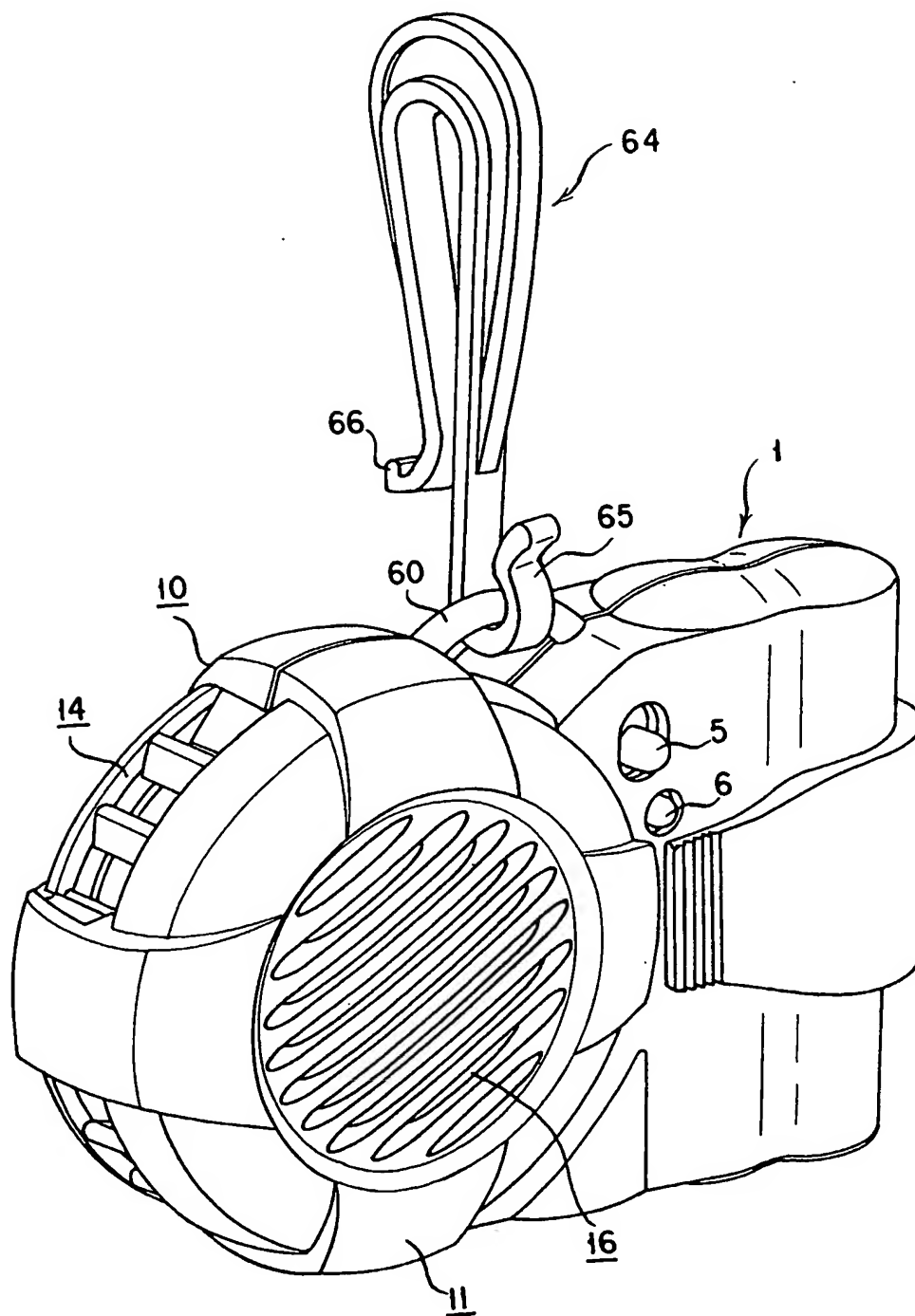


FIG. 5



6 / 5 5

FIG. 6

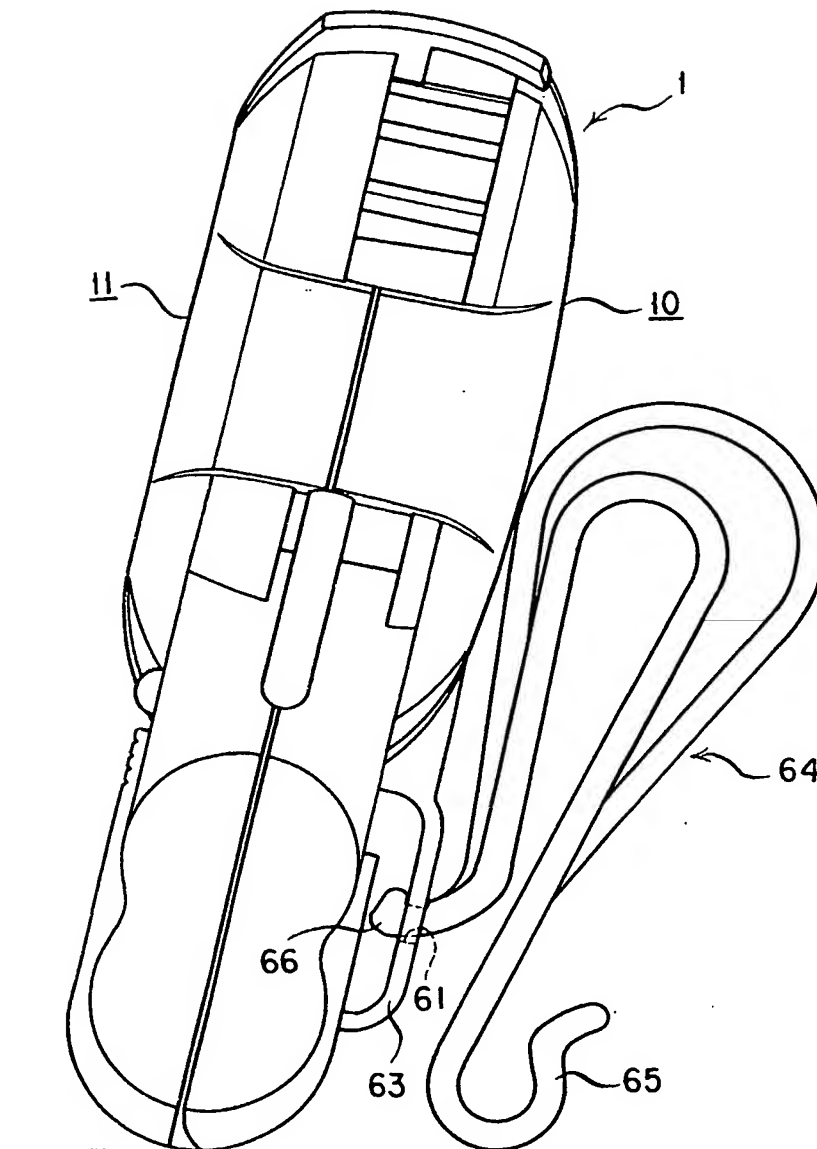


FIG. 7

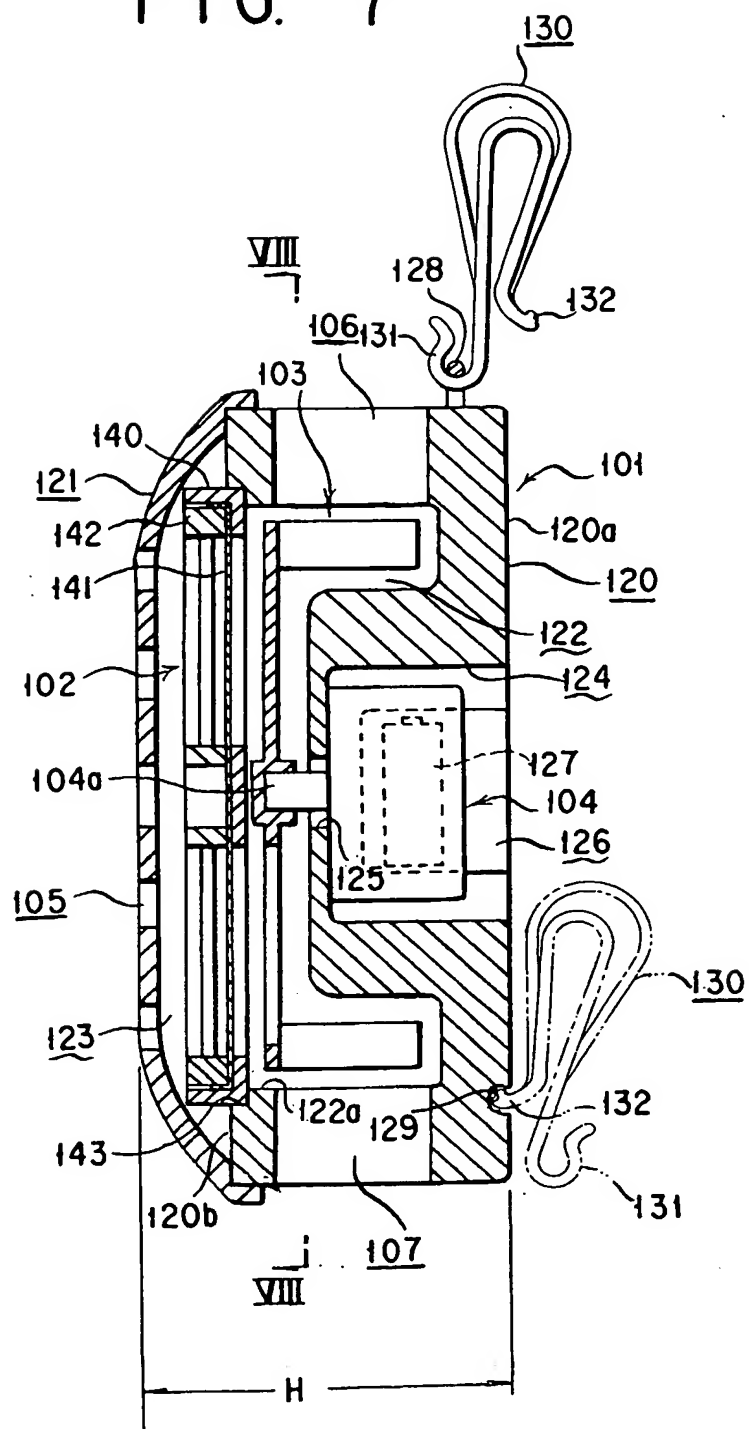


FIG. 9

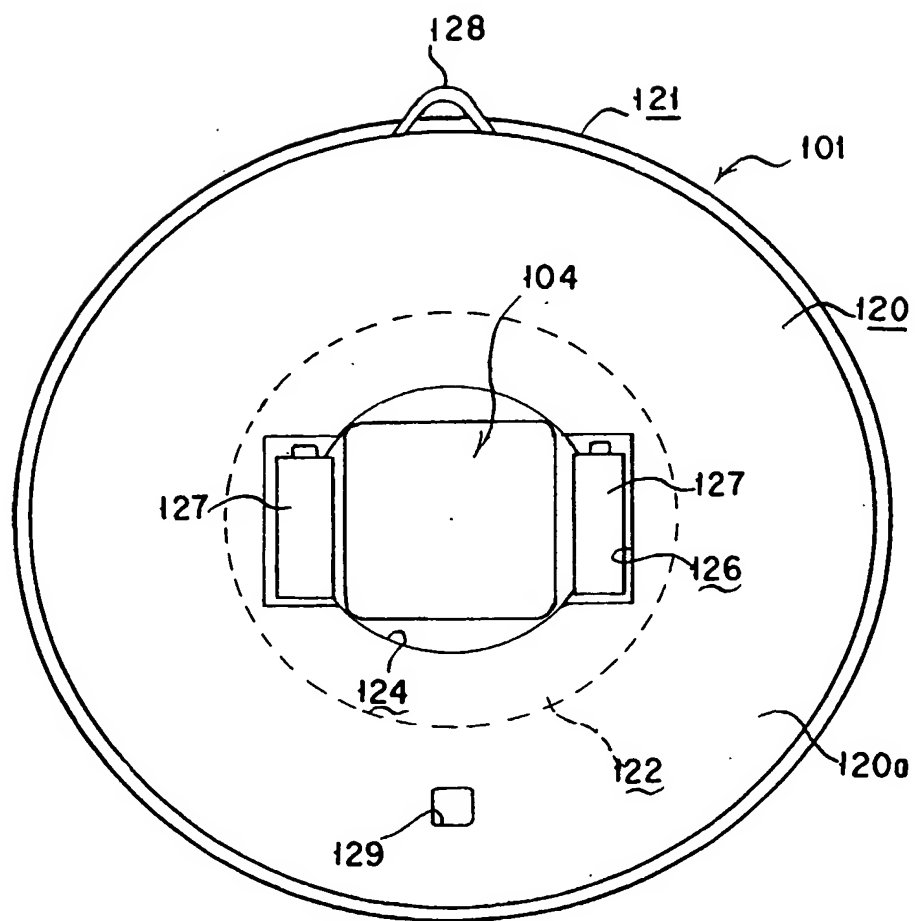


FIG. 10

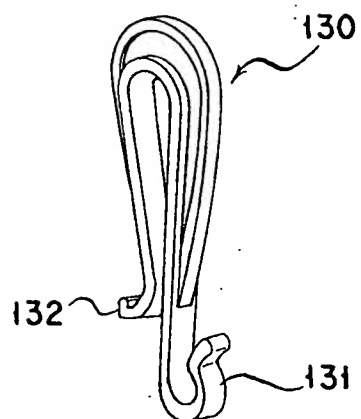


FIG. 11

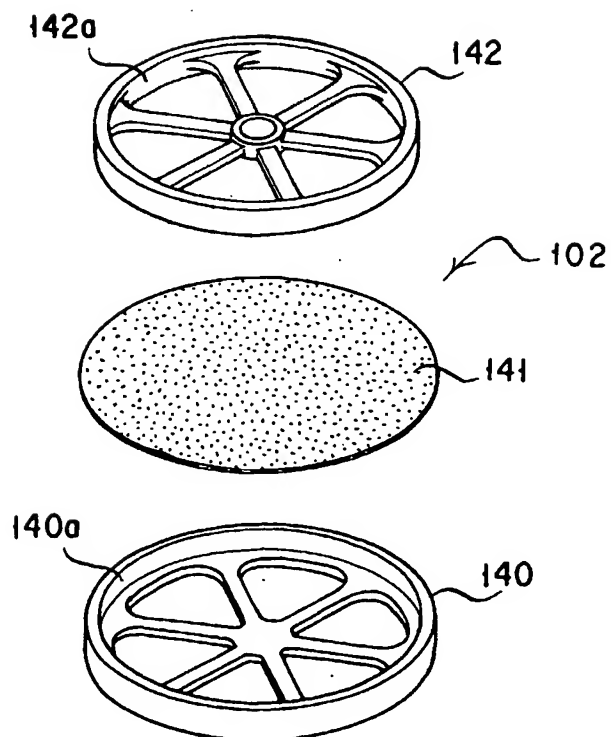


FIG. 12

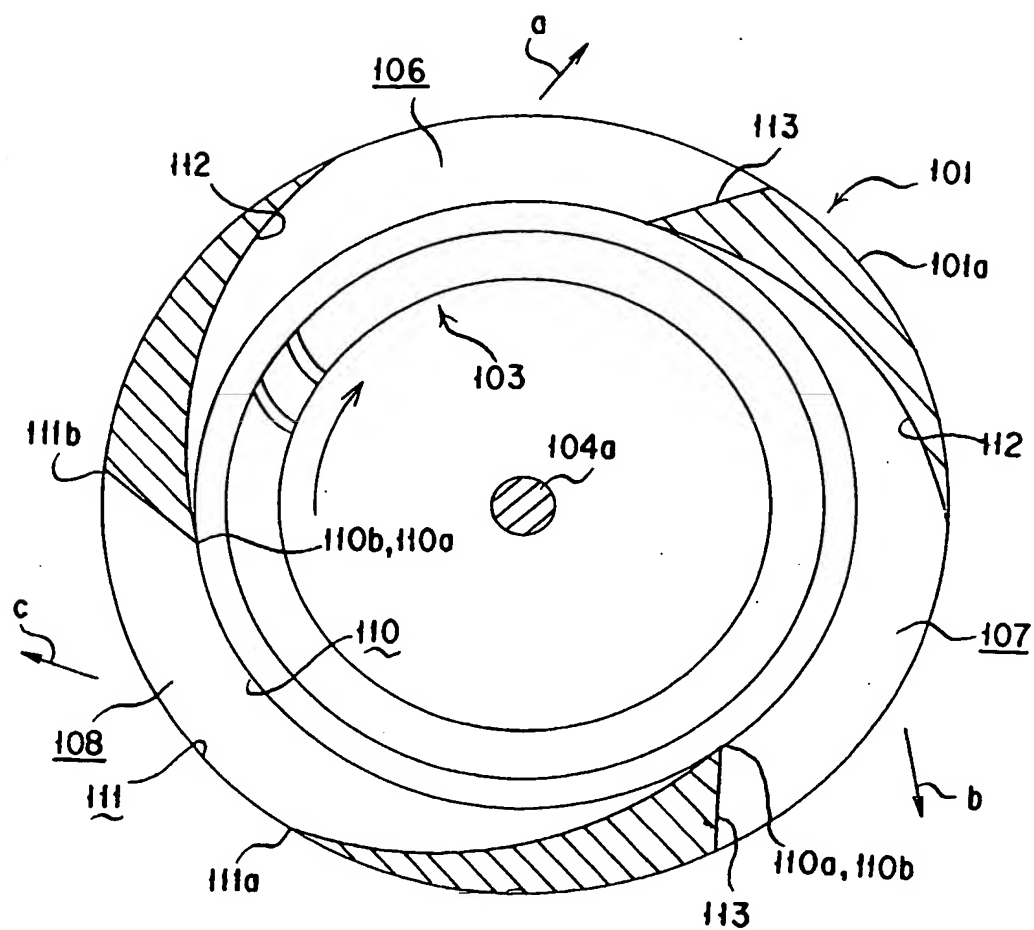


FIG. 13

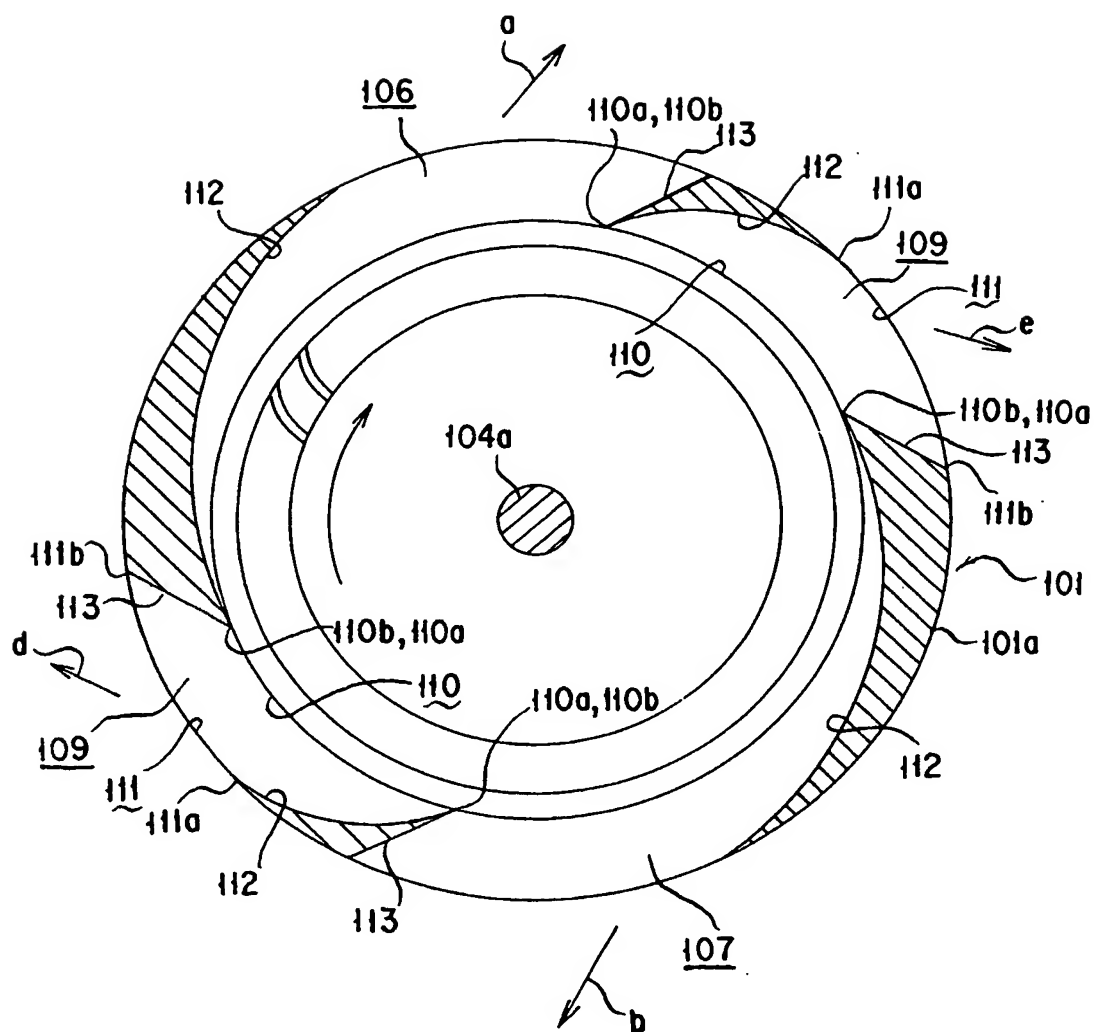
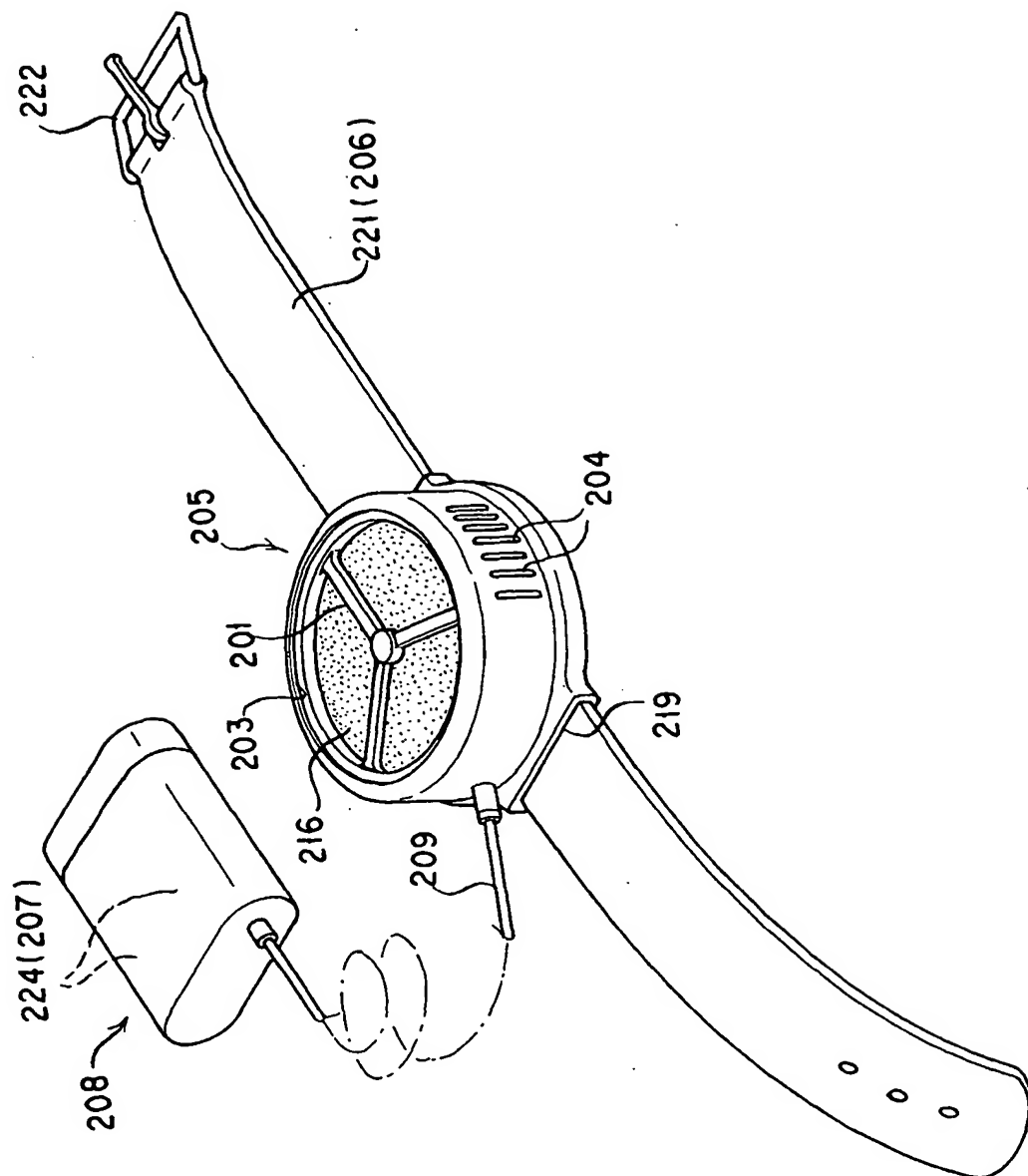


FIG. 14



14/55

FIG. 15

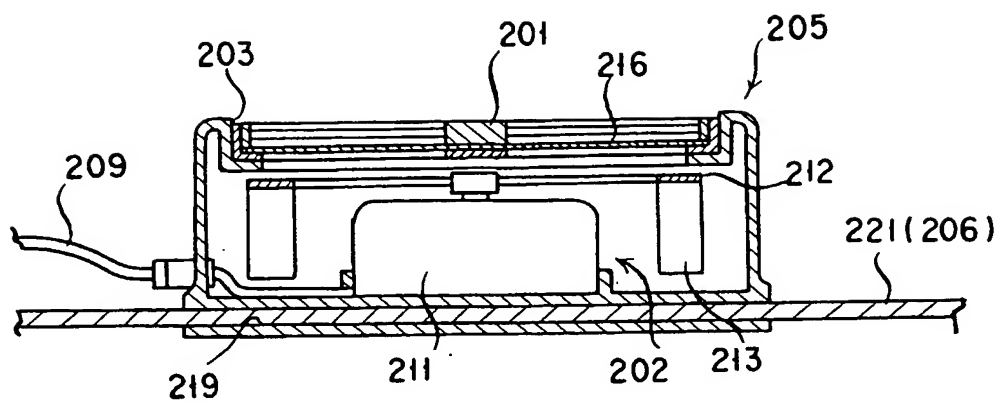


FIG. 16

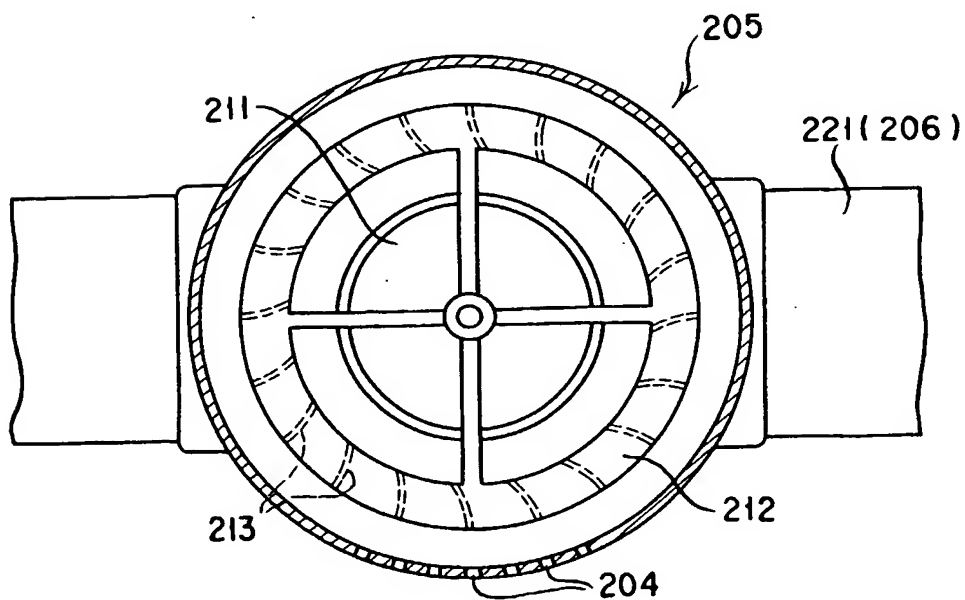


FIG. 17

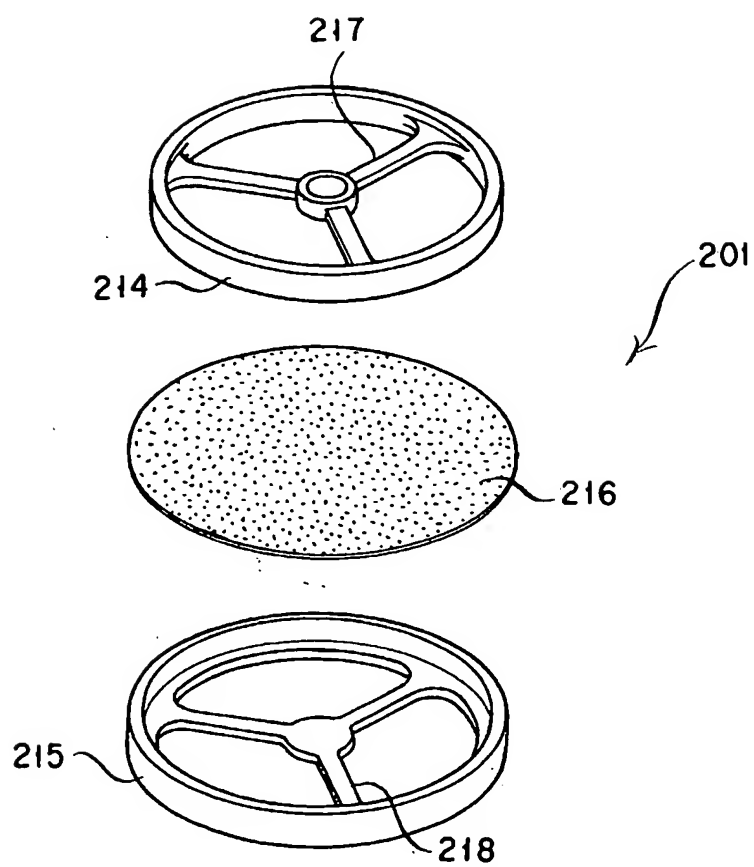


FIG. 18

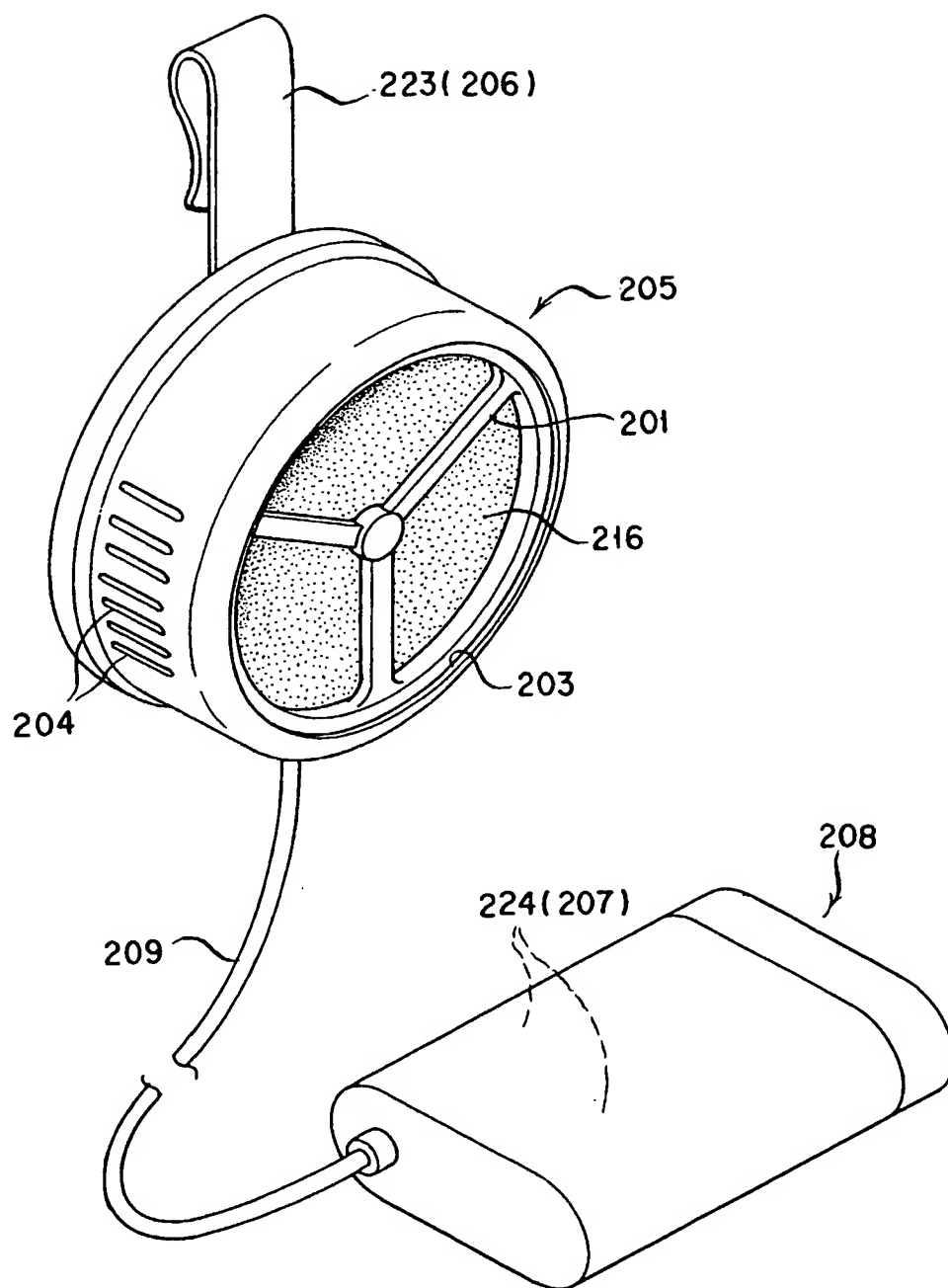


FIG. 19

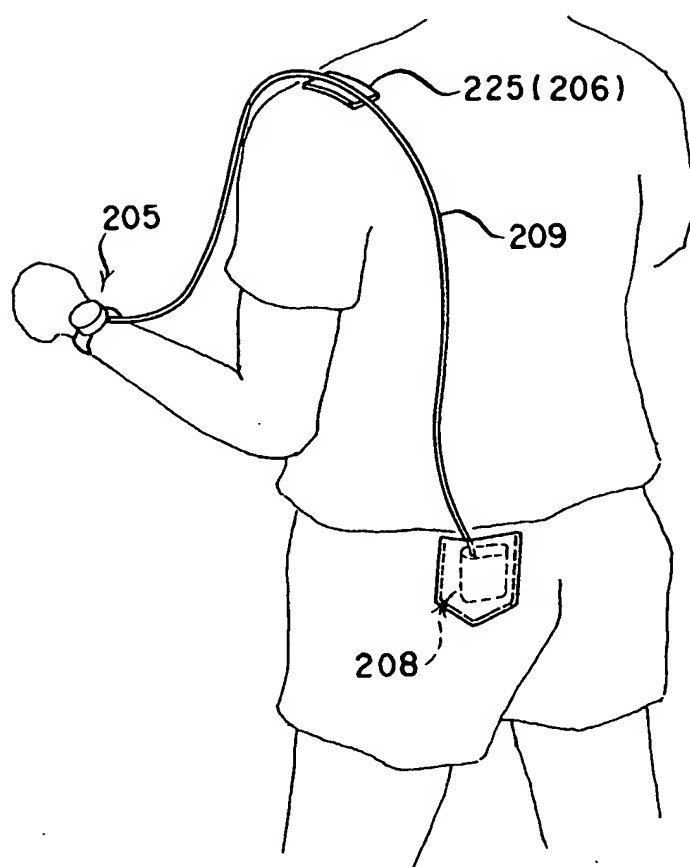


FIG. 20

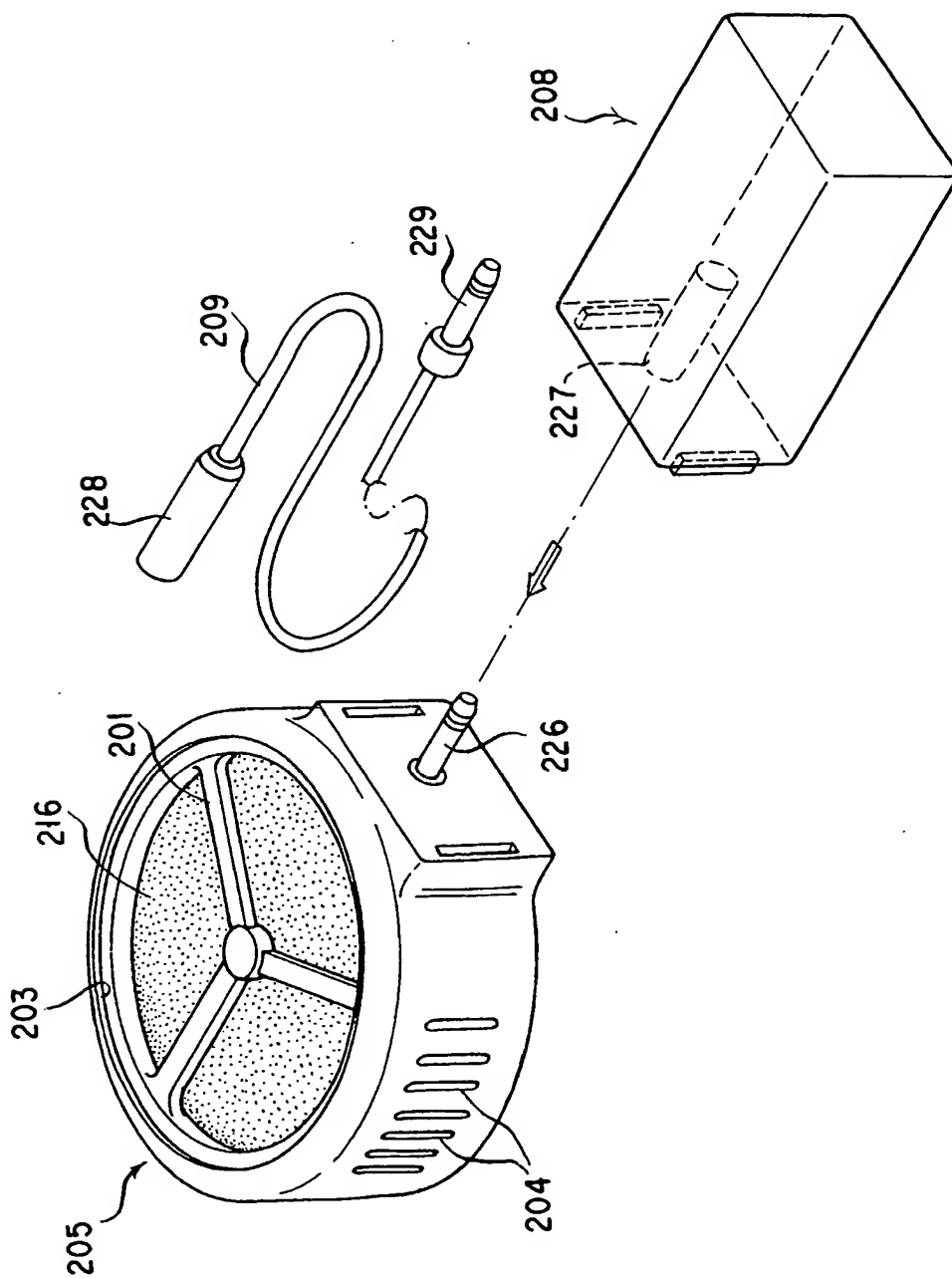
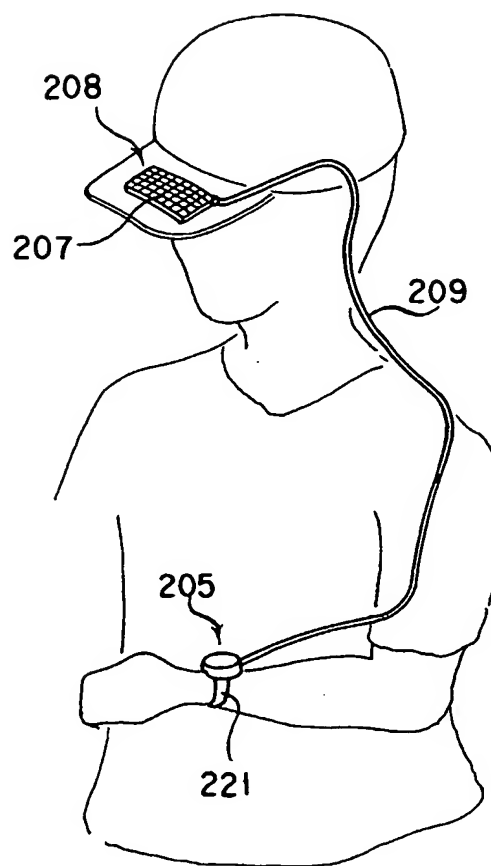


FIG. 21



20/55

FIG. 22

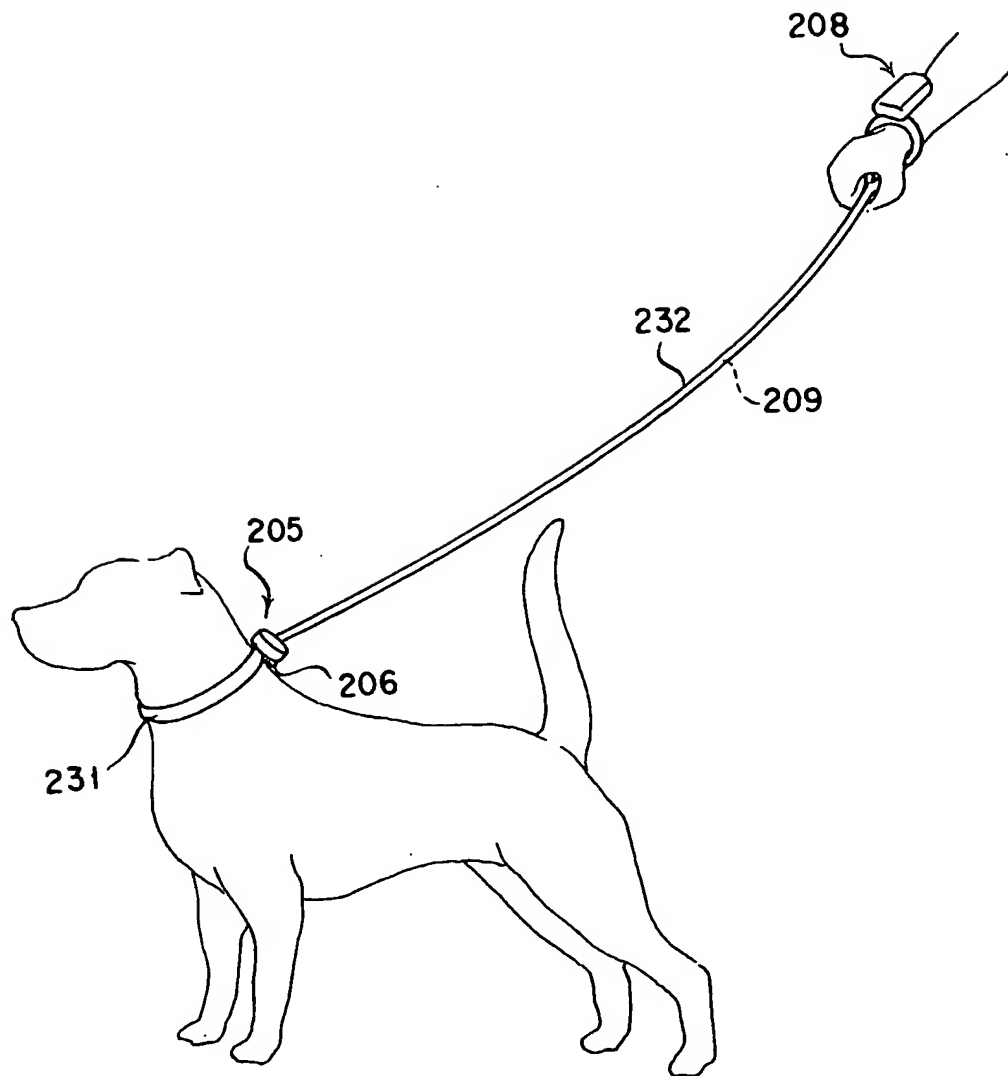


FIG. 23

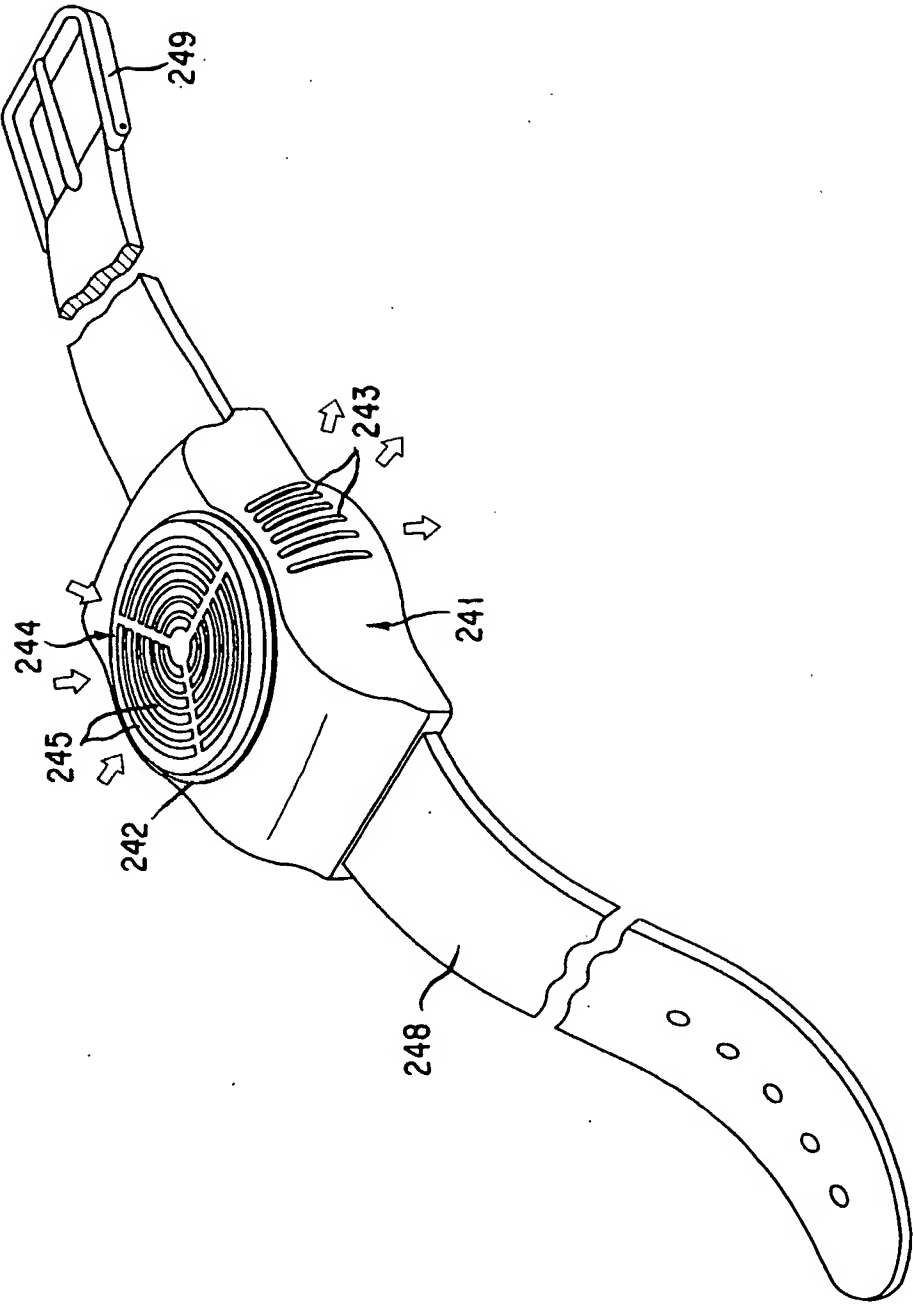


FIG. 24

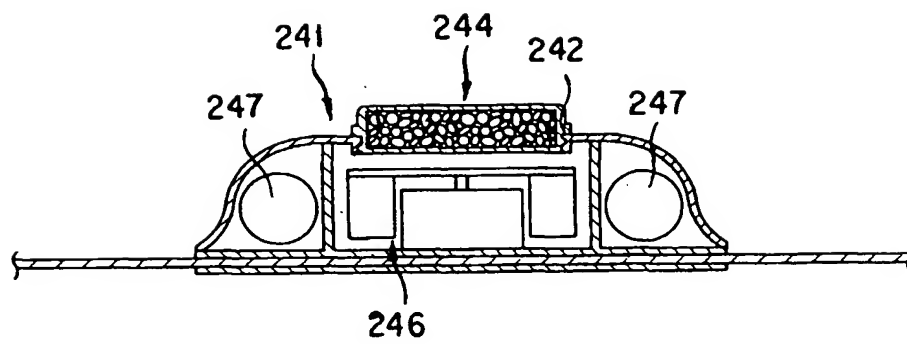


FIG. 25

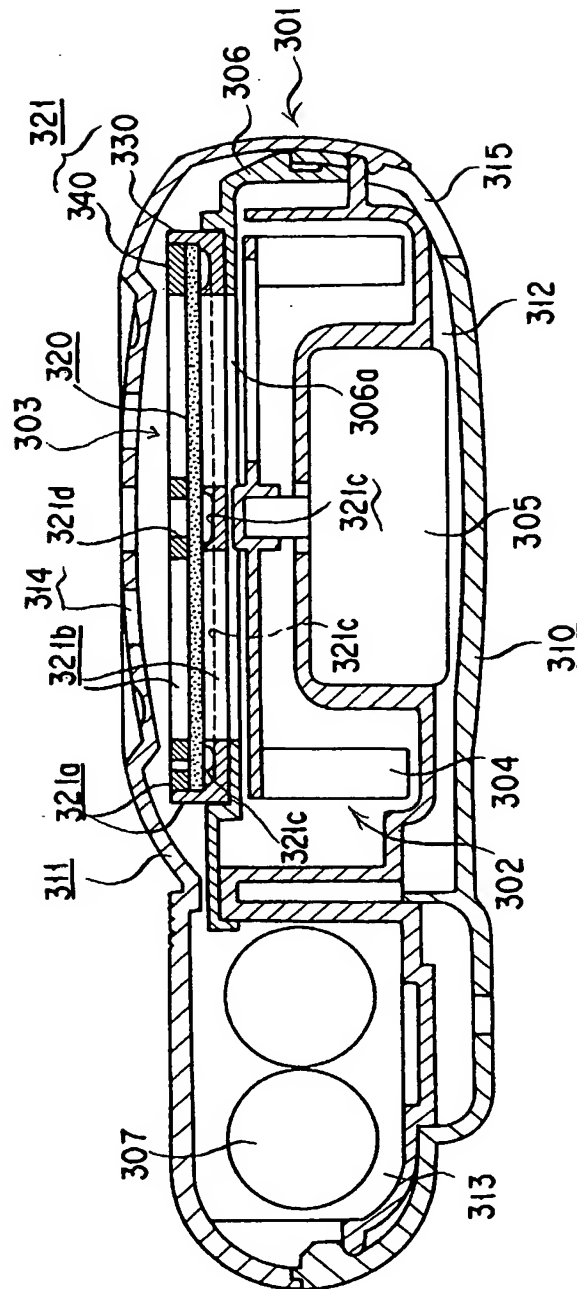


FIG. 26

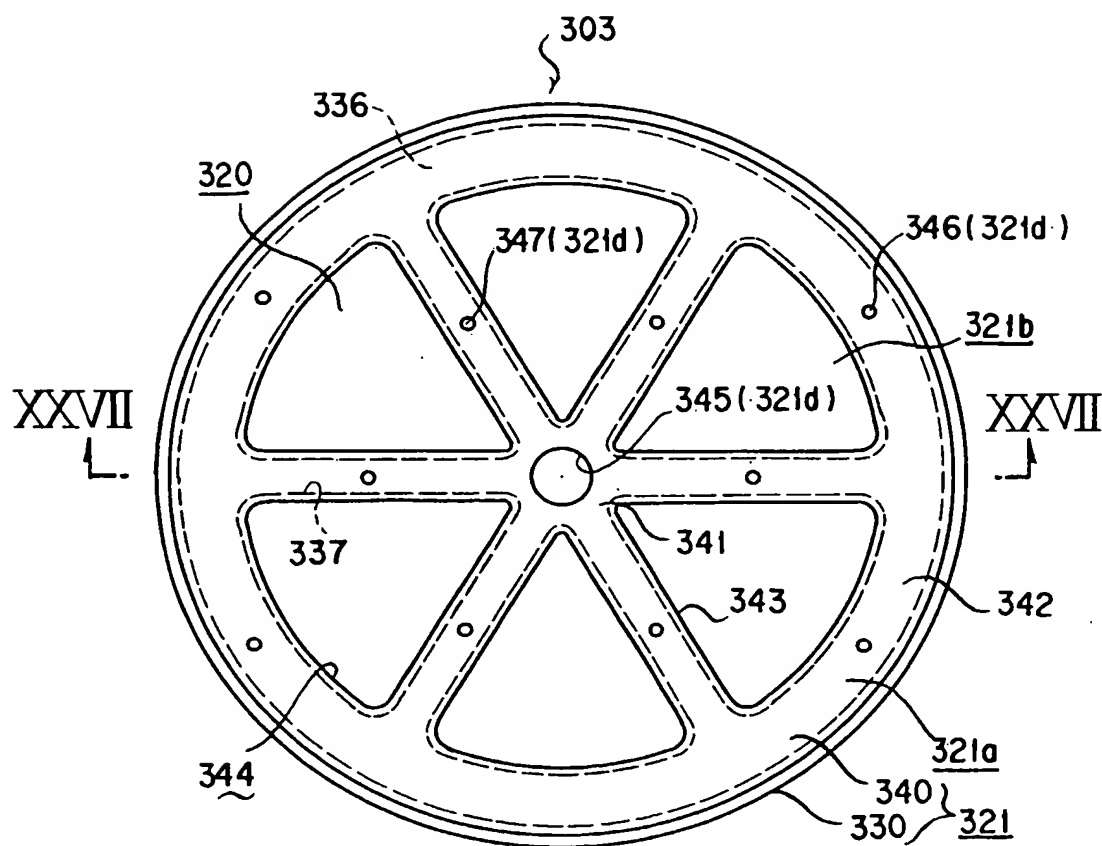


FIG. 27

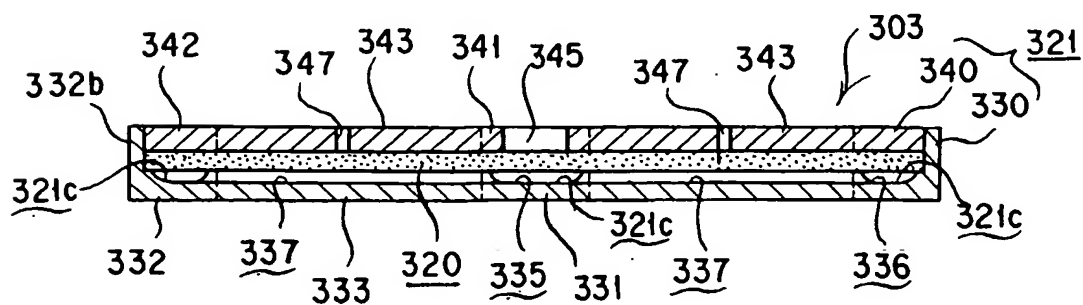


FIG. 28

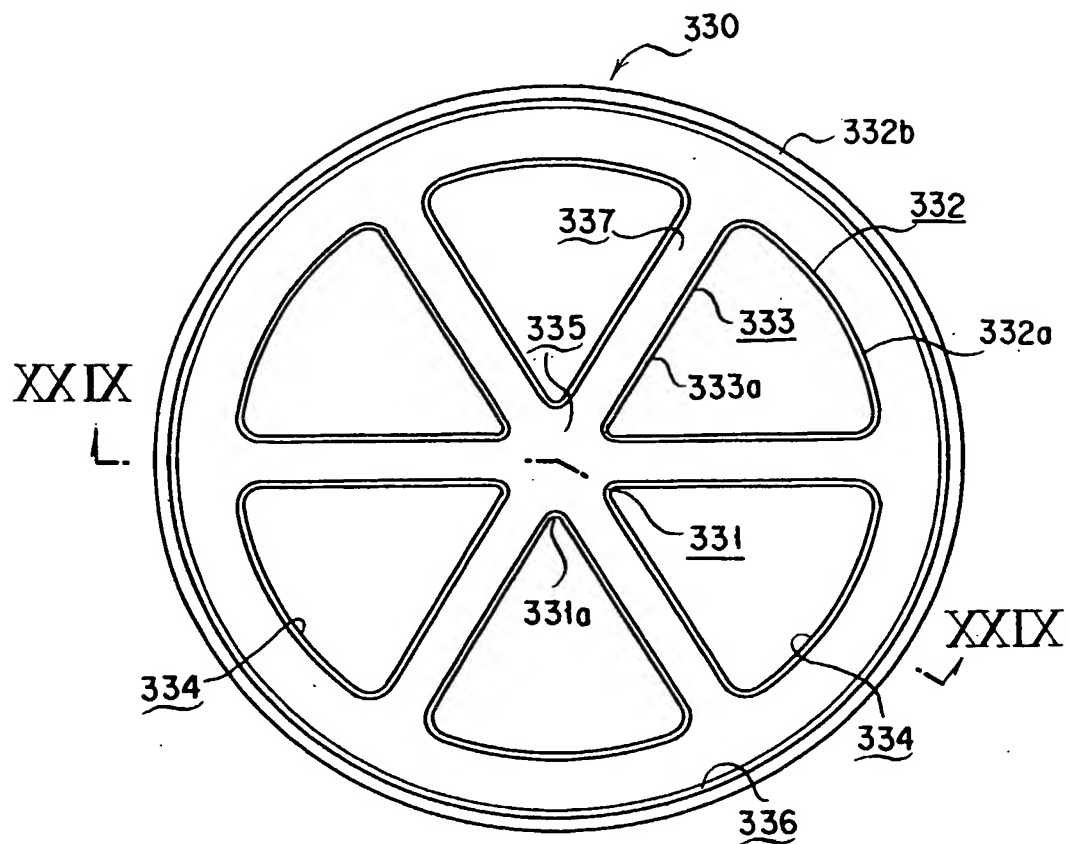
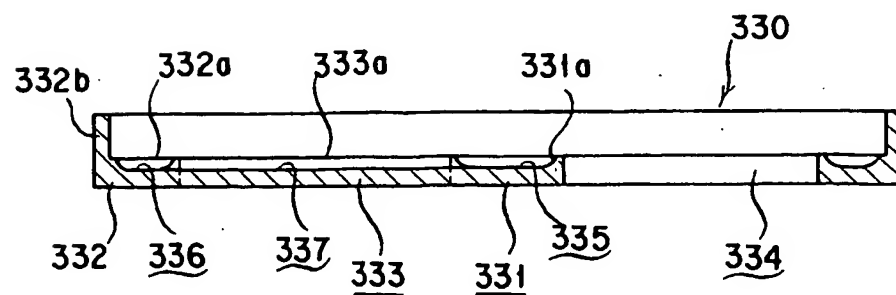


FIG. 29



26 / 55

FIG. 30

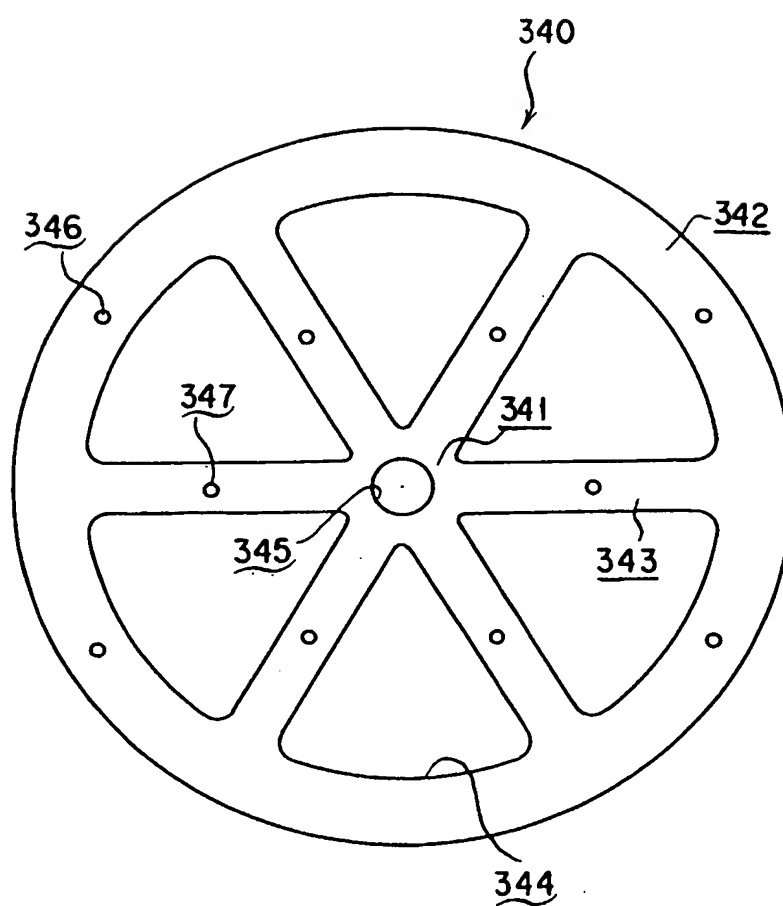


FIG. 31

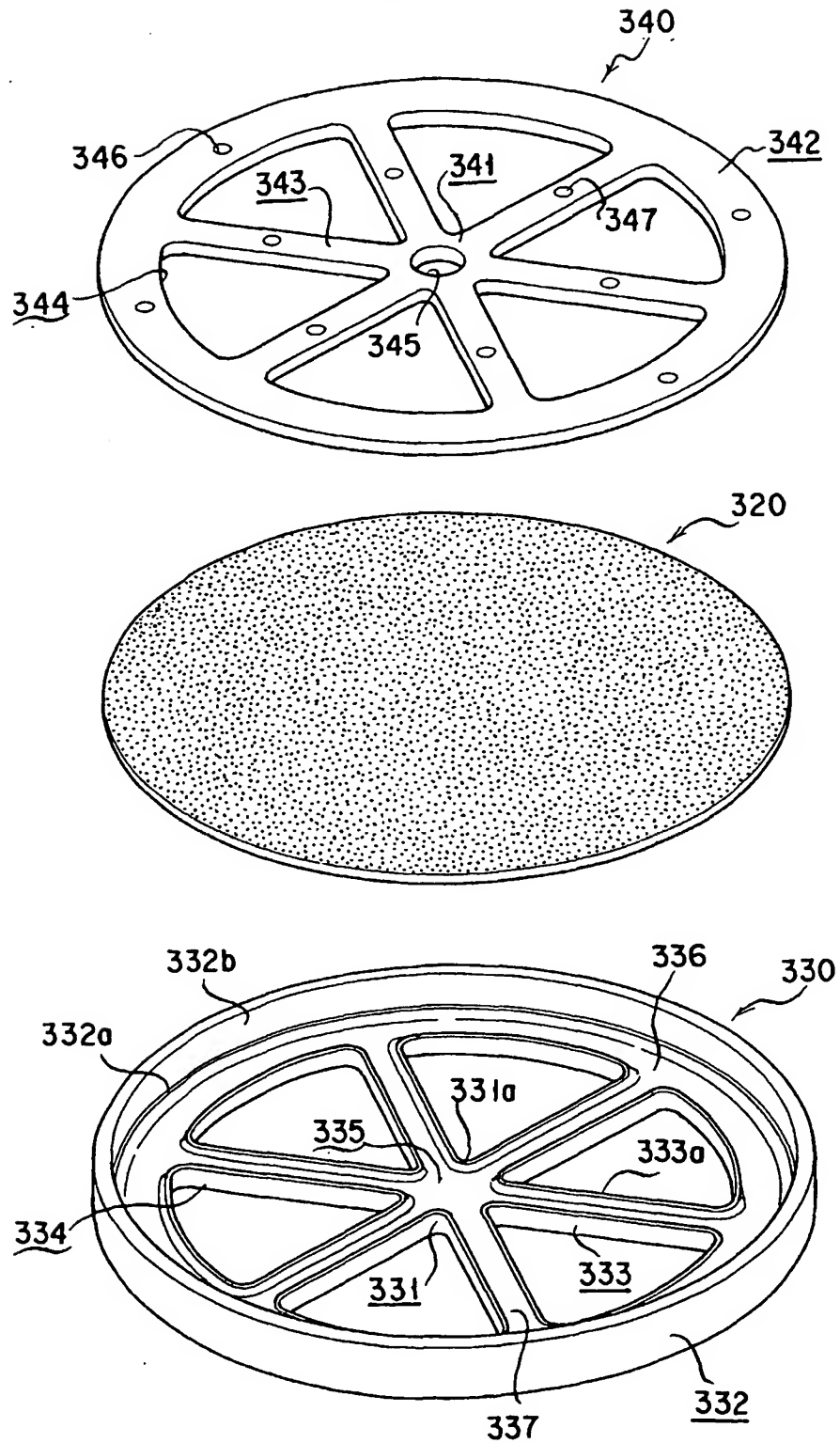


FIG. 32

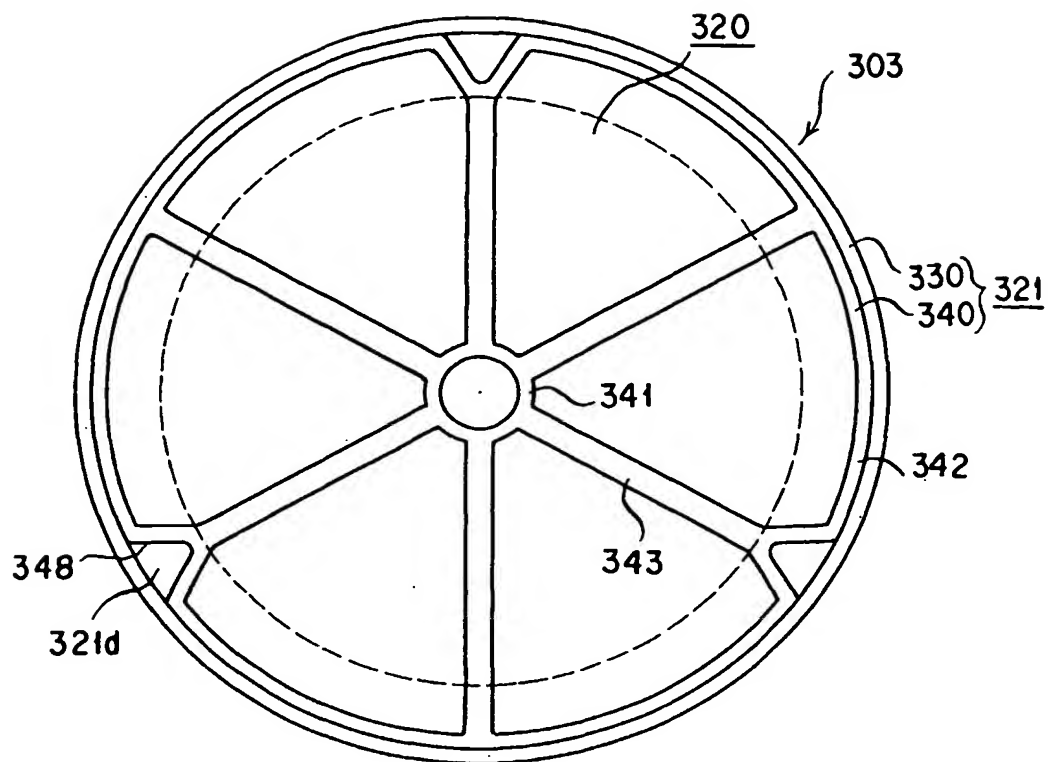


FIG. 33

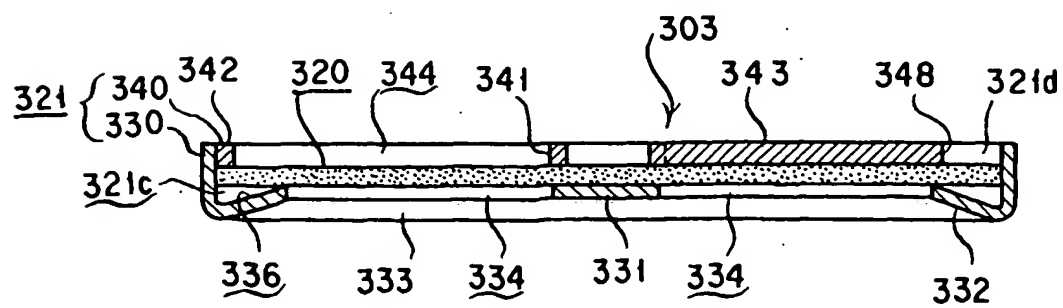


FIG. 34

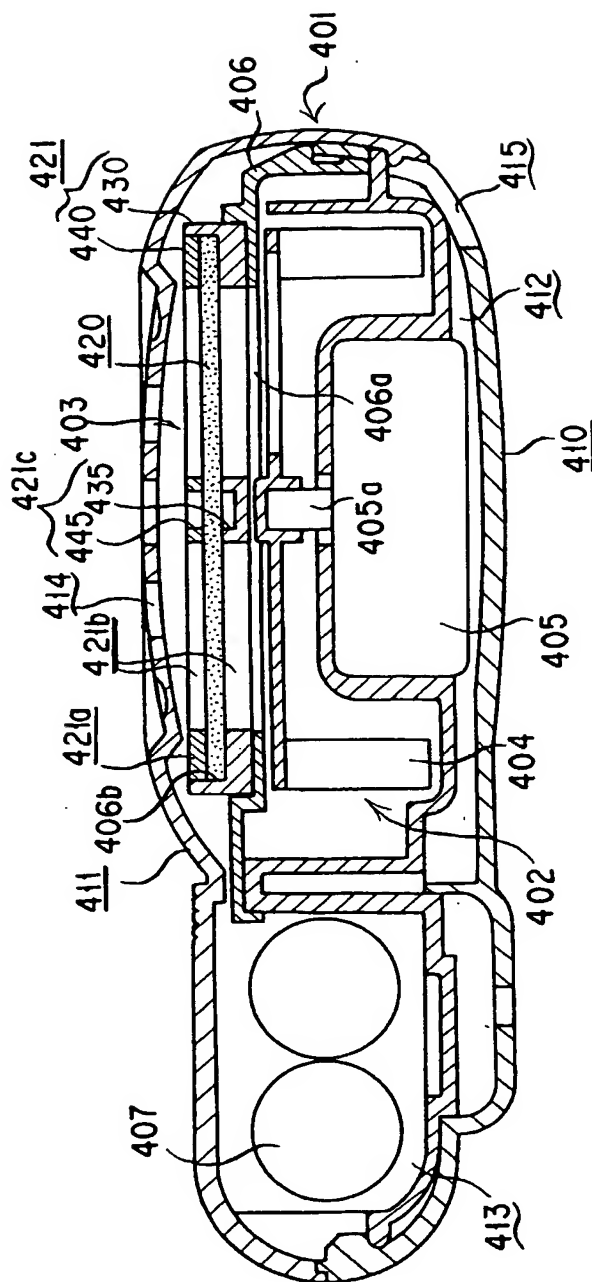


FIG. 35

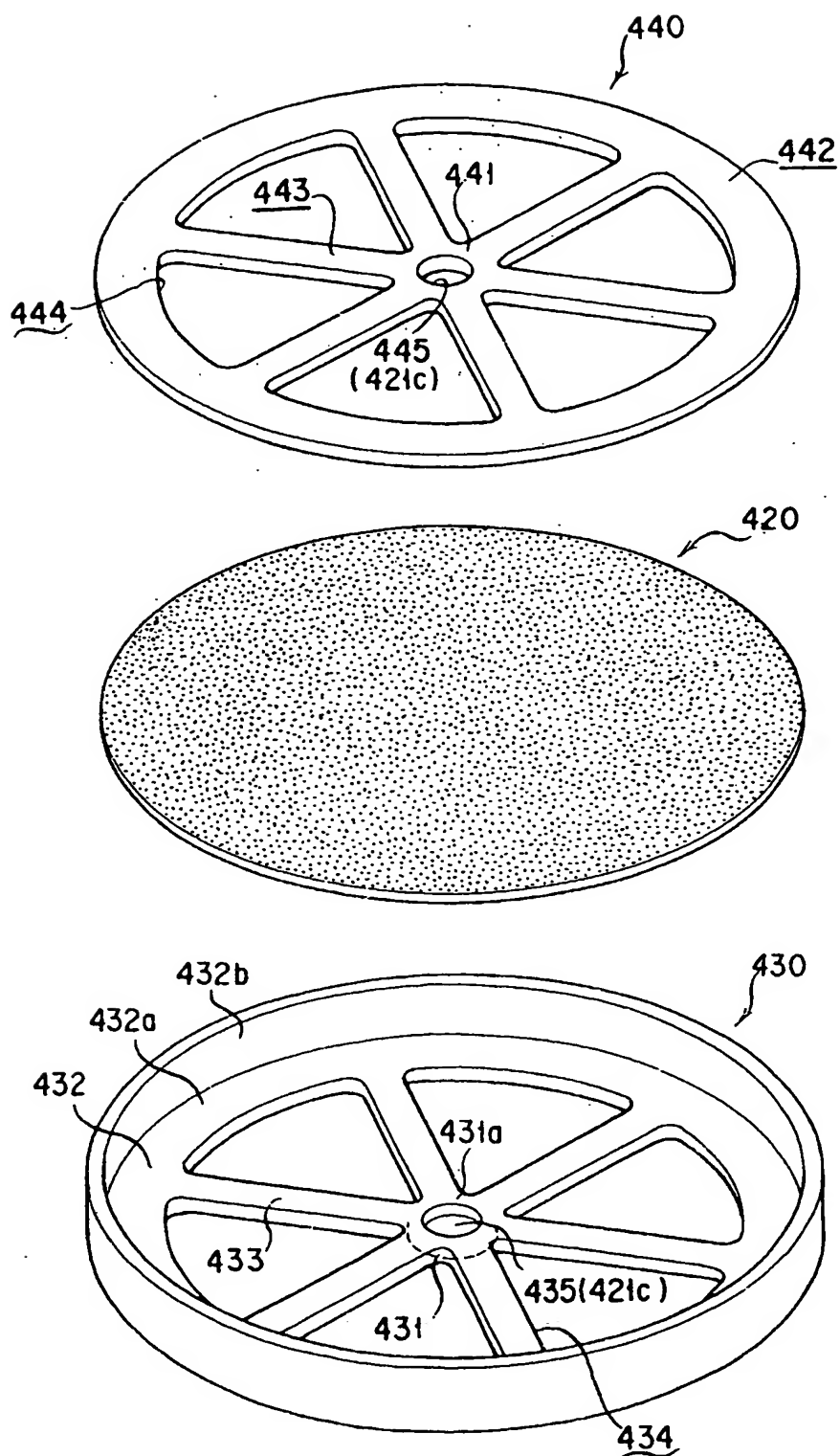


FIG. 36

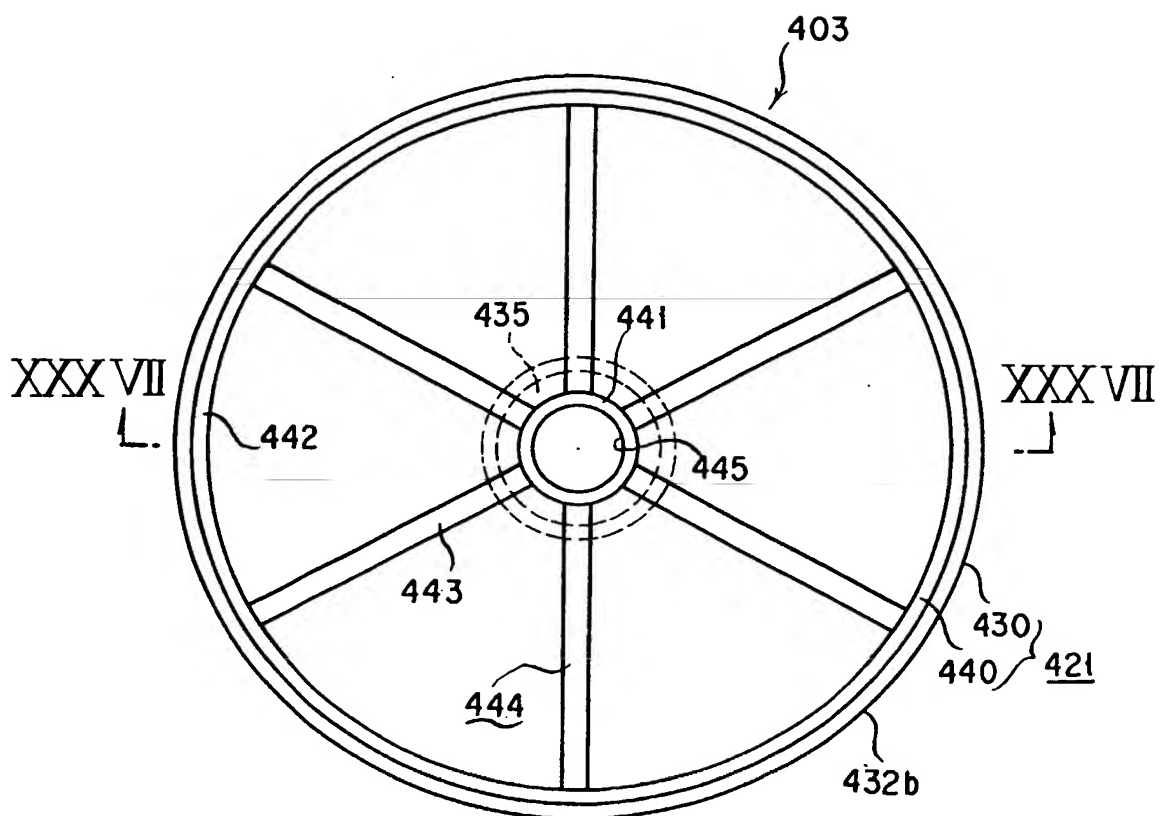
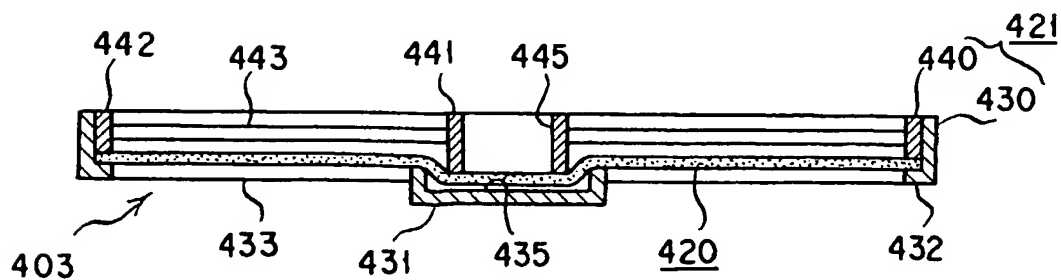


FIG. 37



32 / 55

FIG. 38

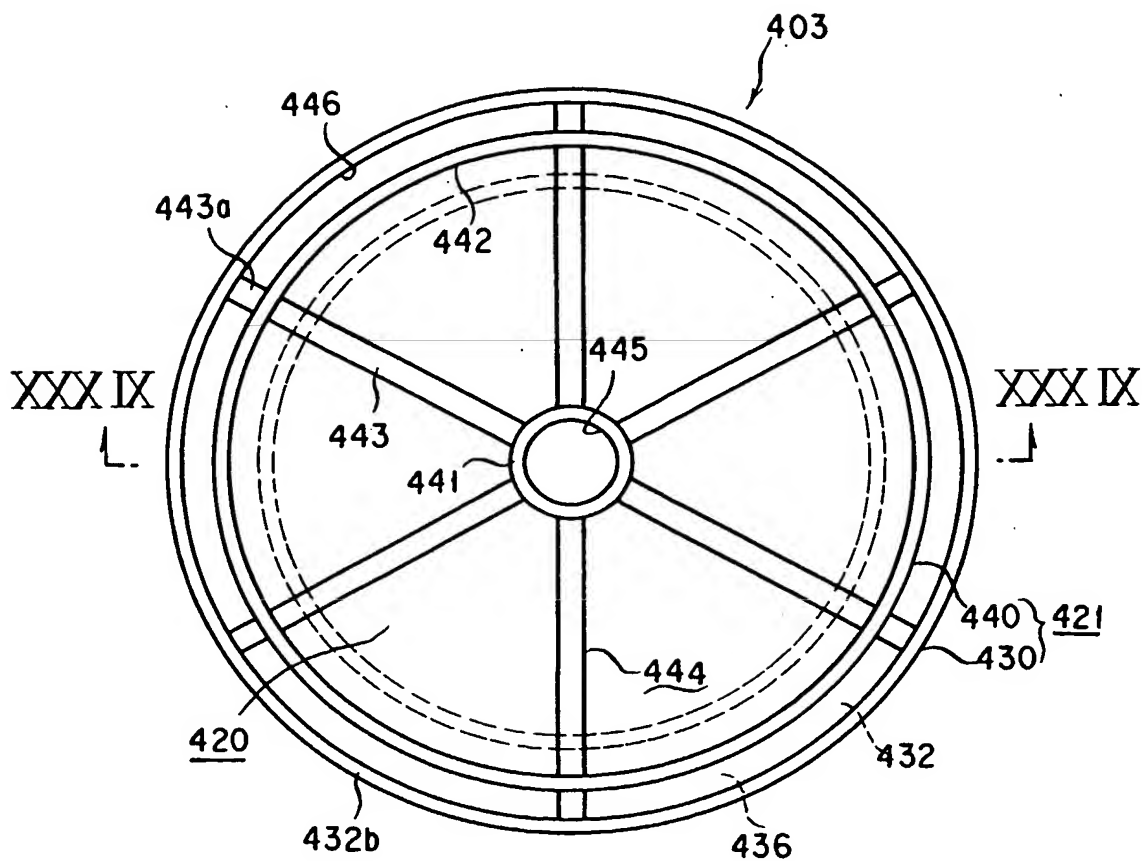
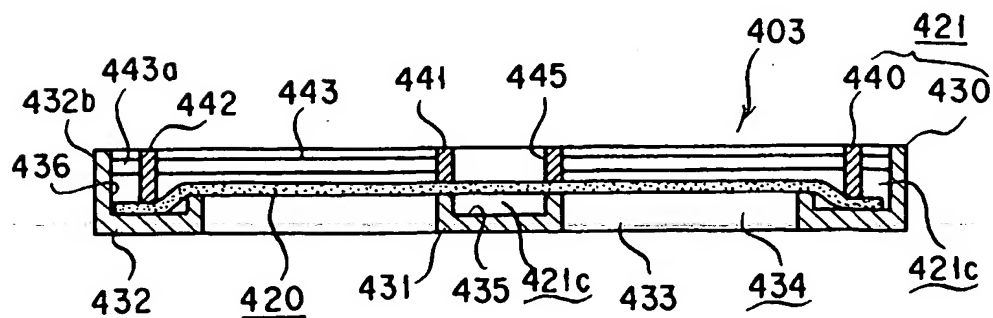


FIG. 39



33 / 55

FIG. 40

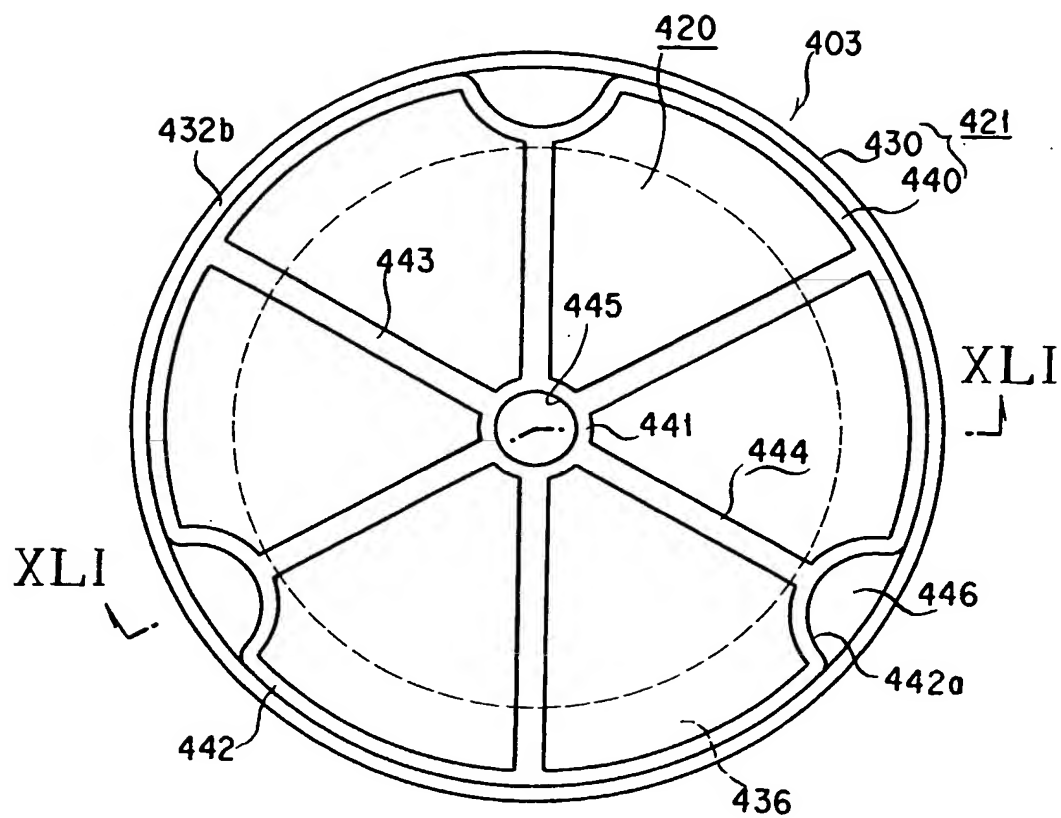
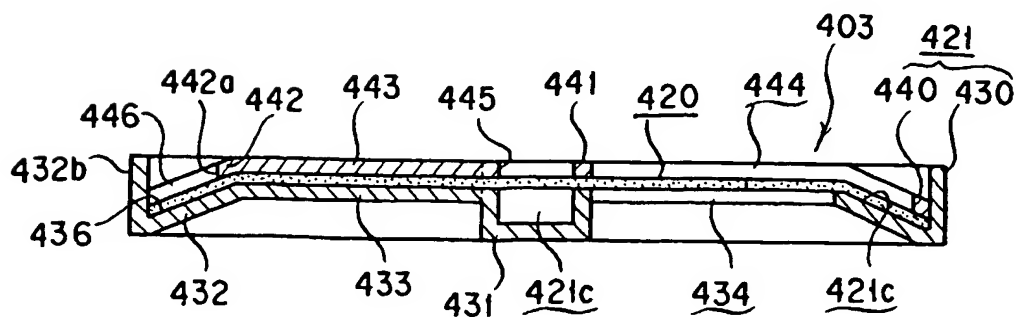


FIG. 41



34 / 55

FIG. 42

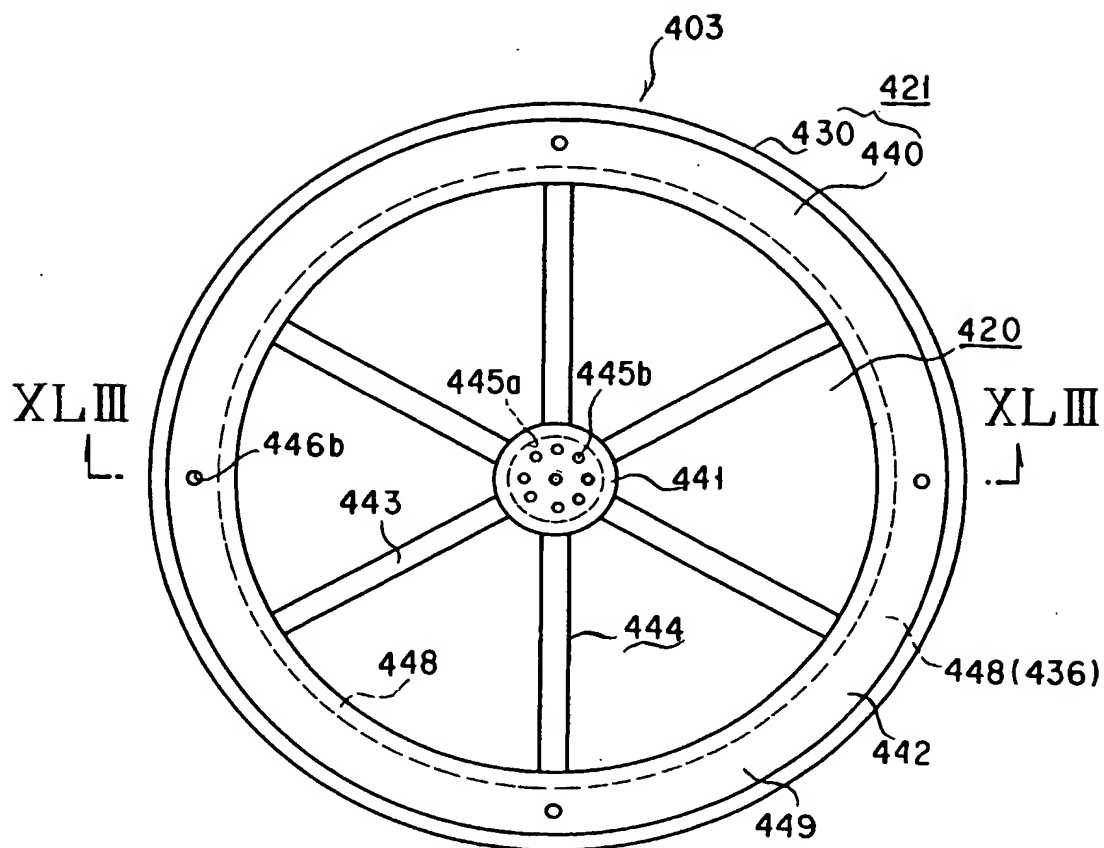
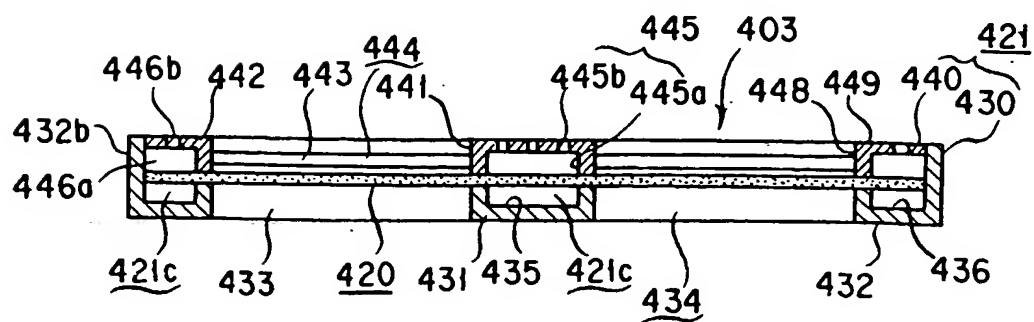


FIG. 43



35 / 55

FIG. 44

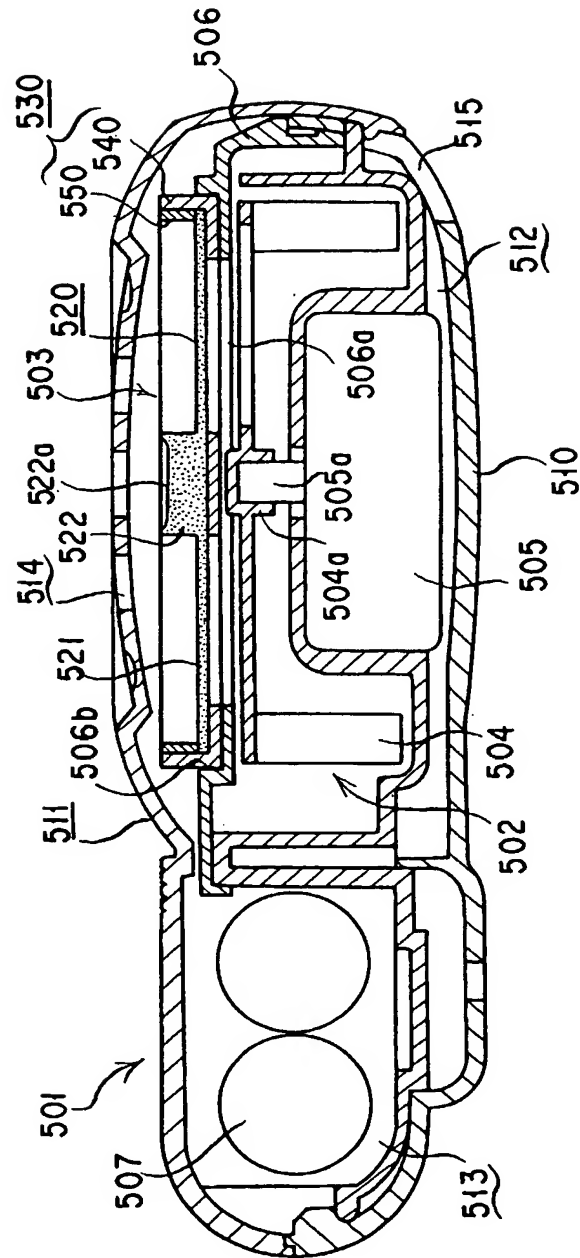
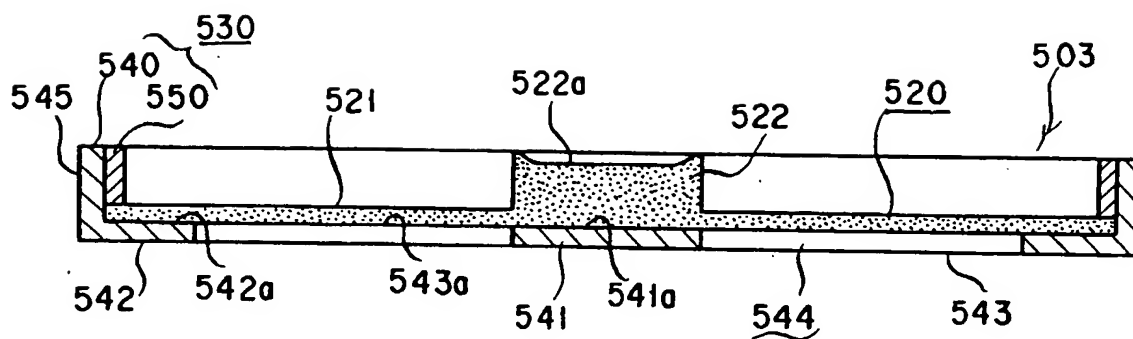
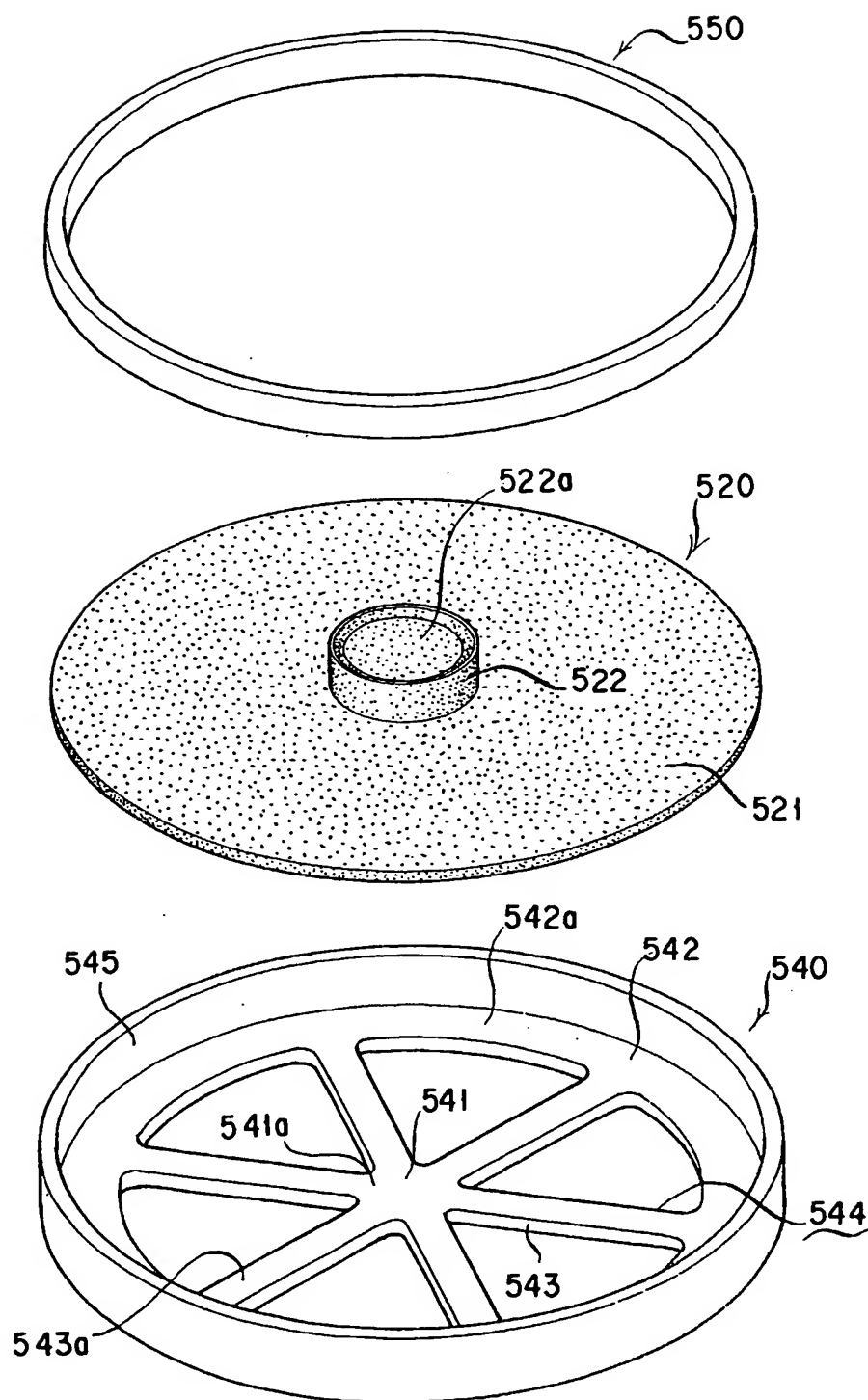


FIG. 45



37/55

FIG. 46



38 / 55

FIG. 47A

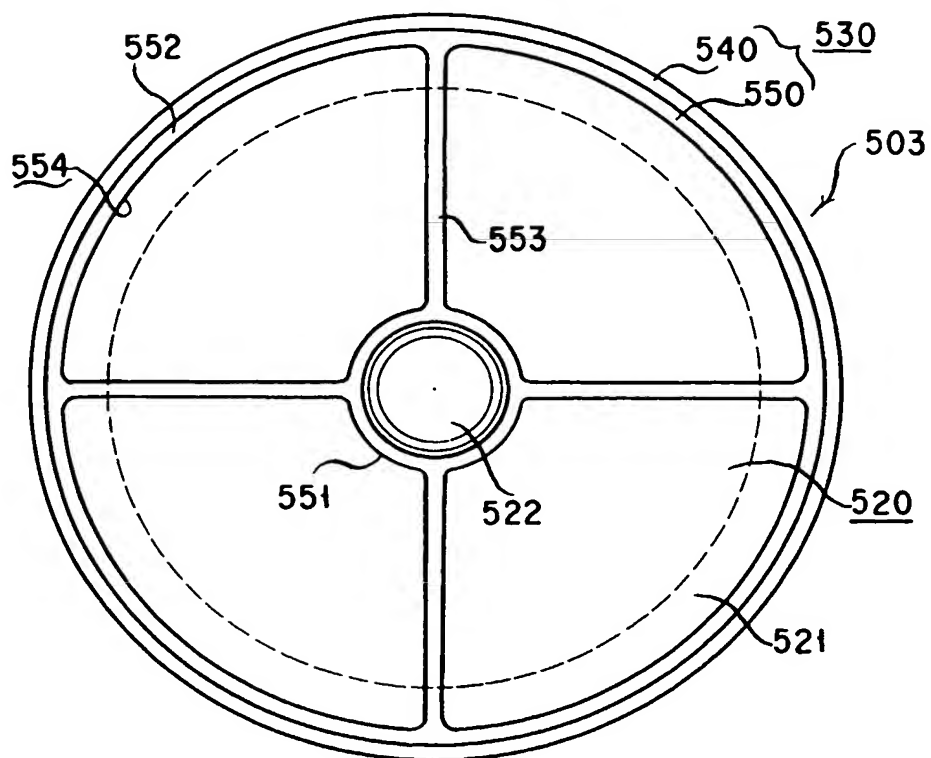
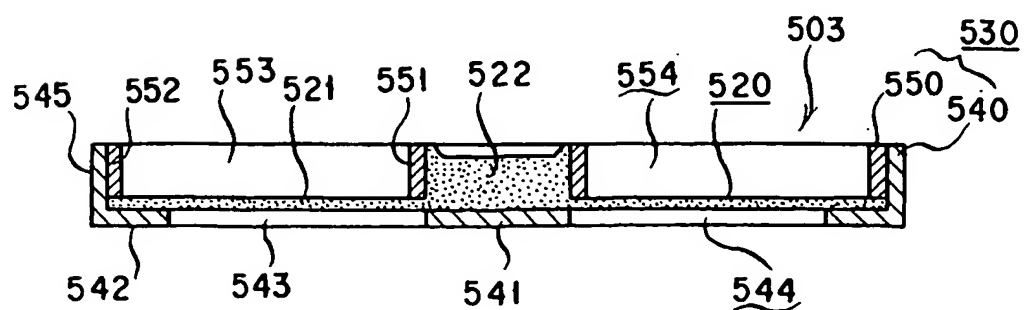


FIG. 47B



39 / 55

FIG. 48A

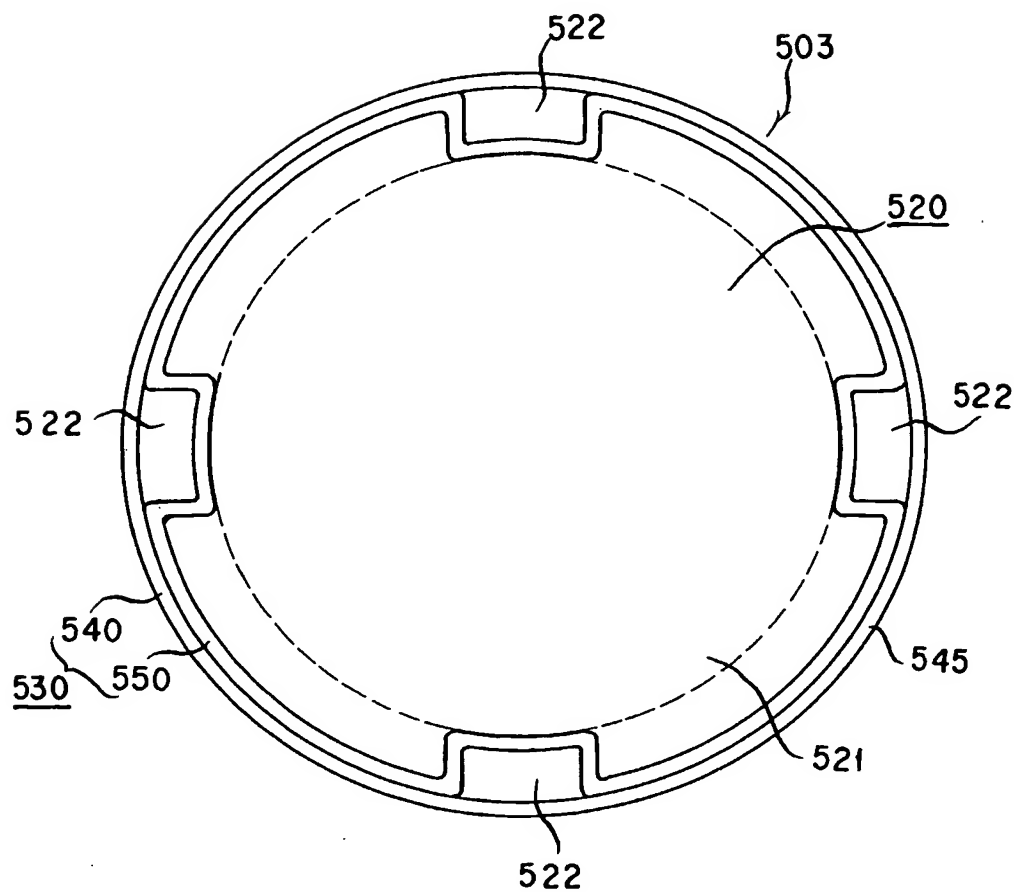


FIG. 48B

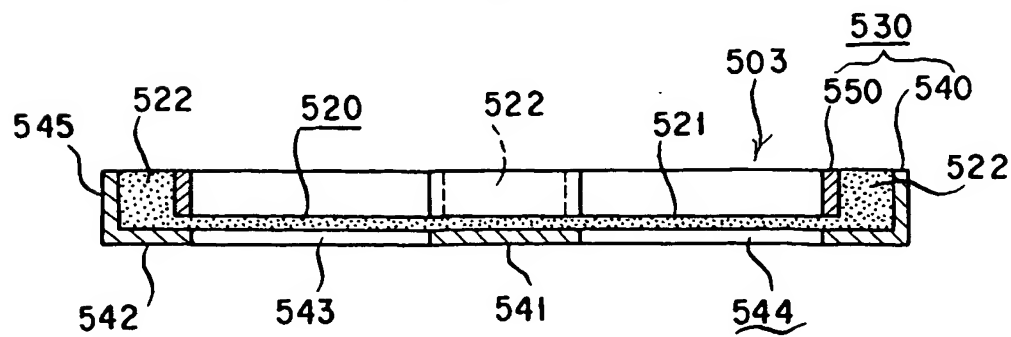
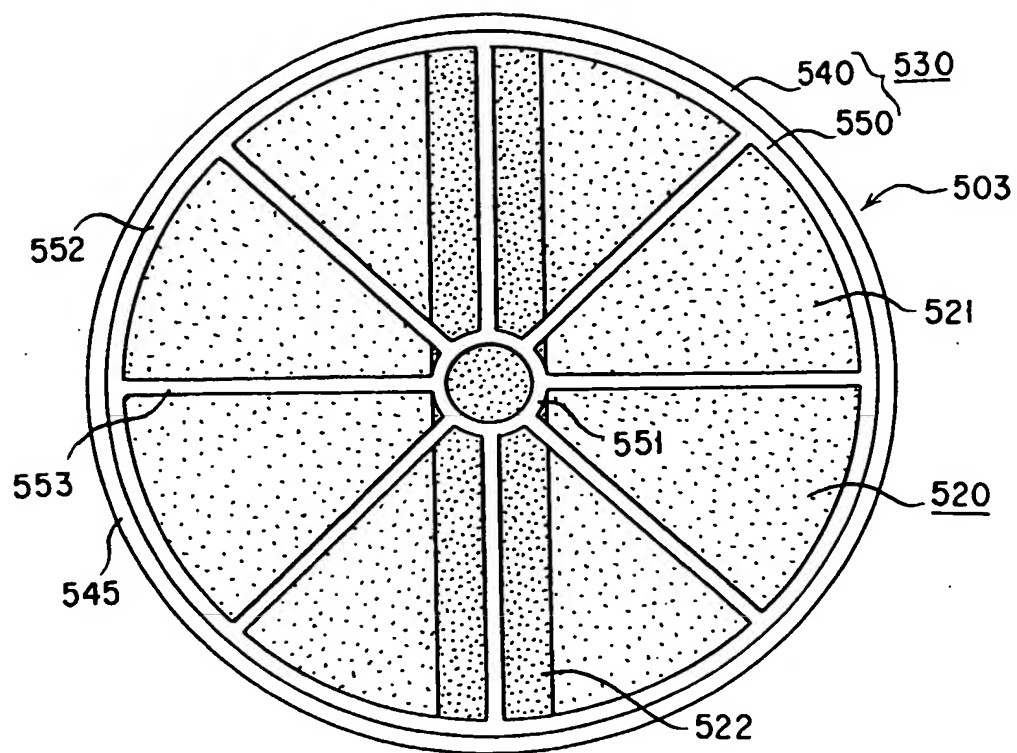


FIG. 49



41/55

FIG. 50

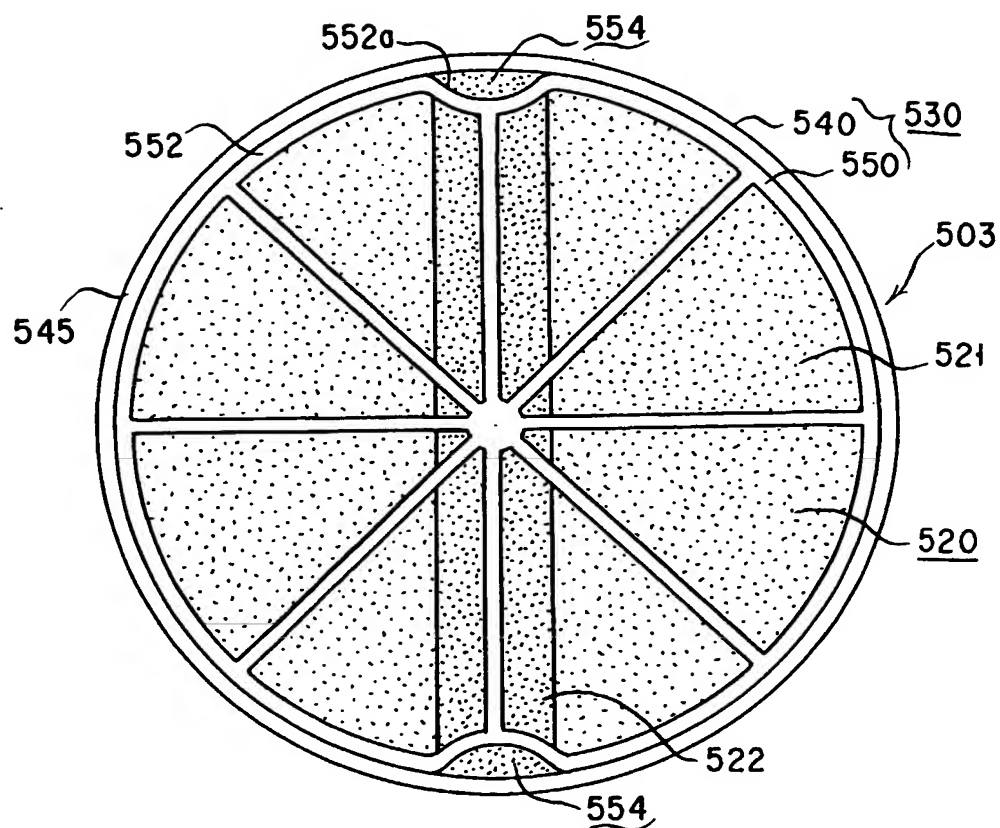


FIG. 51

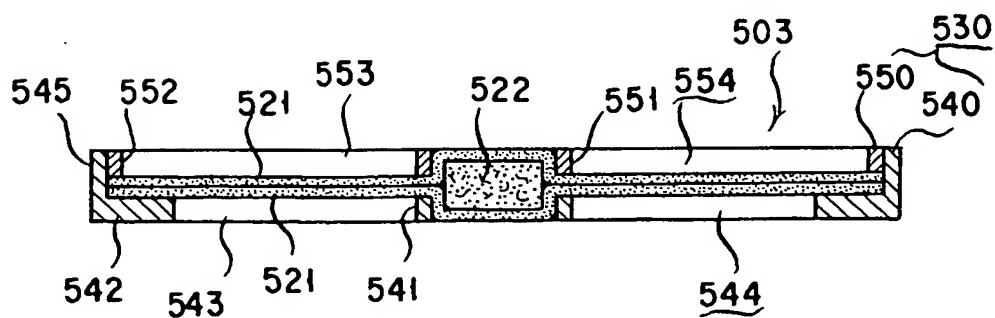


FIG. 52

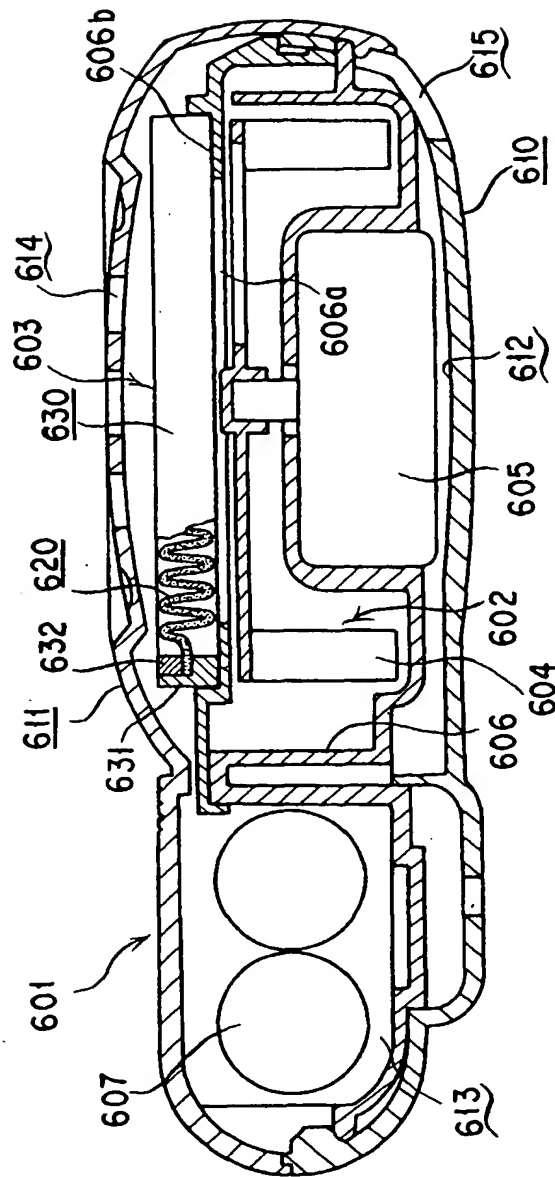


FIG. 53

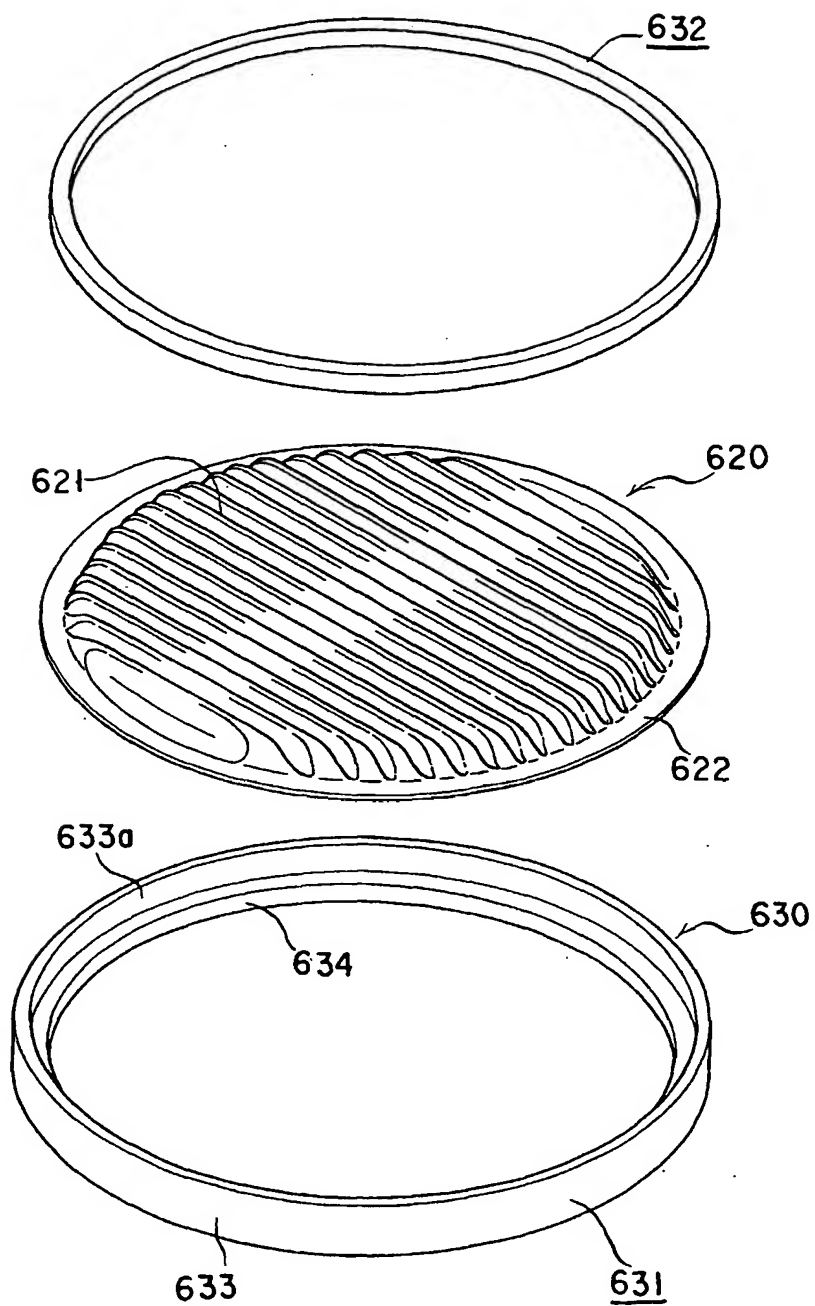


FIG. 54 LVI ↖

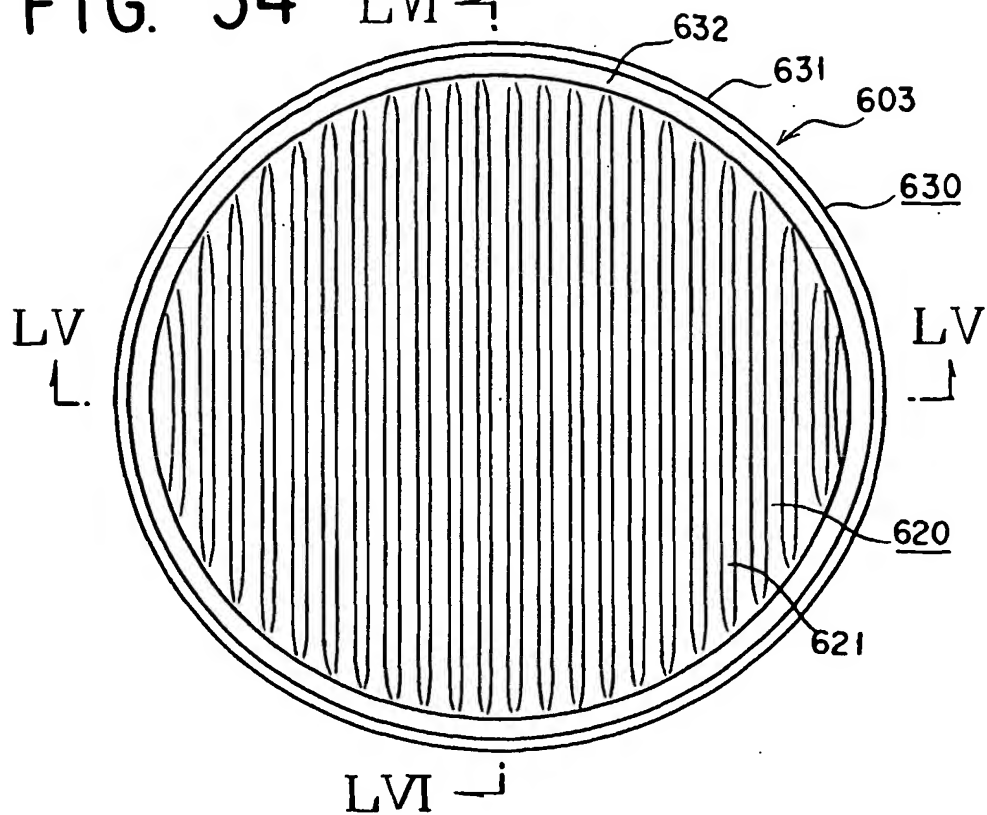


FIG. 55

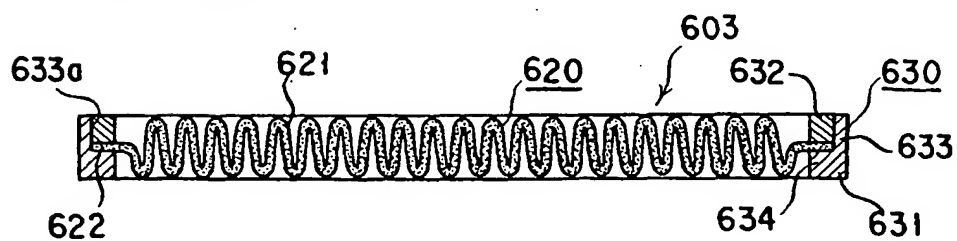


FIG. 56

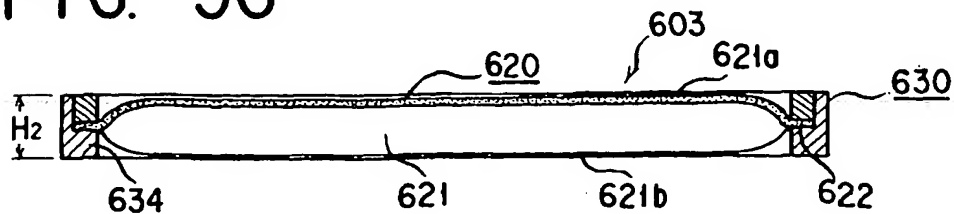


FIG. 57

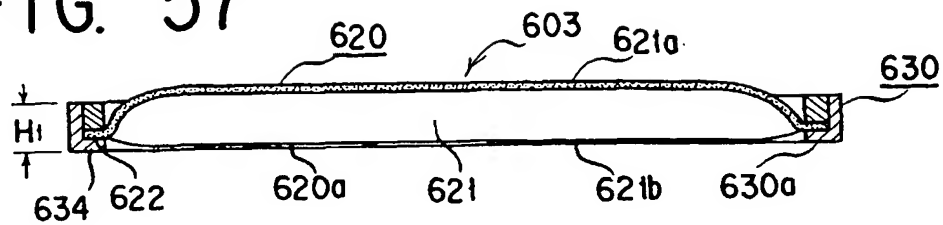


FIG. 58

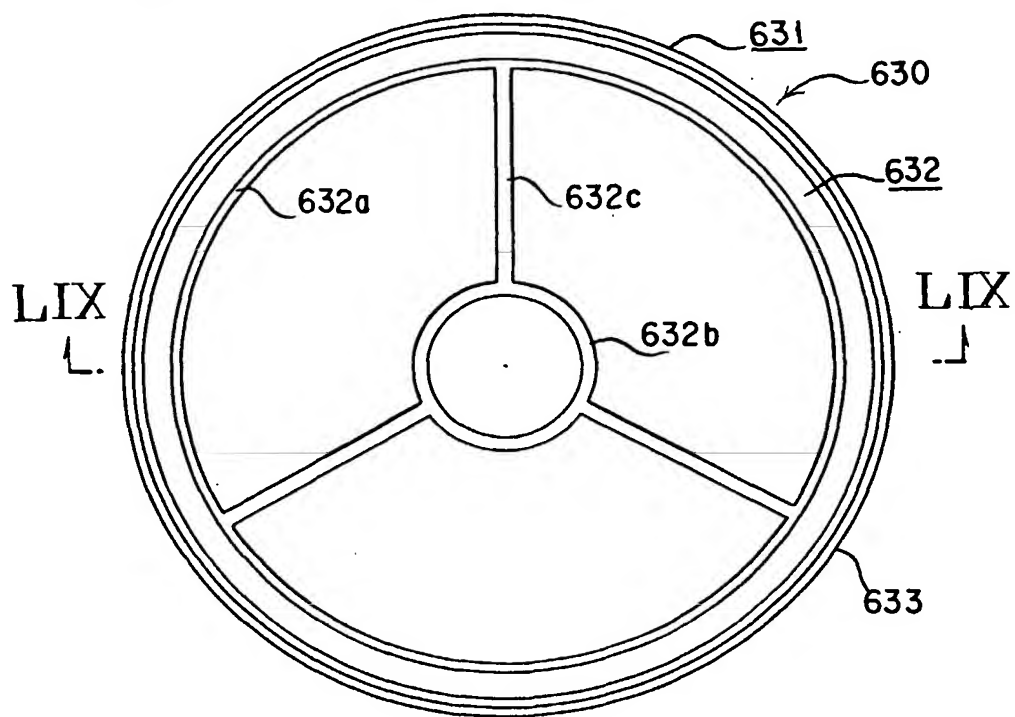


FIG. 59

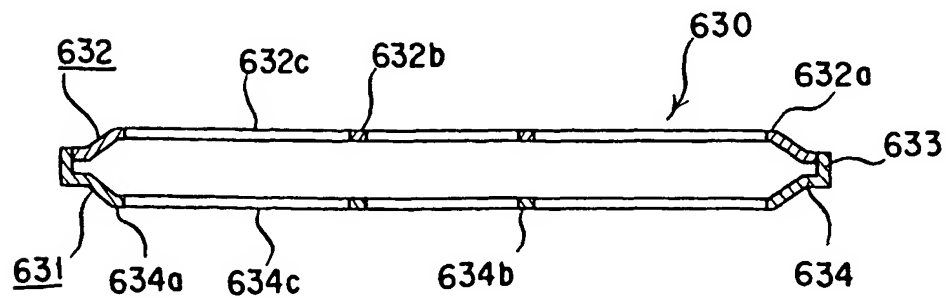


FIG. 60

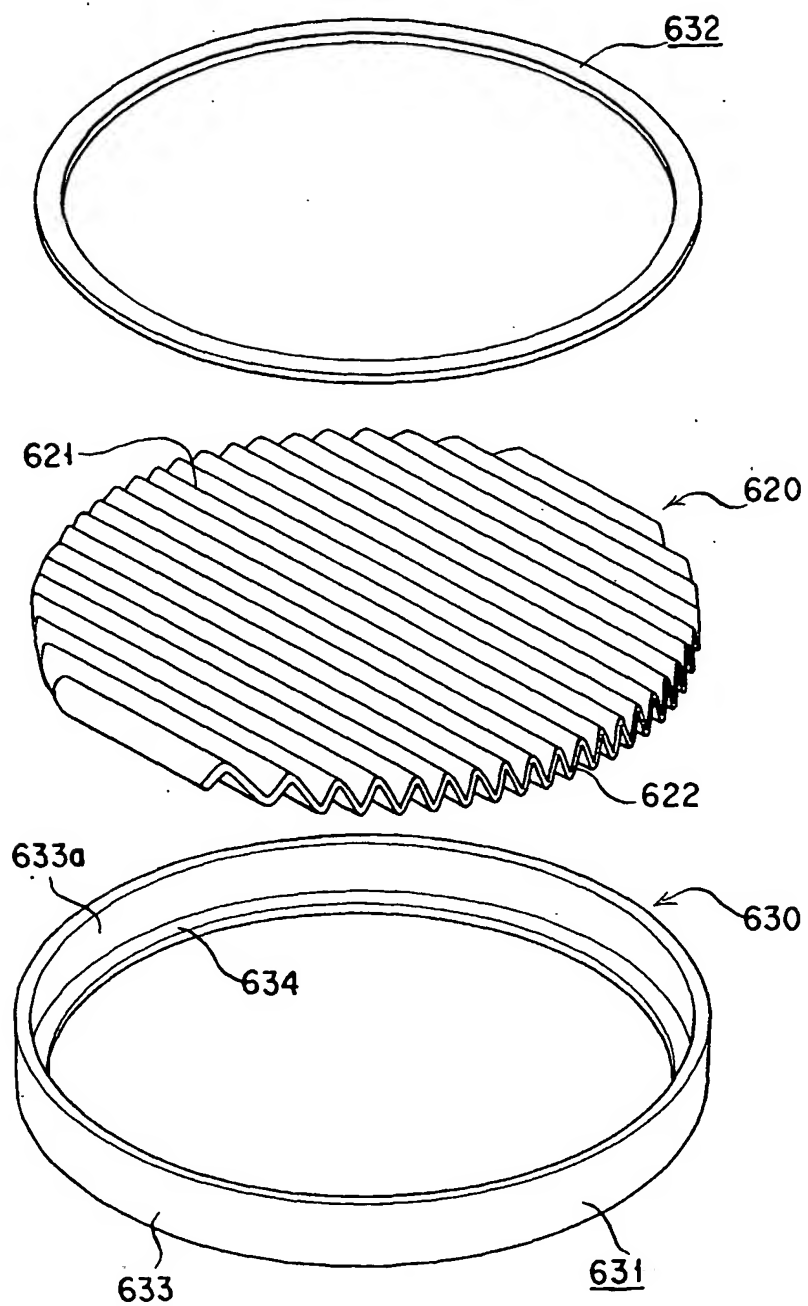


FIG. 61

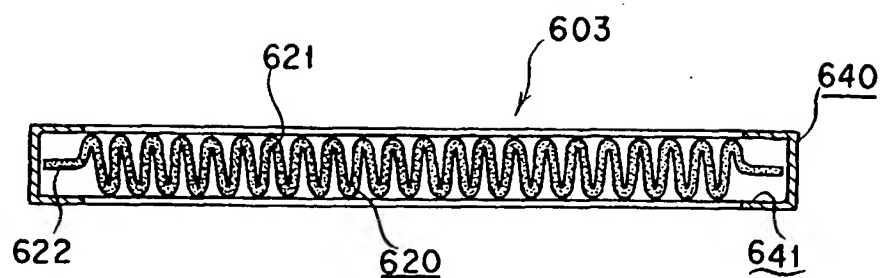


FIG. 62

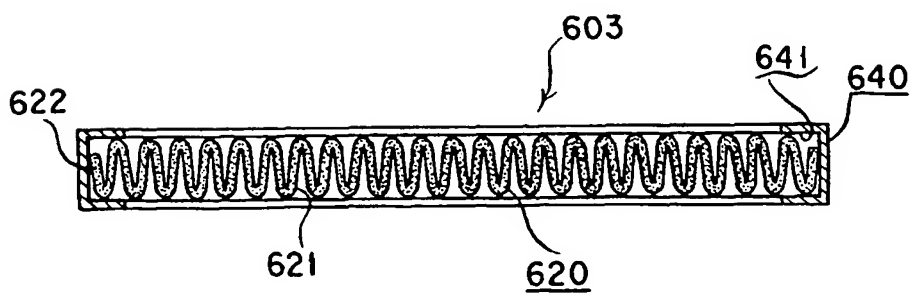


FIG. 63

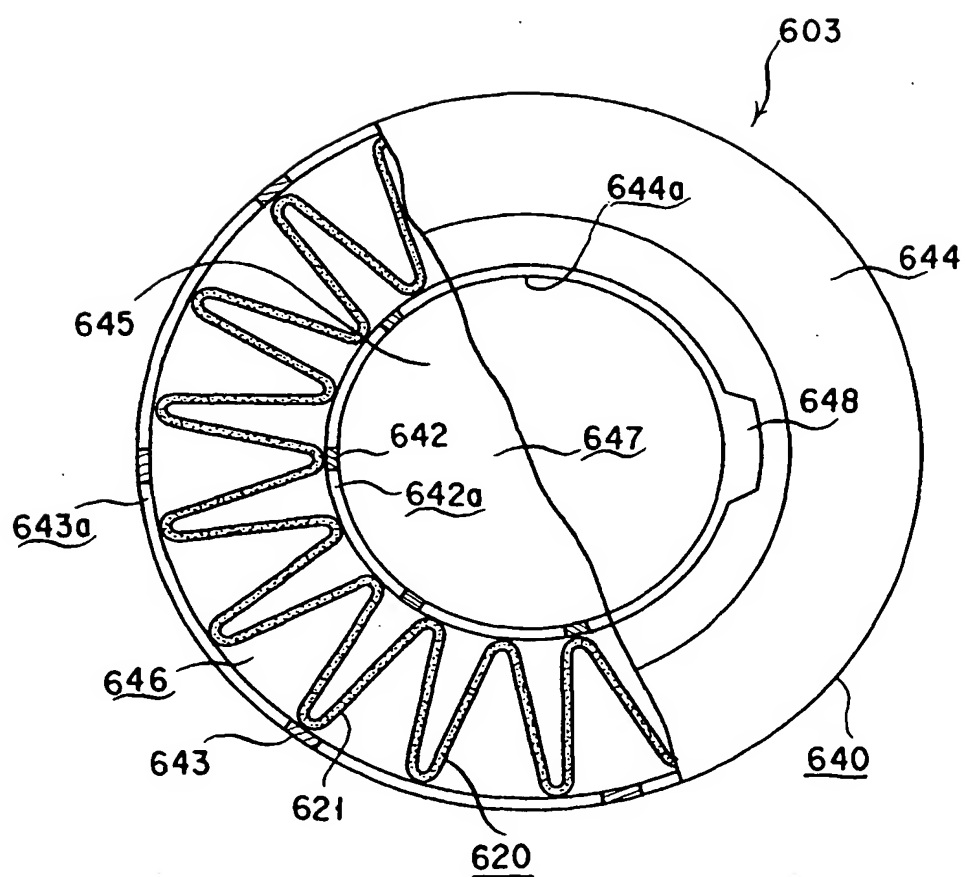
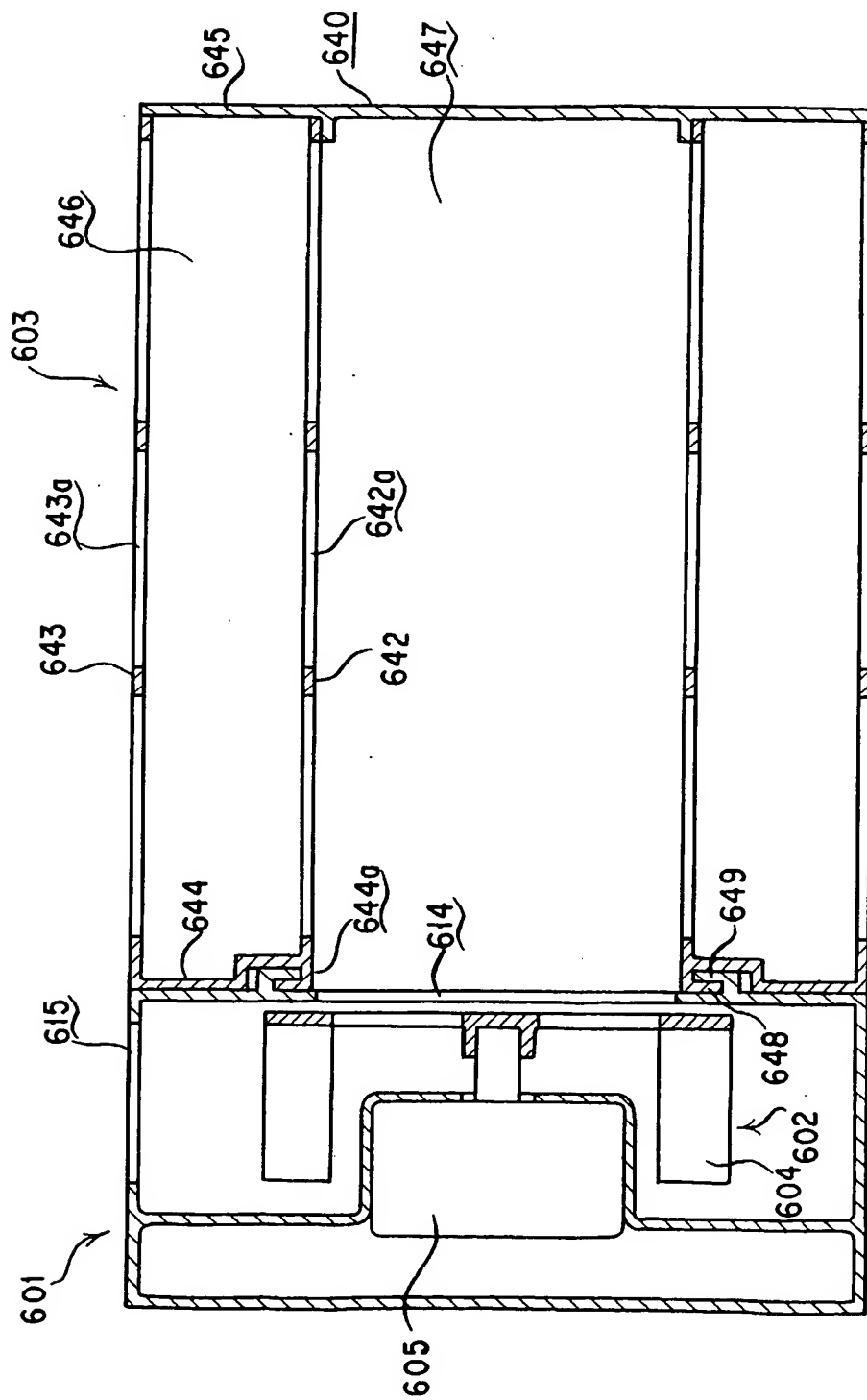


FIG. 64



50 / 55

FIG. 65

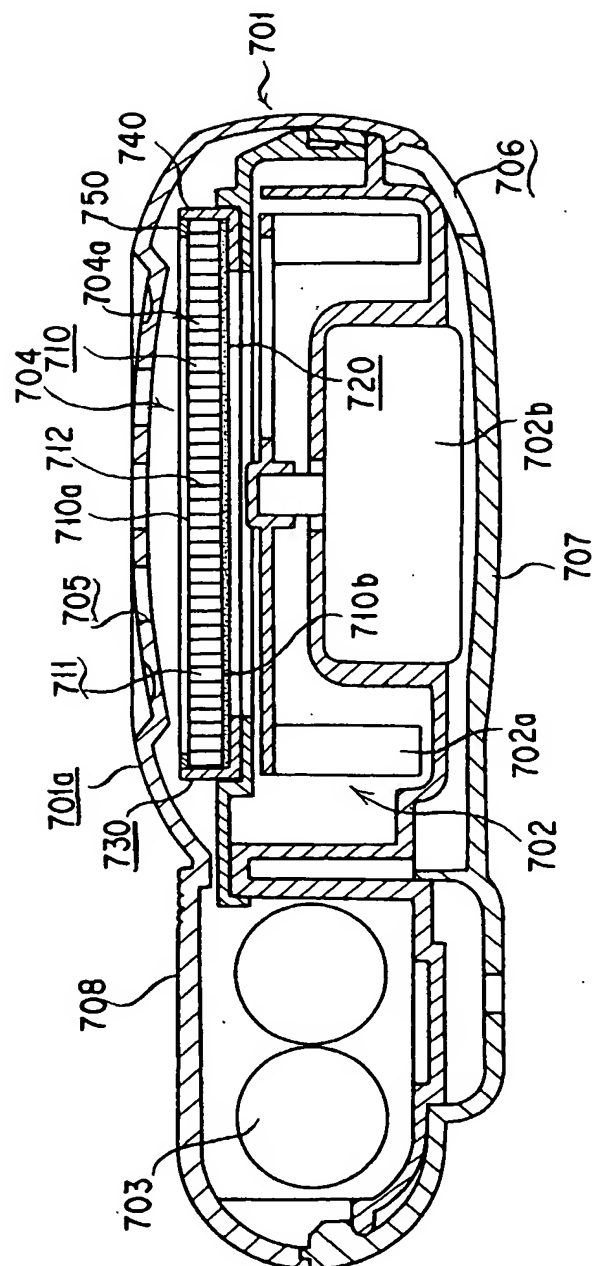


FIG. 66

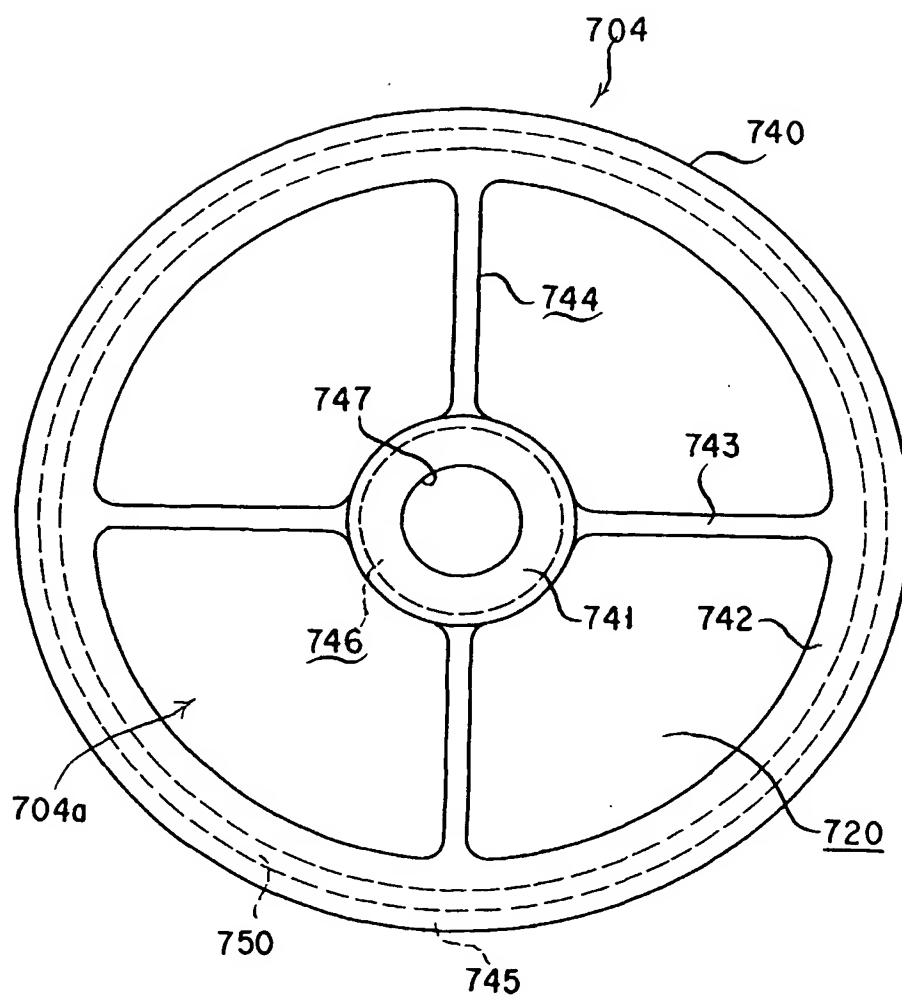


FIG. 67

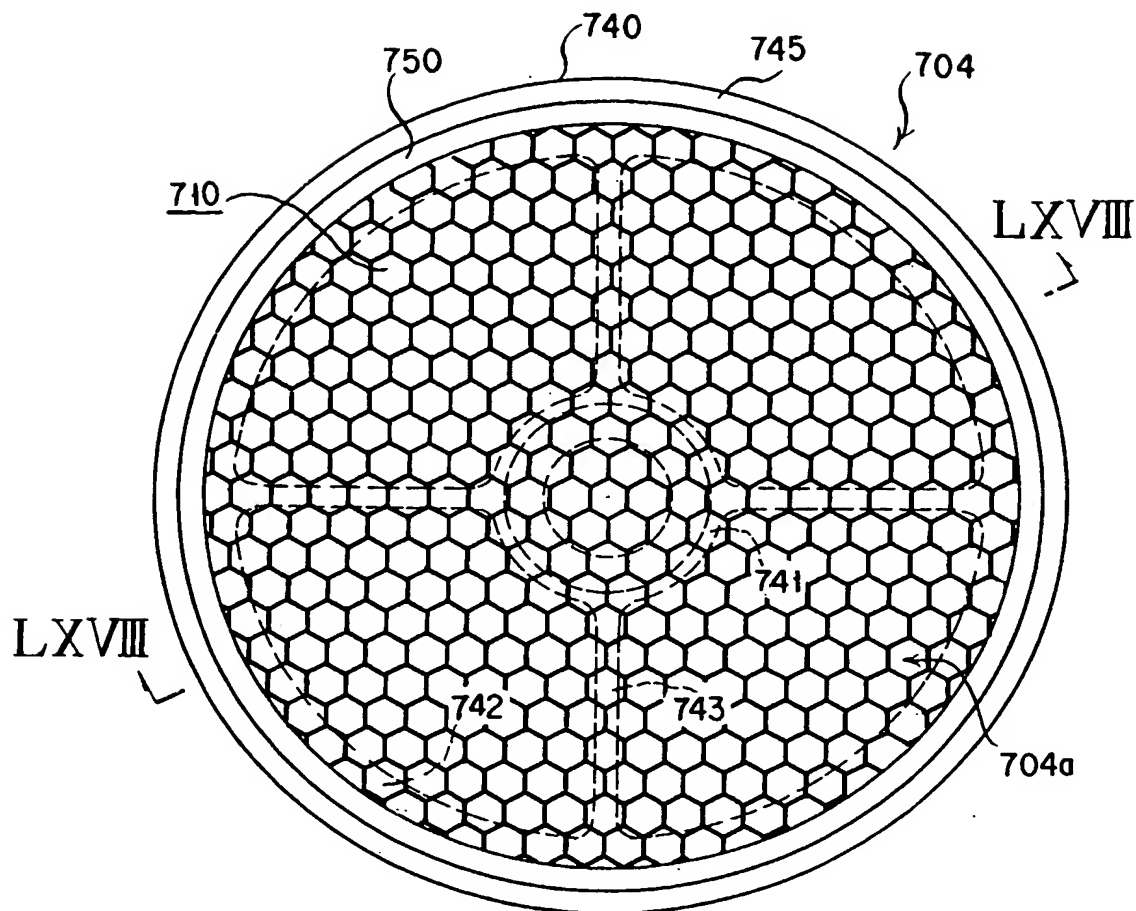


FIG. 68

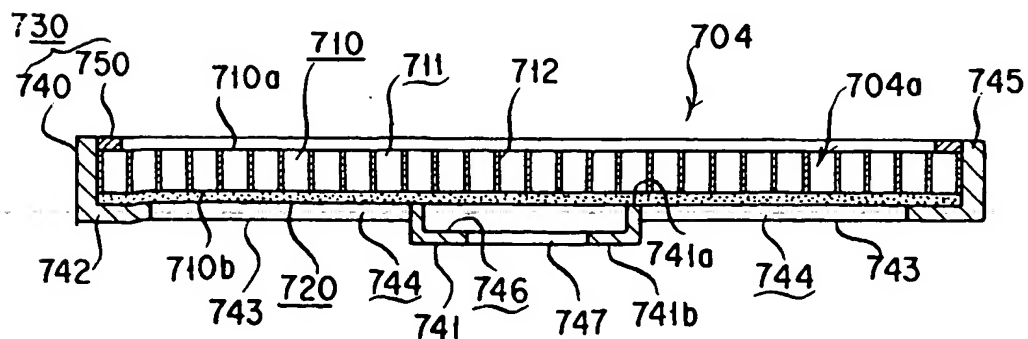


FIG. 69

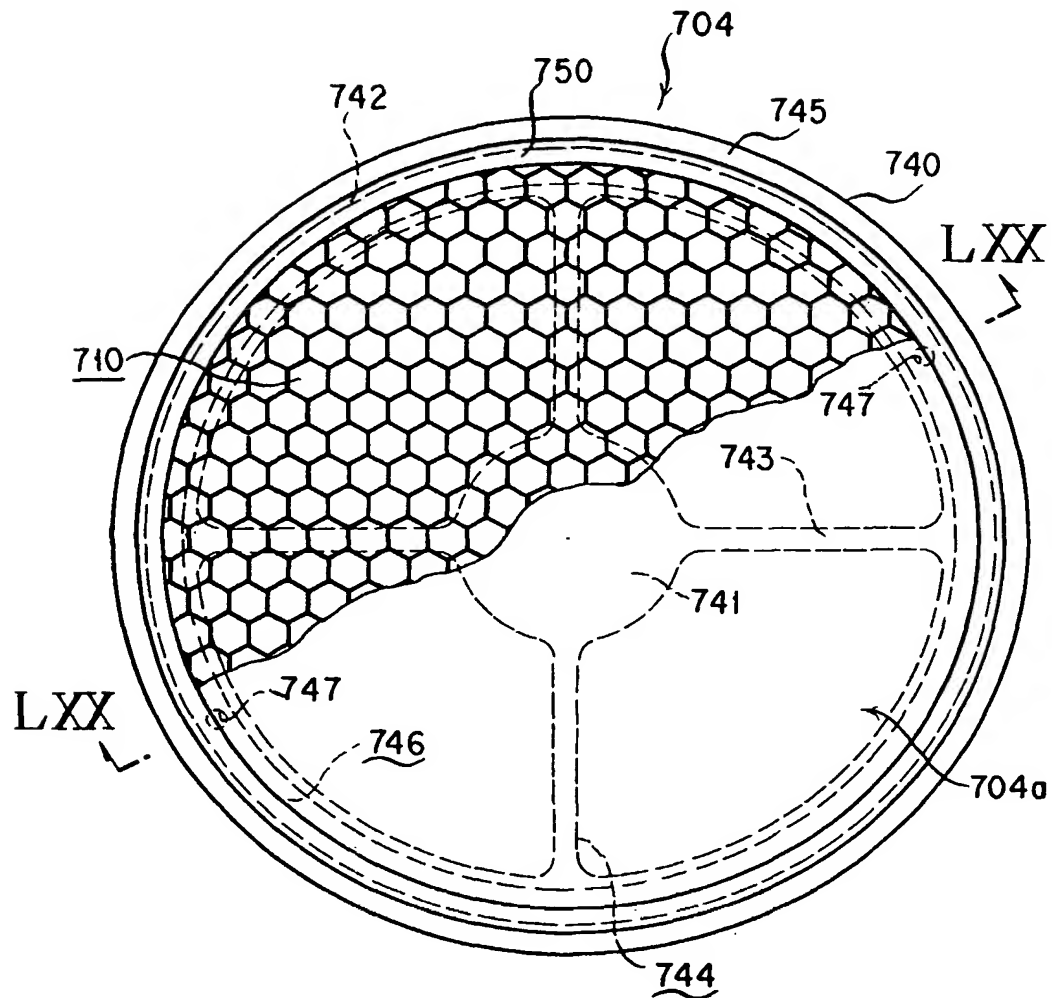


FIG. 70

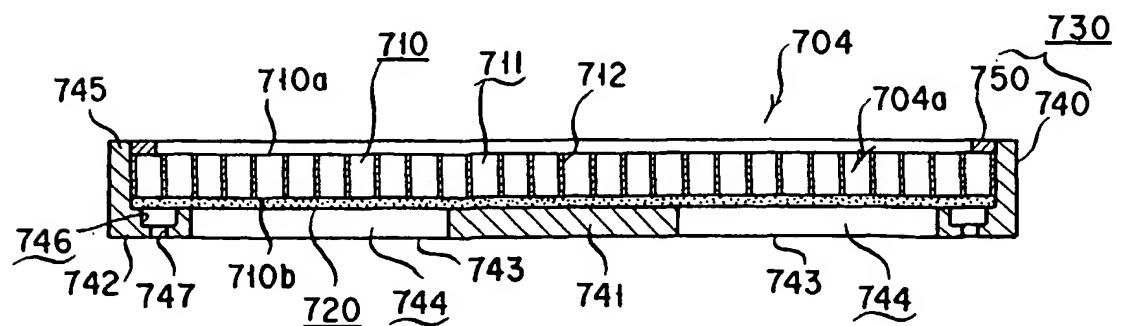


FIG. 71

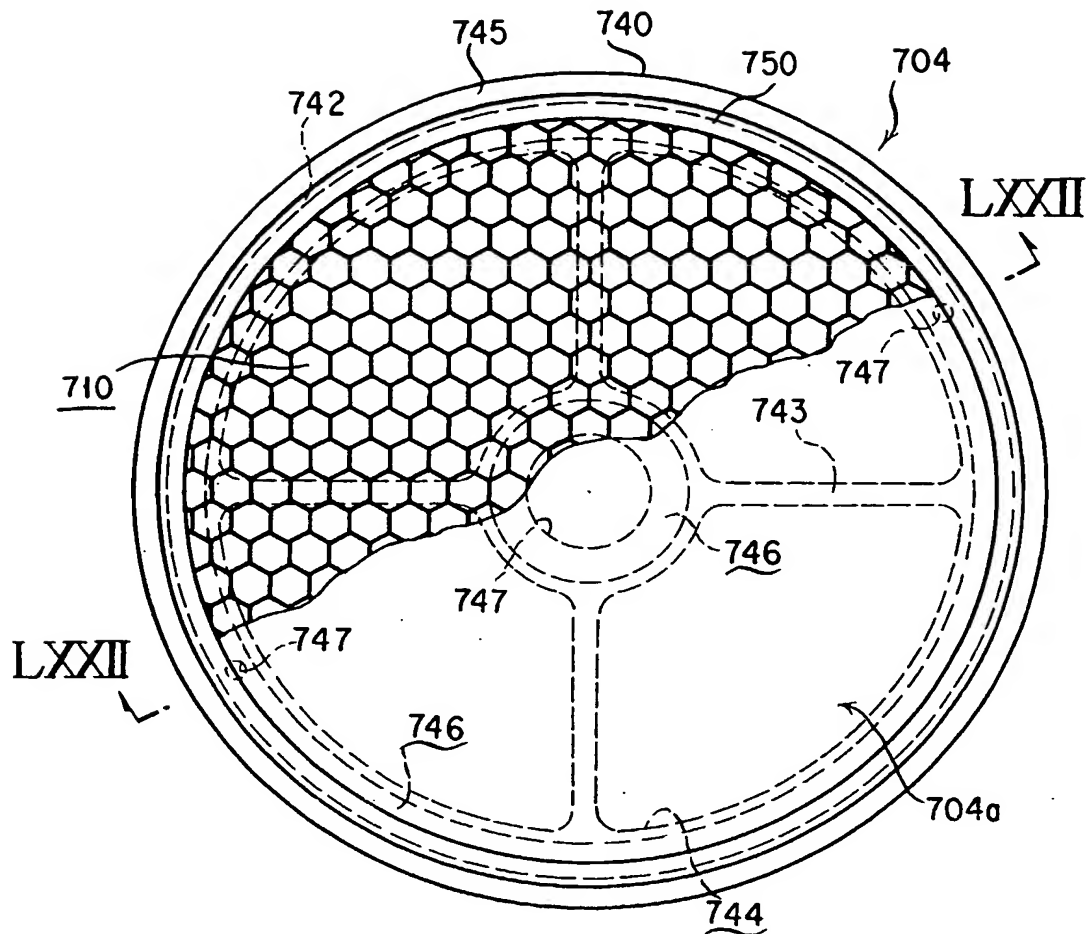
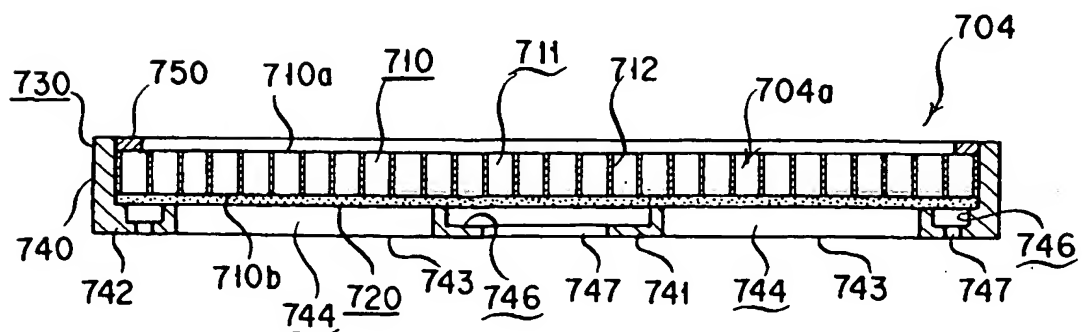


FIG. 72



THIS PAGE LEFT BLANK

55 / 55

FIG. 73

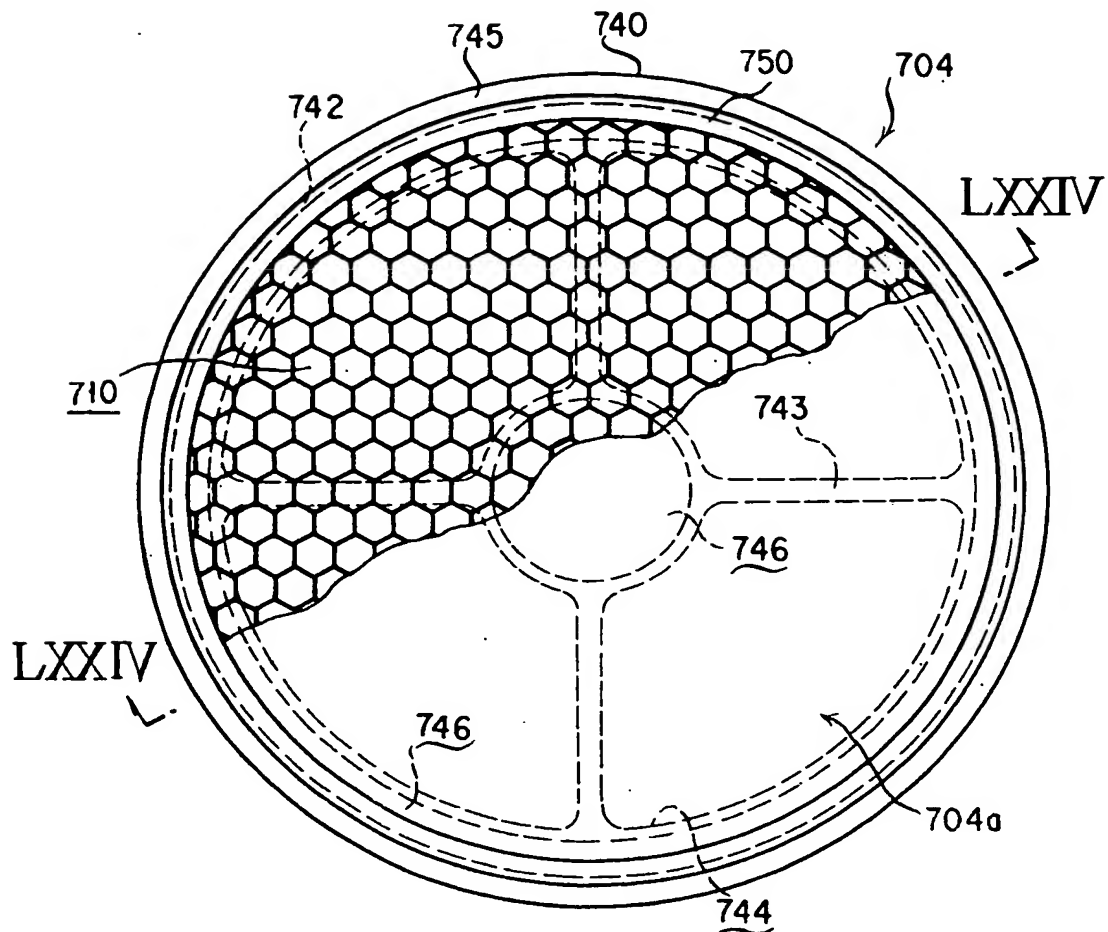
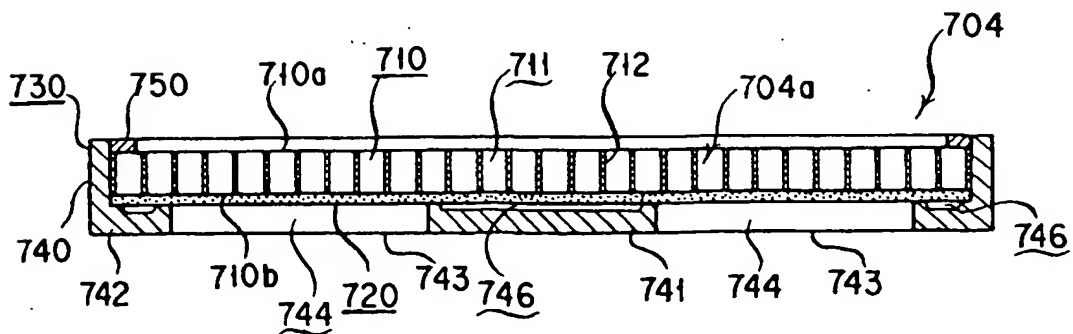


FIG. 74



THIS PAGE LEFT BLANK